

はじめに

21世紀を迎え、区民生活を取り巻く環境は大きく変化しています。土地利用面では、産業構造の変化と地価下落の影響を受け、区内事業所の跡地や農地の集合住宅化が進んでいます。また、少子高齢化による人口構造と地域社会の変化は、行政への新たな課題を生み出しています。

板橋区では、平成7年に策定した基本構想の実現に向けて、さまざまな施策を推進しておりますが、この間の景気の低迷により区財政は極めて深刻な状況に至っております。

こうした社会経済状況の変化と新たな行政需要に対応し、板橋区の持続的な発展をめざして、区民と区のまちづくりの目標となる新たな基本構想と、その実現に向けた基本計画の策定に取り組んでいます。

この取り組みの一環として、区民のみなさまから広くご意見をいただくために、昨年10月に「区民意識意向調査」を実施いたしましたが、このほど調査結果がまとまりましたので、お知らせします。

本調査結果は、現在、区民参加で行われている基本構想ワークショップでの議論、また、平成16年度に設置する長期基本計画審議会での審議に活かして参ります。

本調査にご協力いただきました、たくさんの区民のみなさまに感謝申し上げますとともに、今後も区政へのご協力をお願いいたします。

平成16年3月

板橋区政策経営部

目次

第1章 調査の概要	1
1. 調査目的	1
2. 調査方法	1
3. 回収結果	1
4. 本報告書を読むにあたって	2
5. 回答者の属性	6
第2章 調査結果の要約	1 1
第3章 調査結果	1 7
第1部 生活に関する満足度	1 7
1. 全体集計結果	1 7
2. 分野別集計結果	2 1
第2部 定住意向と重点施策分野	3 4
1. 定住意向結果	3 4
2. 施策分野に対する区民意識	3 6
3. 区が重点的に進めるべき施策	3 8
第3部 将来像に対する意識	4 4
1. まちの姿	4 4
(1) まちづくり	4 4
(2) 環境	4 6
(3) 「まちの姿」の将来像についての自由意見集計結果	4 8
2. 人の暮らし	6 2
(1) 子育て環境	6 2
(2) 学校教育	6 4
(3) 産業振興	6 6
(4) 高齢社会	6 8
(5) 「人の暮らし」の将来像についての自由意見集計結果	7 1

3 . し く み	8 7
(1) まちづくりへの関心	8 7
(2) 区民意見の反映	8 8
(3) 区民参加	8 9
(4) 区と区民との協働	9 0
(5) コミュニティ	9 1
(6) 「し く み」の将来像についての自由意見集計結果	9 2
 第 4 部 その他自由意見の結果	 1 0 6
 使用した調査票	 1 0 9
 参考資料	 1 3 1
■ 公共施設調査、タウンモニター・e モニター調査の概要	

第1章 調査の概要

1. 調査目的

この調査は、平成18年度からスタートする新たな「板橋区基本構想・基本計画」の基礎資料として、区民の生活に関する満足度、区の将来像に対する意識、区政への要望・意識などを広く把握することを目的に行った。

2. 調査方法

- (1) 調査地域・・・板橋区全域
- (2) 調査対象・・・板橋区内に在住する満20歳以上の男女3,000人
- (3) 抽出方法・・・層化二段無作為抽出
- (4) 調査方法・・・郵送配布・郵送回収
- (5) 調査票・・・本報告書の109ページ参照
- (6) 調査期間・・・平成15年10月10日～10月31日
- (7) 調査機関・・・パシフィックコンサルタンツ株式会社
- (8) 調査の内容
 - ・生活に関する満足度について
 - ・定住意向について
 - ・重点的に進めるべき施策分野について
 - ・区の将来像について

3. 回収結果

- (1) 標本数・・・3,000人
- (2) 有効回収数・・・1,298人
- (3) 有効回収率・・・43.2%

回収締め切りの1週間前を目途に、全郵送先に対して回収督促状を1回発行した。

4. 本報告書を読むにあたって

- (1) 調査結果の数値は、原則としてパーセンテージ(%)で表記した。%値の母数は、原則としてその質問に対する回答者数(回答すべき人の数)であり、図表では、「n」と表示している。
 - (2) 本報告書では、マイナス記号に「▲」を使用している。
 - (3) 回答の比率(%)は、小数点以下第2位を四捨五入し、小数点第1位までを表示している。またスコア化した数値では、小数点以下第3位を四捨五入し、小数点第2位までを表示している。したがって、比率の合計は必ずしも100.0%ではない場合(99.9%または100.1%など)がある。また「0.0」は±0.05未満の数値を示し、小数点2桁以下の数値によってマイナス記号がつき、「▲0.0」と表記される場合がある。
 - (4) 図表中の選択肢の内容について、一部省略している場合がある。また、図の一部において、構成比の少ない項目の構成比の値を省略している。
 - (5) 標本抽出法による調査の場合は、ここで示された数値(%)をそのまま20歳以上の全区民の回答として単純に置き換えると、多少の誤差を生じる。そこで、次式により標本誤差を計算して、20歳以上の全区民の回答を推測する。
- なお、標本誤差は、比率算出の基数(n)及び回答比率(P)によって異なってくる。

$$b = \pm 2 \sqrt{2 \frac{N - n}{N - 1} \times \frac{P(100 - P)}{n}}$$

b = 標本誤差

N = 母集団数(427,064)

n = 比率算出の基数(1,298)

P = 回答比率

母集団とは、20歳以上の区内在住者の総数を表す。

(平成15年3月31日現在)

標本誤差の計算結果が下表であり、「全体の回答者数1,298人のある設問中の回答比率が50%であった場合、その回答比率の誤差は±3.9%(最大で3.9%)である」ことを示す。

回答の比率	標本誤差
10%または90%	±2.4
20%または80%	±3.1
30%または70%	±3.6
40%または60%	±3.8
50%	±3.9

(6) 分析に際して、回答者の居住地域に関して、回答内容を集約して行ったものがある。
集約した内容は、以下のとおりである。

【回答項目】(出張所管内)

板橋・熊野・仲宿・仲町・富士見出張所管内
大谷口・常盤台・桜川出張所管内
清水・志村坂上・中台・前野出張所管内
下赤塚・成増・徳丸出張所管内
蓮根・舟渡・高島平出張所管内

【集約項目】(地域区分)

板橋地域
常盤台地域
志村地域
赤塚地域
高島平地域

なお、この地域区分は以下のとおりである。



第1章 調査の概要

(7) 調査票では、区民の生活に対する満足度を把握する項目を49取り上げた。

調査項目として取り上げた施策は、区政の全分野にわたるものであり、区民にわかりやすい表現で示した。

この報告書では、次のように調査項目を省略している。

また49の項目は、6の政策分野に区分される。

(調査票に表記した質問項目)

1	憩える公園や緑地があり、自然環境が整っている
2	空気や水がきれいで安心して生活できる
3	まちなみや景観が美しい
4	ごみ出しのルール(分別・曜日・場所等)が守られている
5	リサイクルが進んでいる
6	健康づくりに取り組みやすい
7	休日・夜間も含め、安心して医療が受けられる
8	衛生上の不安なく食品が入手できる
9	高齢者のための福祉サービスが整っている
10	障害者のための福祉サービスが整っている
11	子どものための福祉サービスが整っている
12	高齢者・障害者が生きがいを持って社会参加できる
13	すべての人が生活しやすいよう、バリアフリーのまちづくりが進められている
14	子育てしやすい環境が整っている
15	時代の変化に即応した製品やサービスがある
16	魅力のある商店街が身近にある
17	地域の工業に活力がある
18	農地が保全され、活用されている
19	すべての人にとって働きやすい環境が整っている
20	消費生活におけるトラブルが少ない

(省略項目名)

(政策分野名)

公園・緑地・自然	環境
空気・水	
まちなみ・景観	
ゴミ出しルール	
リサイクル	
健康づくり	健康・福祉
医療体制	
食品衛生	
高齢者福祉	
障害者福祉	
児童福祉	
高齢者・障害者の社会参加	
バリアフリー	産業・消費生活
子育て環境	
時代に即応した産業	
魅力ある商店街	
活力ある工業	
農地の保全・活用	
労働環境	
消費生活	

(調査票に表記した質問項目)

21	健康で人間性豊かな子どもが育っている
22	家庭・地域・学校が協力して子育てに取り組んでいる
23	生涯学習に取り組みやすい
24	スポーツに取り組みやすい
25	地域社会にふれあいと交流がある
26	伝統芸能が受け継がれている
27	歴史的文化財が保存・活用されている
28	芸術文化に親しみやすい
29	国際交流が進んでいる
30	平和に関する意識が高い
31	家事・育児・介護を男女が協力して行っている
32	男女が平等に社会活動に参加することができる
33	区政に関する情報を容易に得ることができる
34	区政が身近だと感じる
35	ボランティア活動がしやすい
36	まちづくりや区の計画づくりへの参加機会が充実している
37	区の職員の対応が良い
38	インターネットや電子メールなど情報通信技術が普及している
39	板橋区に愛着を感じる
40	板橋区が他の自治体に比べて誇れると感じる
41	大雨が降っても水害の不安が少ない
42	犯罪から守られている
43	地震の時、建物倒壊や火災の延焼等の不安が少ない
44	防災意識が高い
45	電車やバスが便利に利用できる
46	身近な道路が安全である
47	自転車利用のマナーが守られている
48	住居の広さが十分である
49	身近なまちが快適で魅力のある生活空間である

(省略項目名)

(政策分野名)

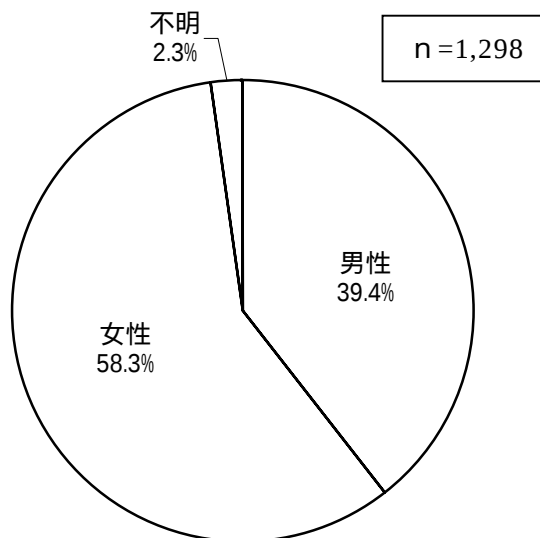
こどもの健全育成	教育・文化・交流・男女平等
地域連携による子育て	
生涯学習	
スポーツ	
地域社会の交流	
伝統芸能	
歴史的文化財	
芸術文化	
国際交流	
平和意識	
家事・育児の男女協力	公開・参加・行政経営
男女平等の社会参加	
区政情報の入手	
区政への親近感	
ボランティア活動	
区計画への参加機会	
区職員の対応	
IT普及状況	
区への愛着	
区への誇り	防災・まちづくり・住宅
水害対策	
防犯対策	
震災に強いまち	
防災意識	
公共交通	
道路の安全	
自転車マナー	
住居の広さ	
快適なまち	

5. 回答者の属性

●男女の割合

「問7 あなたの性別をお知らせください。(○印は1つだけ)」

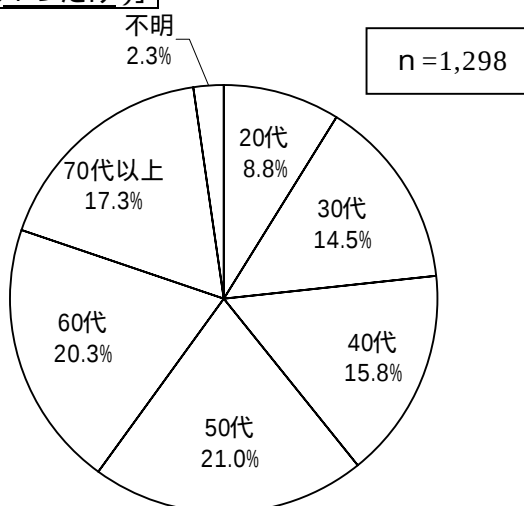
男性が39.4%(511人)、女性が58.3%(757人)とやや女性の方が多い。



●年代別の割合

「問7 あなたの年代をお知らせください。(○印は1つだけ)」

50代が21.0%(273人)と最も多く、次いで60代の20.3%(263人)、70代以上の17.3%(225人)となっており、50代以上の回答者が半数以上を占めている。



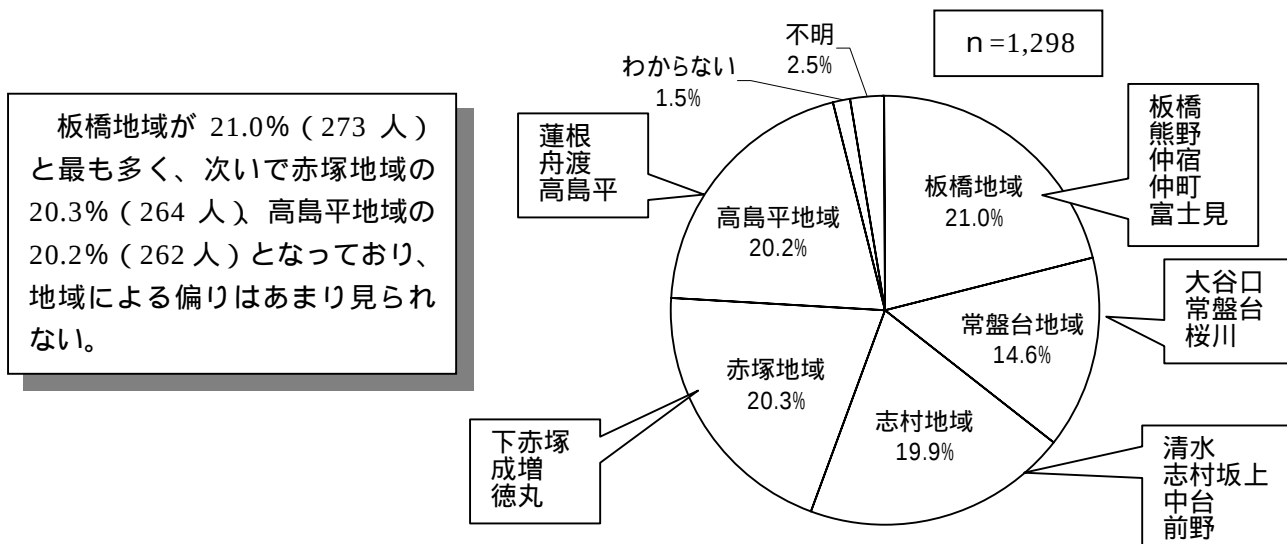
●地域別の割合

「問7 あなたは板橋区のどの出張所管内にお住まいですか。(○印は1つだけ)」

(出張所別回答者数)

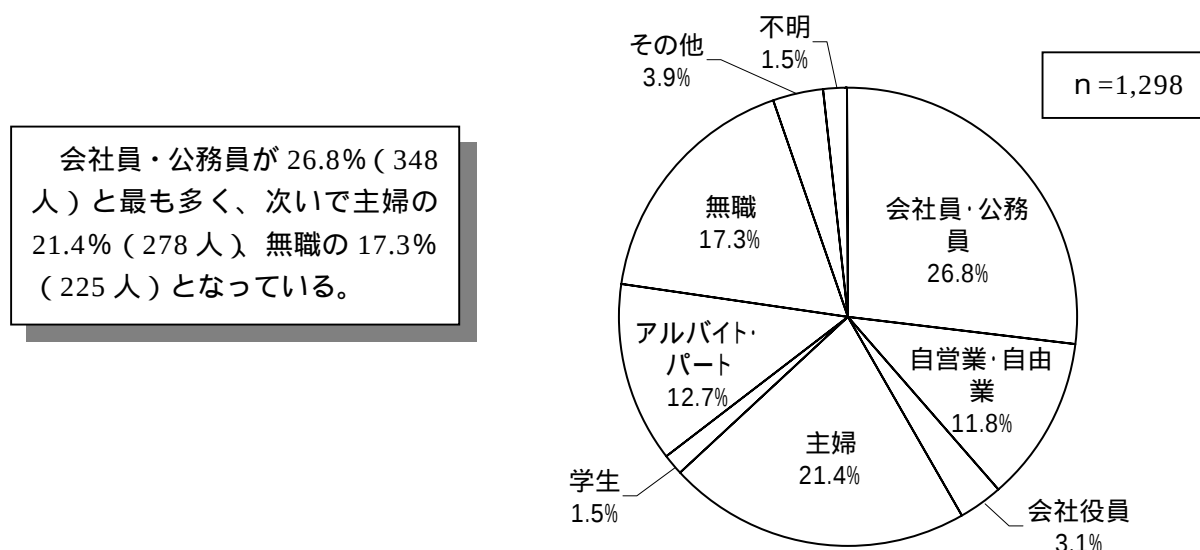
地域名	出張所名	回答者数	地域名	出張所名	回答者数
板橋 273人	板橋	98	赤塚 264人	下赤塚	80
	熊野	45		成増	92
	仲宿	47		徳丸	92
	仲町	47		蓮根	97
	富士見	36	高島平 262人	舟渡	20
常盤台 189人	大谷口	80		高島平	145
	常盤台	66		わからない	19
	桜川	43		無記入	33
志村 258人	清水	40		合計	1,298
	志村坂上	75			
	中台	77			
	前野	66			

第1章 調査の概要



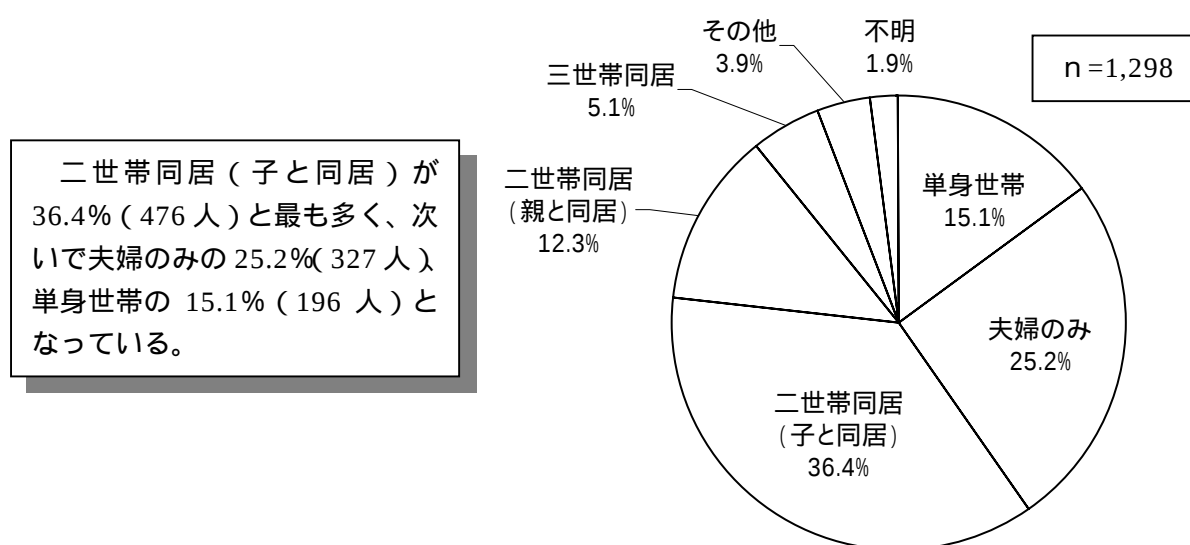
● 職業別の割合

「問7 あなたのお仕事は次のどれですか。(○印は1つだけ)」



● 世帯構成別の割合

「問7 あなたの自宅の世帯の構成をお知らせください。(○印は1つだけ)」

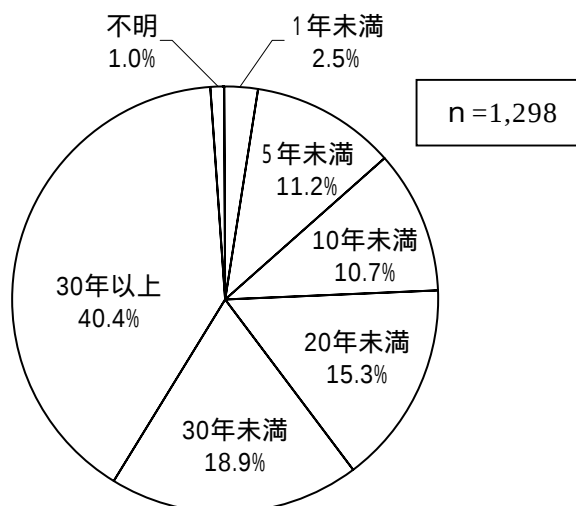


第1章 調査の概要

● 居住年数別の割合

「問7 板橋区に住んでどれくらいになりますか。(○印は1つだけ)」

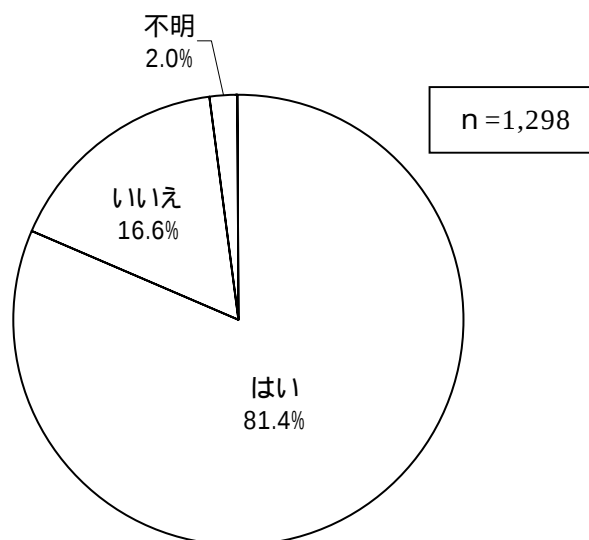
30年以上が40.4%(525人)と最も多く、次いで30年未満の18.9%(245人)、20年未満の15.3%(198人)となっている。



● 「広報いたばし」の閲読状況

問7 「広報いたばし」は、ご覧になりますか。(○印は1つだけ)

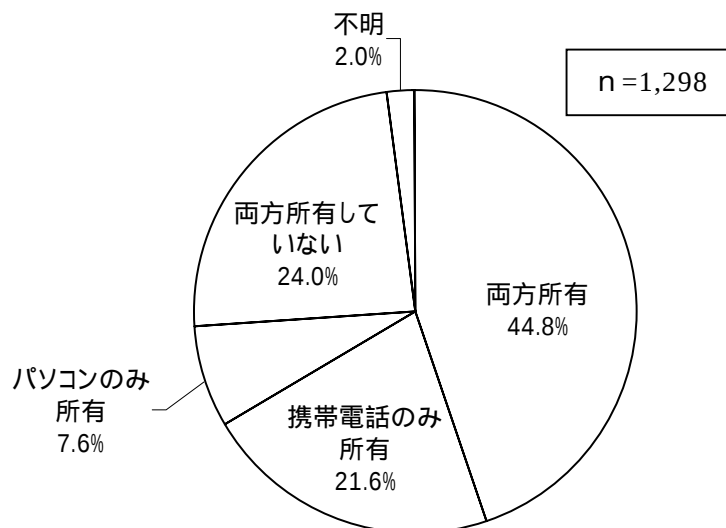
「広報いたばし」を見ていると答えた人が81.4%(1057人)と、見ていないと答えた人の16.6%(215人)を大きく上回った。



● 携帯電話・パソコンの所有状況

問7 携帯電話・パソコンを所有していますか。(○印は1つだけ)

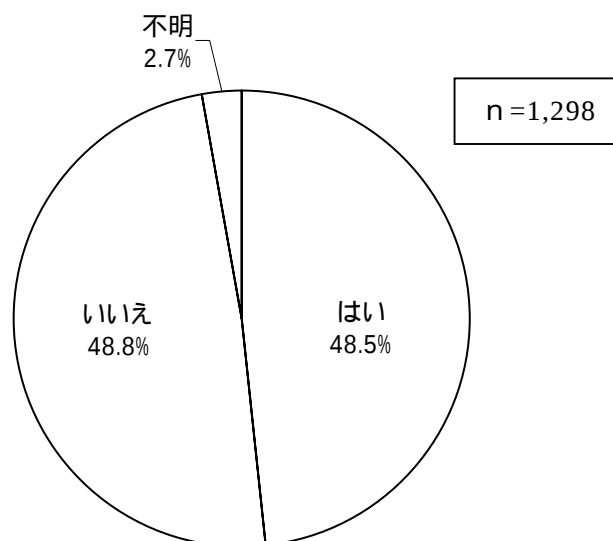
携帯電話・パソコンの両方を所有している人が44.8%(581人)と最も多く、次いで両方とも所有していない人の24.0%(312人)となっている。



●インターネットの自宅での接続状況

問7 ご自宅でインターネットへの接続は、していますか。(○印は1つだけ)

自宅でインターネットに接続している人が48.5%(629人)、接続していない人が48.8%(634人)とほぼ同数となった。



第2章 調査結果の要約

1. 生活に関する満足度（問1）

区民の生活に関する満足度を把握するため、6つの分野（「環境」「健康・福祉」「産業・消費生活」「教育・文化・交流・男女平等」「公開・参加・行政経営」「防災・まちづくり・住宅」）より、49項目について、回答してもらった。

○区全体の傾向

「板橋区に愛着を感じる（0.71pt）」、「電車やバスが便利に利用できる（0.69pt）」、「大雨が降っても水害の不安が少ない（0.62pt）」の順に満足度が高く、また「衛生上の不安なく食品が入手できる（0.54pt）」、「ゴミ出しのルール（分別・曜日・場所等）が守られている（0.48pt）」、「憩える公園や緑地があり、自然環境が整っている（0.40pt）」も高い評価を得ていた。

逆に「自転車利用のマナーが守られている（▲0.86pt）」、「すべての人にとって働きやすい環境が整っている（▲0.51pt）」、「地震の時、建物倒壊や火災の延焼等の不安が少ない（▲0.43pt）」、「犯罪から守られている（▲0.41pt）」などの満足度が低くなっている。

「魅力ある商店街」については満足・不満、双方とも高い割合を示している。

カッコ内、平均スコア（17ページ参照）

○地域別・年代別に見られる傾向

《 環境分野 》

- ・「空気・水」「まちなみ・景観」に対する評価は70代以上が一番高く、若くなるにつれて低くなる。
- ・「公園・緑地・自然」「空気・水」「まちなみ・景観」に対する評価は高島平、赤塚、常盤台地域で高く、板橋、志村地域は低い。

《 健康・福祉分野 》

- ・「高齢者福祉」「障害者福祉」「児童福祉」など福祉に対する評価は常盤台地域で高く、赤塚地域が低い。
- ・「健康づくり」「医療体制」に対する評価は70代以上が高い。

《 産業・消費生活分野 》

- ・「魅力ある商店街」に対する評価は板橋地域でのみ高く、他の地域では低い。
- ・「農地の保全・活用」に対する評価は全体的に低いが、赤塚地域は他の地域より高い。

《 教育・文化・交流・男女平等分野 》

- ・「伝統芸能」「歴史的文化財」に対する評価は、赤塚地域で他の地域より高い。

《 公開・参加・行政経営分野 》

- ・「区政への親近感」「区職員の対応」「区への愛着」「区への誇り」などは70代以上で高く、20代・30代で低い。

《 防災・まちづくり・住宅分野 》

- ・「水害対策」に対する評価は、高島平地域が他の地域より低い。
- ・「道路の安全」に対する評価は、高島平地域が他の地域より高い。
- ・「快適なまち」に対する評価は50代で低い。

第2章 調査結果の要約

2. 定住意向（問2）

区民の現時点における生活の総合的な評価となる「住みやすさ」と、「定住意向」について回答してもらった。

○住みやすさ（問2）

「まあまあ住みやすい」と答えた人が58.9%（764人）と多く、「住みやすい」と答えた人17.9%（232人）を含めると、全体の8割近くの人が住みやすさにある程度満足していると言える。年代別に見ると50代の評価がやや低い。

○定住意向（問2）

「今後も住み続けたい」と答えた人が77.8%（1,010人）にのぼり、大多数の人が今後も板橋区に住み続けたいと考えていると言える。高齢の人ほど「区外に移り住みたい」と答えた人が少ない。

3. 施策分野に対する区民意識（問3）

区民が、どのような分野の施策が重要と考えているかを把握するため、6つの施策分野について点数（合計100点）を分配してもらった。

「健康・福祉」の平均点が21.4と最も高く、次いで「環境」の20.4点、「防災・まちづくり・住宅」の19.1点となっている。年代別に見ると、30代の「教育・文化・交流・男女平等」に対する平均点が高いことや年代が上がるにつれて、「健康・福祉」の平均点が上がるなどの特徴が見られる。

4. 区が重点的に進めるべき施策（問1・問2）

「住みよいまち」とするために、今後どのような施策を重点的に進めるべきか、また、どの項目の満足度を高めれば、総合的な住みやすさが上がるかを明らかにするため、「生活に関する満足度」（問1）の回答と「住みやすさ」（問2の回答）の関連性を明らかにし、「生活に関する満足度」と合わせて比較評価した。

「住みやすさ」との関連性では、「板橋区に愛着を感じる（0.58）」、「身近なまちが快適で魅力のある生活空間である（0.52）」、「板橋区が他の自治体に比べて誇れると感じる（0.51）」などが高い数値となっており、次いで「まちなみや景観が美しい（0.40）」、「身近な道路が安全である（0.39）」などが高い。

カッコ内の数値は、回帰係数（38ページ参照）

「住みやすさ」の評価を上げるために有効と考えられる項目であり、区が優先して進めるべき施策群であると考えられる『問題項目（住みやすさとの関連性が高く、生活に関する満足度が低い）』には、「身近なまちが快適で魅力のある生活空間である」、「まちなみや景観が美しい」、「身近な道路が安全である」、「子育てしやすい環境が整っている」、「防災意識が高い」、「空気や水がきれいで安心して生活できる」、「犯罪から守られている」、「地震の時、建物倒壊や火災の延焼等の不安が少ない」などがある。

5. 将来像について【まちの姿】(問4)

○まちづくり(問4)

将来の板橋区を考え、より良いまちづくりをすすめるために重要だと思うものを回答してもらった。

「高齢者や障害者も住み続けられる安全で快適な住宅・住環境の整備」が66.0%(857人)と最も多く、次いで「みどりを増やし良好な都市環境をつくる」の40.1%(520人)、「災害時に備え、避難場所や安全な道路をつくる」の37.8%(491人)となっている。

定住意向を反映して、緑化や防災面における良好な住環境の整備に対する期待が大きいことが伺える。

○環境(問4)

板橋区の環境をよくするうえで、区が力を入れるべきことについて回答してもらった。

「区内の幹線道路の渋滞緩和」が38.4%(499人)と最も多く、次いで「緑地や農地の保全」の34.5%(448人)、「川や湧き水など水辺の保全・創造」の33.1%(430人)となっている。

中山道、川越街道、環状7号線など幹線道路の大気汚染の低減が求められているとともに、都市に潤いをもたらす、緑地や水辺の重要性を示している。

○「まちの姿」の将来像についての自由意見(問4)

お住まいの地域について、将来の望ましいまちの姿と、その実現に向けて取り組むべきことを自由記述形式で回答してもらった。

述べられている意見(意見数:612)を項目別に分類すると、「憩える公園や緑地があり、自然環境が整っている」「身近なまちが快適で魅力のある生活空間である」「空気や水がきれいで安心して生活できる」「まちなみや景観が美しい」「身近な道路が安全である」「犯罪から守られている」に関する意見が多くなっている。

6. 将来像について【人のくらし】(問5)

○子育て環境(問5)

子育て支援のため、区が力を入れるべき施策について回答してもらった。

「児童手当・乳幼児医療費助成等、補助の充実」が38.8%(503人)と最も多く、次いで「保育園・学童保育所・児童館の施設の充実」の35.1%(455人)、「低年齢児保育の拡充など保育サービスの充実」の26.3%(341人)となっている。

年代別に見ると、20代・30代で「児童手当等補助の充実」の回答が特に多く、60代で「保育サービスの充実」が多くなっている。

行政に対する期待として、経済的支援と施設面での環境整備が求められている。

第2章 調査結果の要約

○学校教育（問5）

区立小・中学校での教育について、重要と思うことを回答してもらった。

「知識だけでなく、実験や体験による学習」が52.0%（675人）と最も多く、次いで「理解度に応じた学力不足を補う学習」の40.6%（527人）、「地域の人や様々な技術をもった人が参加する授業」の39.9%（518人）となっている。

年代別に見ると、20代・30代・50代では、「実験や体験による学習」が特に高く、また、40代で、「学力不足を補う学習」「習熟度別や学習テーマなどによる少人数教育」が他の年代より高くなっている。

学校選択制や少人数クラスなど、教育体制の変革よりも、児童・生徒一人ひとりの学習力を伸ばす学習内容に対する期待が大きいことが伺える。

○産業振興（問5）

産業振興として、区が力を入れるべき施策について回答してもらった。

「身近な商店街のにぎわいを生む商業の振興」が61.1%（793人）と最も多く、次いで「コミュニティ・ビジネスの育成」の45.4%（589人）が高くなっている。

年代別に見ると、20代・40代・50代で「5コミュニティ・ビジネスの育成」が特に高い。

くらしを支える産業として、生活に身近な振興策に対する期待が高くなっている。

○高齢社会（問5）

高齢化が進む中で、区が力を入れるべき施策について回答してもらった。

「高齢者の知識と経験を活かした働く場の充実」が38.8%（503人）と最も多く、次いで「寝たきり高齢者やひとり暮らしの高齢者への在宅サービスの充実」の31.5%（409人）、「高齢者サービスセンター・特別養護老人ホームなどの施設の充実」の30.4%（394人）、「道路・公共施設のバリアフリー化など高齢者や障害者等が利用しやすい環境の整備」の30.4%（394人）などが僅差で並んでいる。

元気な高齢者に対する施策と加齢に伴って必要となる生活支援の施策の充実について、併せて期待されている。

年代別に見ると、20代、40代、50代では、「高齢者の働く場の充実」が特に高い。50代・70代は、「高齢者サービスセンター・特別養護老人ホームなどの施設の充実」が高くなっている。

○「人のくらし」の将来像についての自由意見（問5）

将来の望ましいくらしと、その実現に向けて取り組むべきことを自由記述形式で回答してもらった。

意見（意見数：534）を項目別に分類すると、「高齢者・障害者が生きがいを持って社会参加できる」「高齢者のための福祉サービスが整っている」「健康で人間性豊かな子どもが育っている」「地域社会にふれあいと交流がある」「すべての人にとって働きやすい環境が整っている」「子育てしやすい環境が整っている」に関する意見が多くなっている。

7. 将来像について【しくみ】(問6)

○ まちづくりへの関心(問6)

板橋区のまちづくりについて、どのくらい関心があるか回答してもらった。

「大いに関心がある」が15.9%(206人)、「関心がある」が58.1%(754人)と、関心があるという回答が74%(960人)と多くを占める。

年代別に見ると、60代で「大いに関心がある」が24.0%(63人)と、他の年代と比較して多い。

○ 区民意見の反映(問6)

板橋区のまちづくりに、区民の意見が十分に反映されていると思うか回答してもらった。

「十分に反映されている」が1.2%(16人)、「反映されている」が44.9%(583人)と、反映されているという回答は、46.1%(599人)である。

反面、「まったく反映されていない」が4.0%(52人)、「あまり反映されていない」が42.3%(549人)と、反映されていないという回答は、46.3%(601人)である。評価が二つに分かれている。

年代別に見ると、70代以上で「十分に反映されている」「まあまあ反映されている」と、反映されているという回答が一番多い。また、20代から50代までは、反映されていないという回答が、反映されているを上回っている。

○ 区民参加(問6)

区政に意見を反映させる機会があれば、参加したいと思うか回答してもらった。

「積極的に参加したい」が6.3%(82人)、「関心のあるものには参加したい」が68.3%(887人)と、参加したいという回答が74.6%(969人)と多くを占める。

年代別に見ると、20代で「積極的に参加したい」「関心のあるものには参加したい」と、参加したいという回答が一番多く、年齢が上がるにつれて、参加したいという回答が少なくなっている。

○ 区と区民との協働(問6)

区と区民が協働してまちづくりを進めていくために重要だと思う取り組みを回答してもらった。

「情報公開の推進」が39.8%(516人)と最も多く、次いで「地域の町会・自治会活動の活性化」の37.1%(482人)、「広報活動の充実(「広報いたばし」・インターネットホームページなど)」の33.4%(433人)となっている。

区政の情報公開、情報提供の充実が期待されているとともに、地域の町会・自治会活動の活性化を中心とした協働の取り組みが求められている。

○コミュニティ（問6）

地域活動で今後、重要だと思うことを回答してもらった。

「近隣の人々で取り組む防犯活動」が、50.0%（649人）と最も多く、次いで「介護や子育てなどのボランティア活動」の32.7%（424人）、「地域の人々が知り合い、交流を広げる季節行事」の32.3%（419人）、「現在の町会・自治会活動の充実」の32.1%（417人）、「地域の公園や歩道の清掃などの美化活動」の31.0%（403人）などが僅差で並んでいる。

○「しくみ」の将来像についての自由意見（問6）

将来の望ましいしくみと、その実現に向けて取り組むべきことを自由記述形式で回答してもらった。

意見（意見数：380）を項目別に分類すると、「まちづくりや区の計画づくりへの参加機会が充実している」「地域社会にふれあいと交流がある」「区政に関する情報を容易に得ることができる」「犯罪から守られている」「ボランティア活動がしやすい」「区政が身近だと感じる」に関する意見が多くなっている。

第3章 調査結果

第1部 生活に関する満足度

1. 全体集計結果

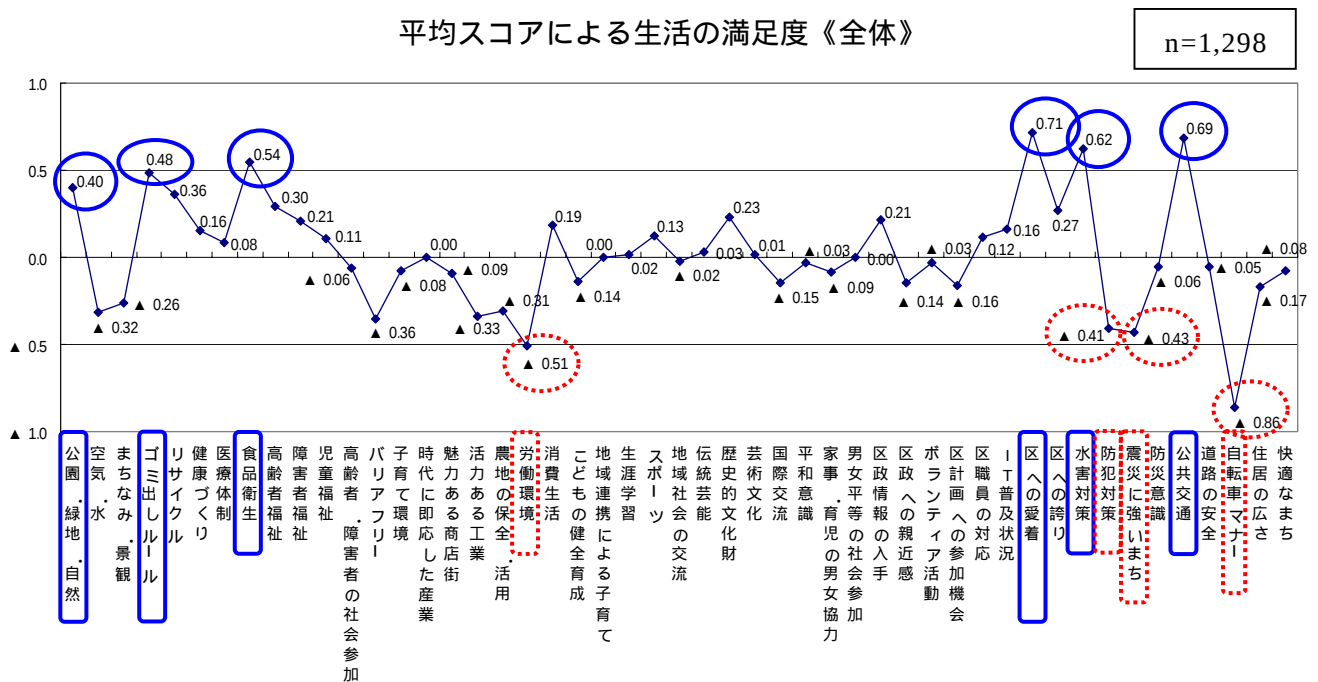
区民の生活に関する満足度を把握し、今後どのような分野、施策を進めていく必要があるかを検討するため、6つの分野（「環境」「健康・福祉」「産業・消費生活」「教育・文化・交流・男女平等」「公開・参加・行政経営」「防災・まちづくり・住宅」）より49の設問に対し、「1：満足～5：不満」の5件法により回答してもらった。

設問の内容は、主に前年度行った「板橋区区民満足度調査」における設問を基本とし、数問を新たに加えた。

問1 次のそれぞれの項目について、「現在の生活に関する満足度」の当てはまる番号に1つずつ○印をつけて下さい。

全設問に対する平均スコア（注）を算出したところ、「板橋区に愛着を感じる（0.71pt）」、「電車やバスが便利に利用できる（0.69pt）」、「大雨が降っても水害の不安が少ない（0.62pt）」の順に満足度が高く、また「衛生上の不安なく食品が入手できる（0.54pt）」、「ゴミ出しのルール（分別・曜日・場所等）が守られている（0.48pt）」、「憩える公園や緑地があり、自然環境が整っている（0.40pt）」も高い評価を得ていた。

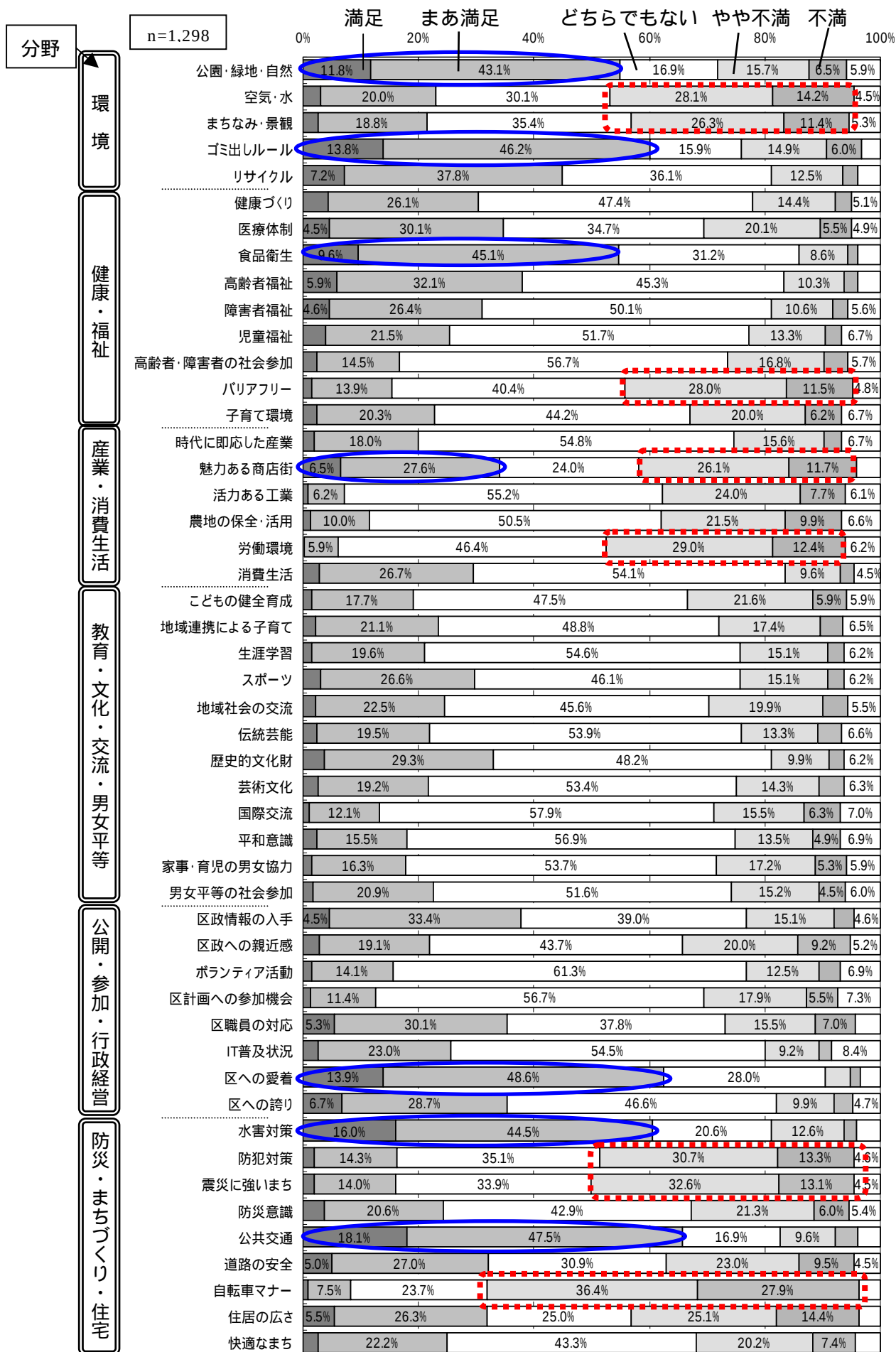
逆に「自転車利用のマナーが守られている（▲0.86pt）」、「すべての人にとって働きやすい環境が整っている（▲0.51pt）」、「地震の時、建物倒壊や火災の延焼等の不安が少ない（▲0.43pt）」、「犯罪から守られている（▲0.41pt）」などの満足度が低くなっている。



注 平均スコアの算出方法

「満足」に「+2」、「まあ満足」に「+1」、「どちらでもない」に「0」、「やや不満」に「▲1」、「不満」に「▲2」を与え、平均スコアを算出した。したがって、「0」を基準に数値が大きいほど満足度（不満度）が高いことが示される。最大値は「2」で、これは全回答が「満足」であったことを示し、最小値は「▲2」で、これは全回答が「不満」であったことを示す。

また、以下では、全設問に対する回答の割合を示し、回答の分布の傾向について示す。



【満足度の高い】項目

区全体で、満足度が比較的高い項目（左の図中 ）は、

- 「公共交通」
- 「区への愛着」
- 「水害対策」
- 「ゴミ出しルール」
- 「公園・緑地・自然」
- 「食品衛生」

である。

【満足度の低い】項目

満足度が比較的低い項目（左の図中 ）は、

- 「自転車マナー」
- 「震災に強いまち」
- 「防犯対策」
- 「空気・水」
- 「労働環境」
- 「バリアフリー」
- 「まちなみ・景観」

である。

* 「魅力ある商店街」は、満足・不満、双方とも高い割合を示している。

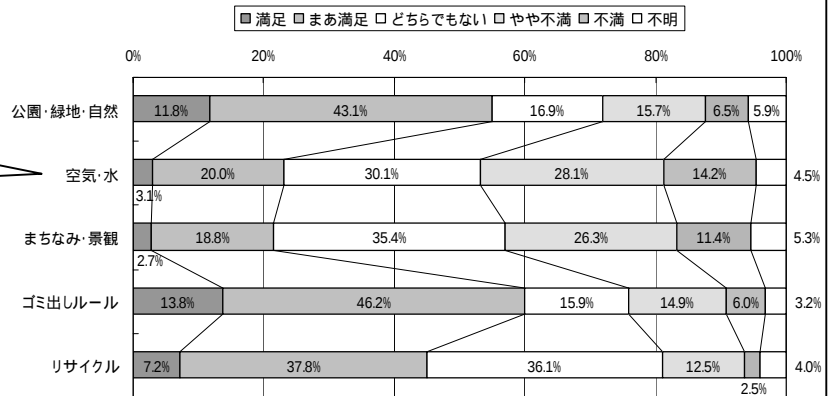
2. 分野別集計結果

次ページから、以下の6つの分野ごとに、区全体の満足度と地域別・年代別の評価を比較する。
 《 環境 》《 健康・福祉 》《 産業・消費生活 》《 教育・文化・交流・男女平等 》
 《 公開・参加・行政経営 》《 防災・まちづくり・住宅 》

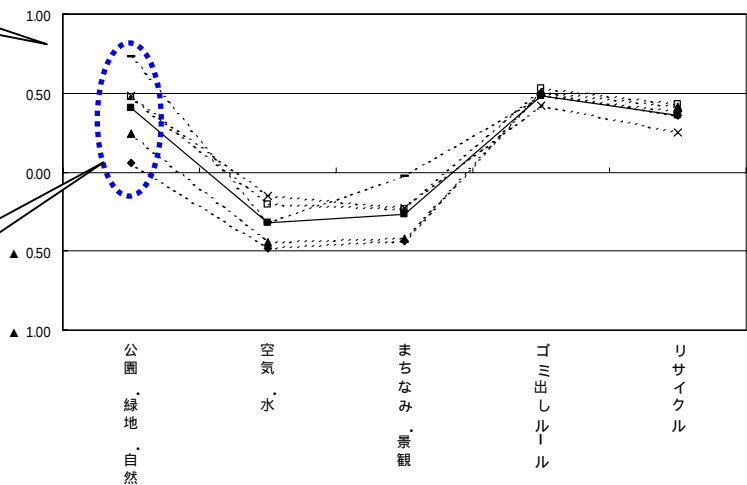
次ページからのグラフの見方を示す。

例

■生活の満足度 《 環境分野 》

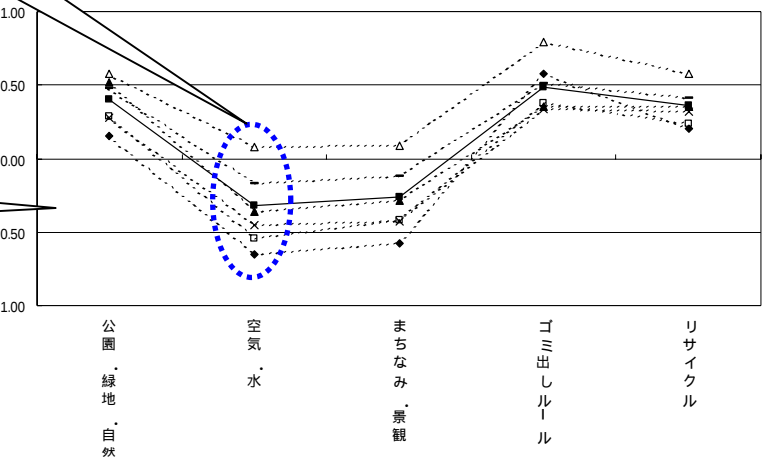


板橋地域 常盤台地域 志村地域 赤塚地域 高島平地域 全体



特に傾向が著しい部分は
で囲んだ

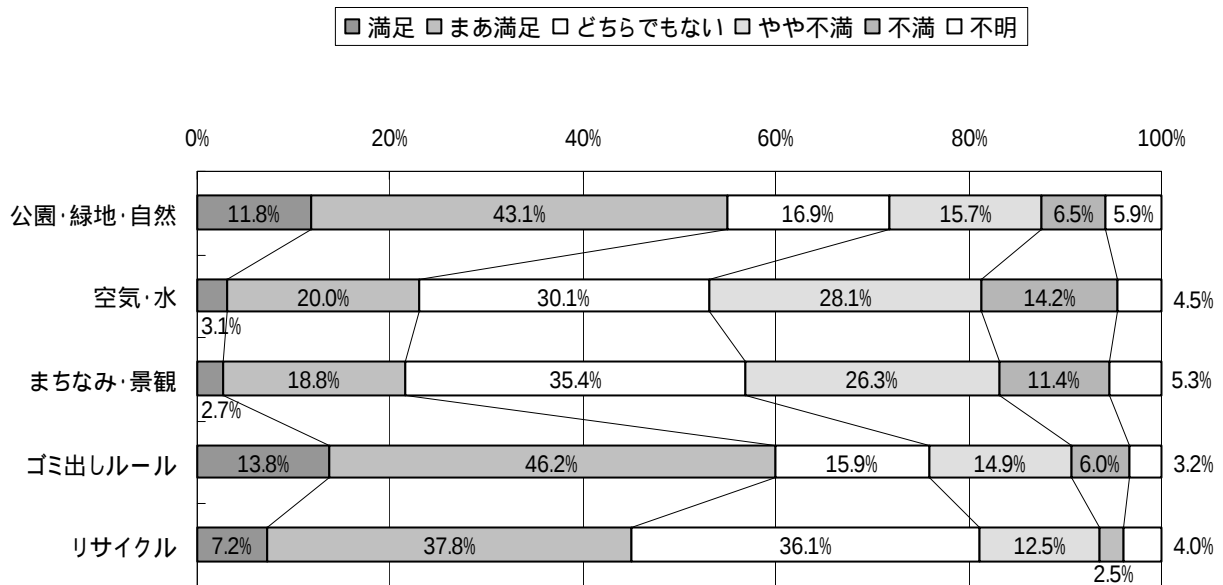
20代 30代 40代 50代 60代 70代以上 全体



平均スコアを年代別に
比較したグラフ

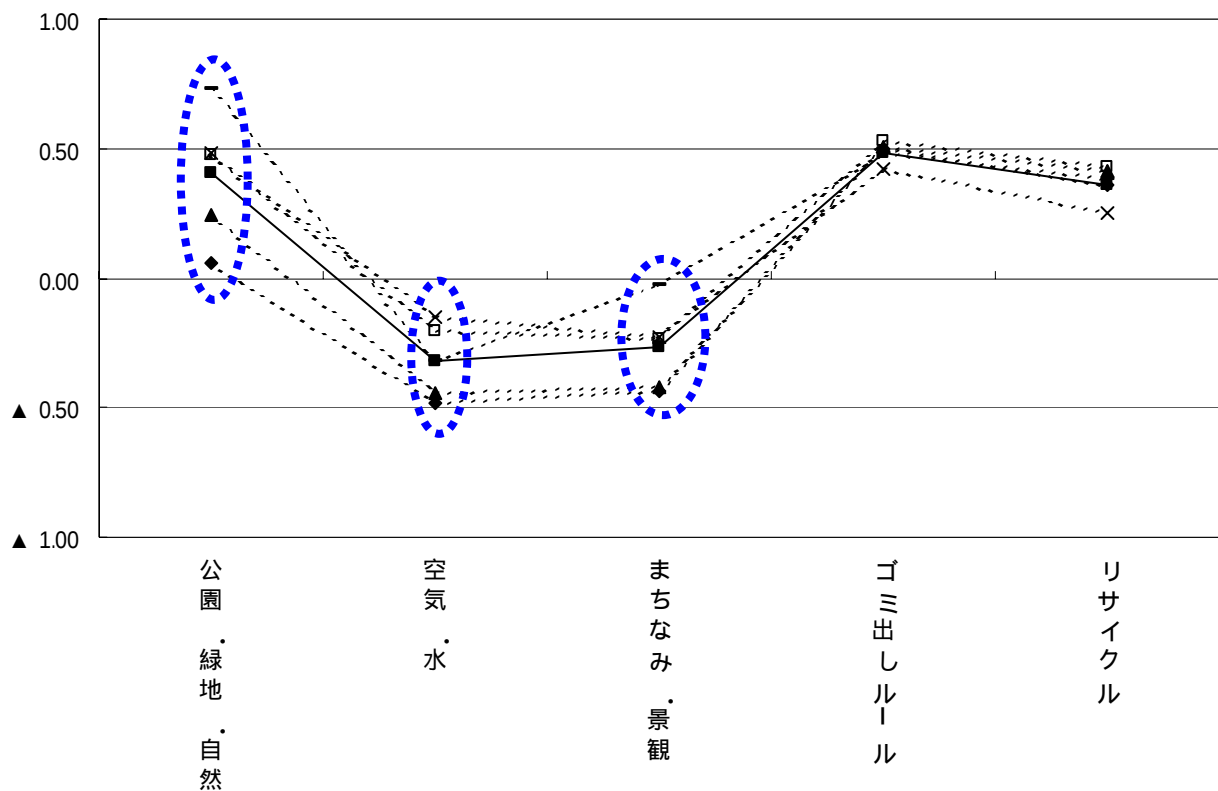
■生活の満足度《 環境分野 》

【全体】

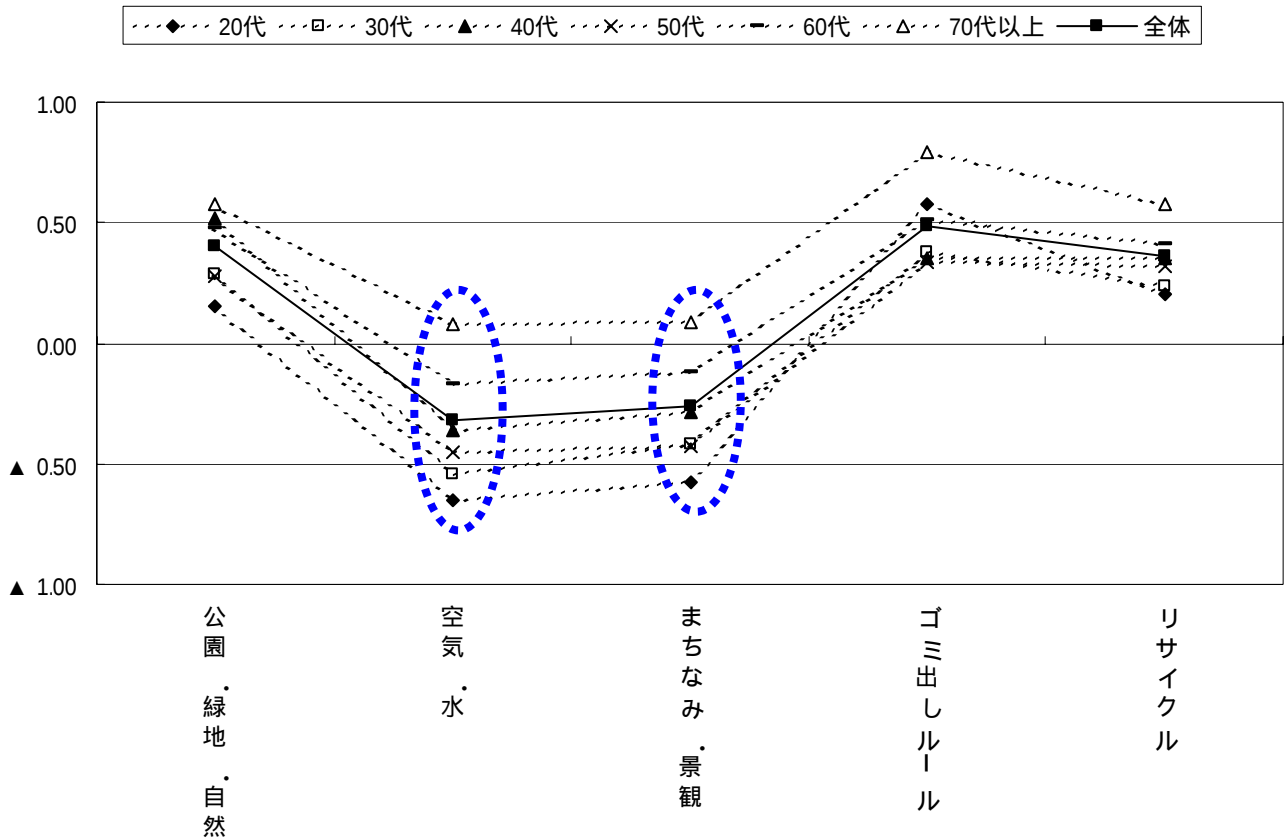


【地域別平均スコア】

.....◆.....板橋地域□.....常盤台地域▲.....志村地域×.....赤塚地域-.....高島平地域 —■— 全体



【年代別平均スコア】



【全体】

「公園・緑地・自然」「ごみ出しルール」「リサイクル」の満足度が比較的高くなっている反面、「空気・水」「まちなみ・景観」の満足度は低い。

【地域別】

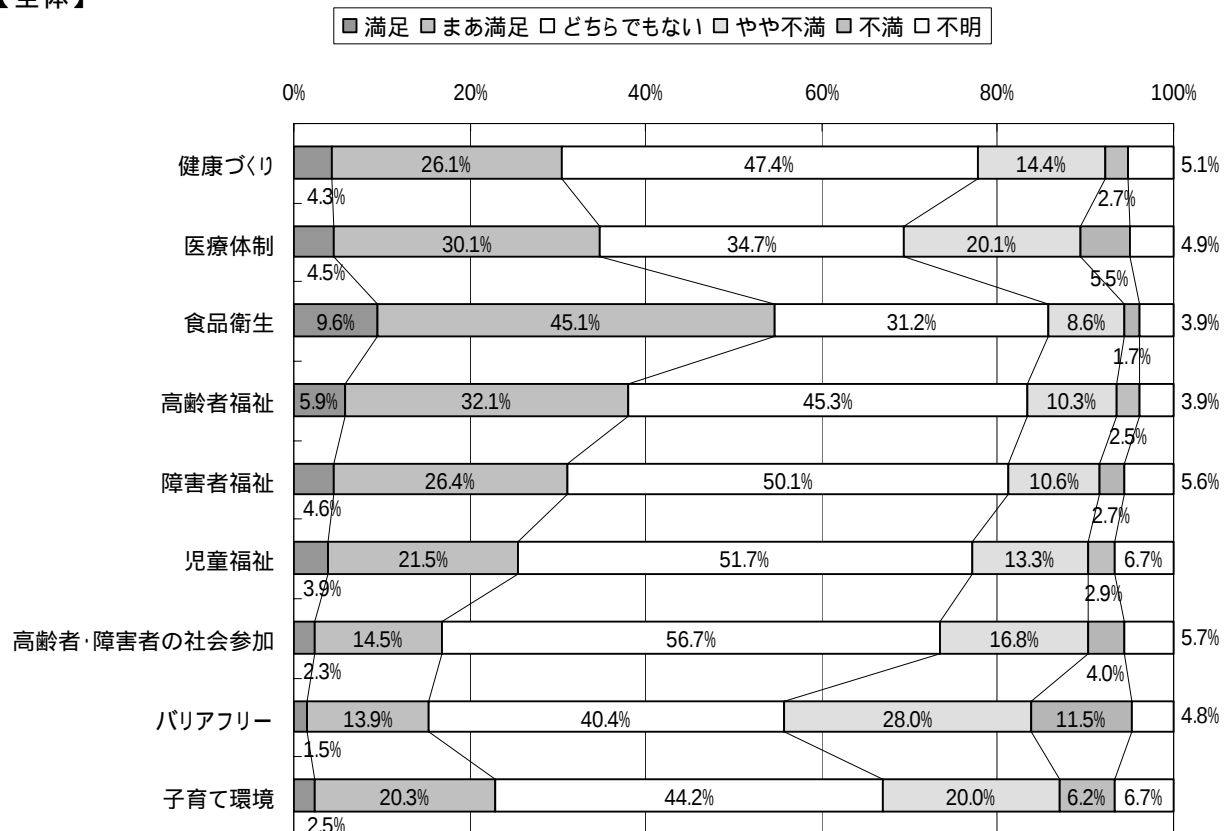
「公園・緑地・自然」「空気・水」「まちなみ・景観」では地域により満足度に差が出ている。高島平、赤塚、常盤台の3地域に比べて、板橋、志村地域では低い満足度となっている。「ごみ出しルール」「リサイクル」においては地域による差はほとんど出ていない。

【年代別】

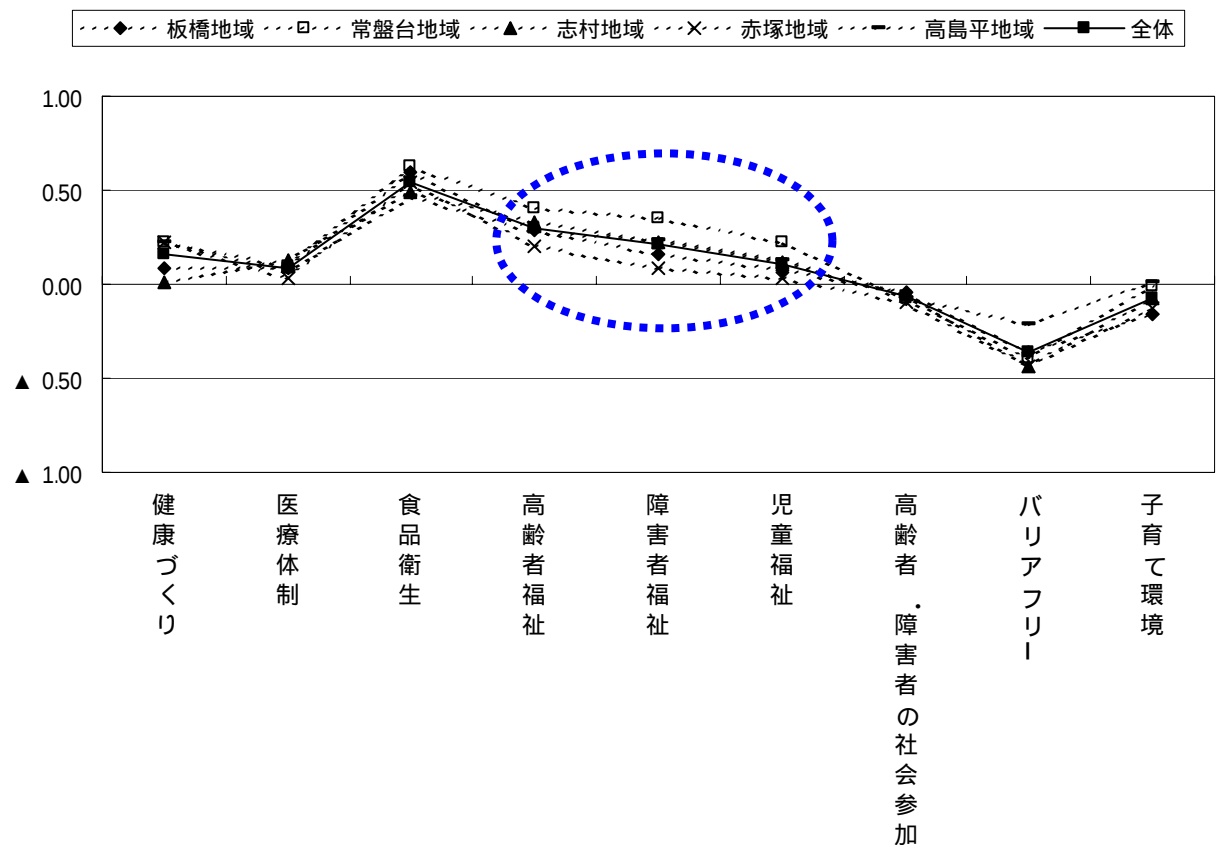
「空気・水」「まちなみ・景観」では年代による満足度に差が出ている。70代以上の回答者の満足度が一番高く、年代が若くなるにつれて、低くなる傾向がある。その他の項目においても、70代以上の回答者の満足度が、他の年代に比べて比較的高くなっている。

■生活の満足度《 健康・福祉分野 》

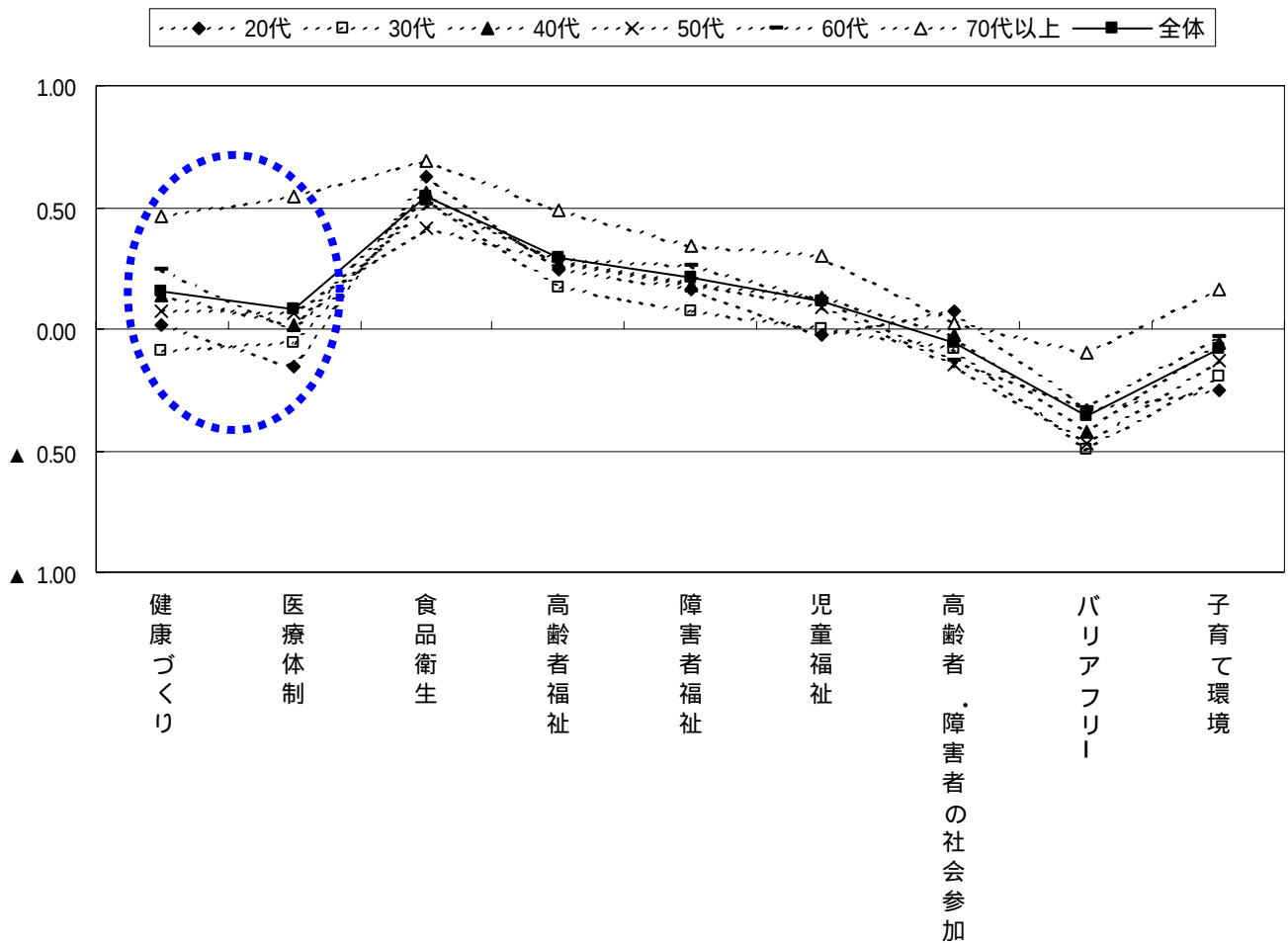
【全体】



【地域別平均スコア】



【年代別平均スコア】



【全体】

「食品衛生」の満足度が高くなっているが、「高齢者・障害者の社会参加」「バリアフリー」「子育て環境」などの満足度は低い。また、「医療体制」については「バリアフリー」「子育て環境」について、「不満」「やや不満」の回答数が多く出ている。

【地域別】

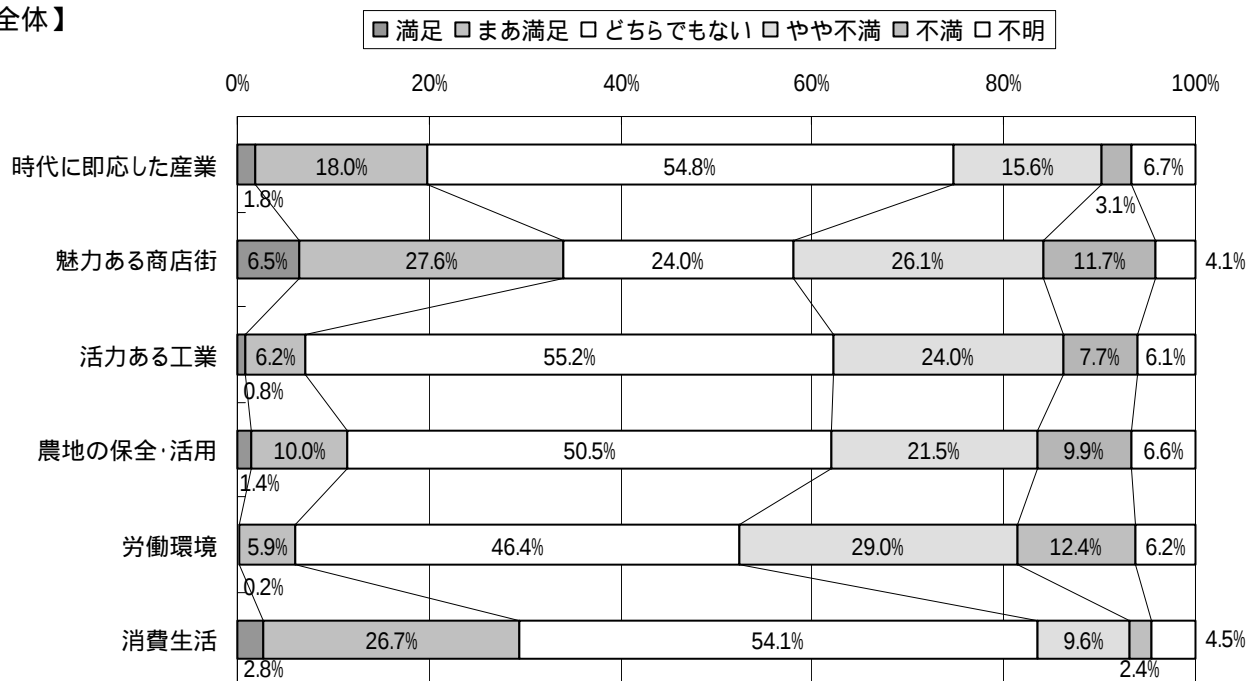
「高齢者福祉」「障害者福祉」「児童福祉」など、福祉面では地域により満足度に若干の差が出ている。常盤台地域での満足度が他の地域に比べて高く、赤塚地域での満足度が他の地域に比べて低く出ている。

【年代別】

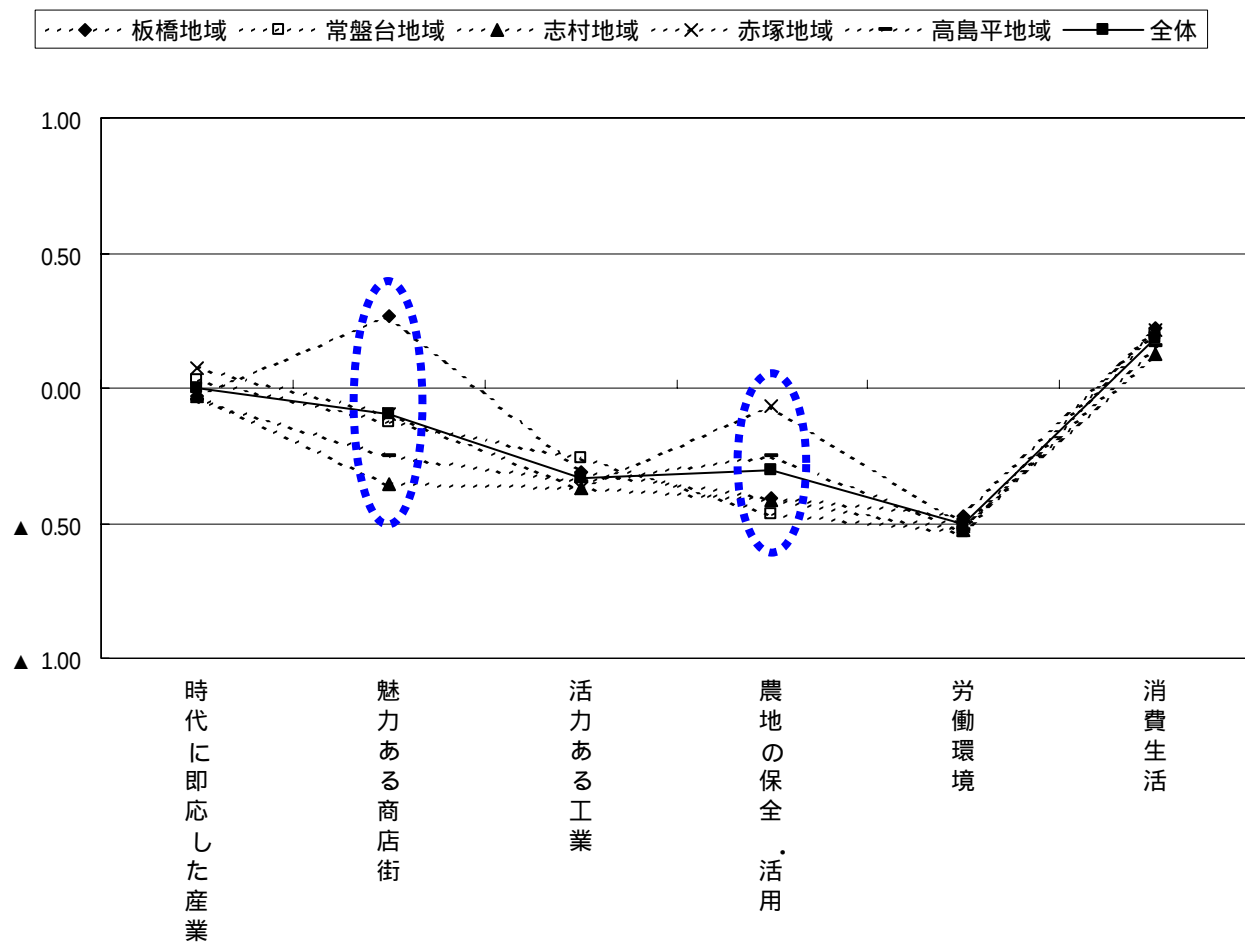
「高齢者・障害者の社会参加」を除いた各項目において、70代以上の回答者の満足度が高く出しており、特に「健康づくり」「医療体制」では際立っている。

■生活の満足度《 産業・消費生活分野 》

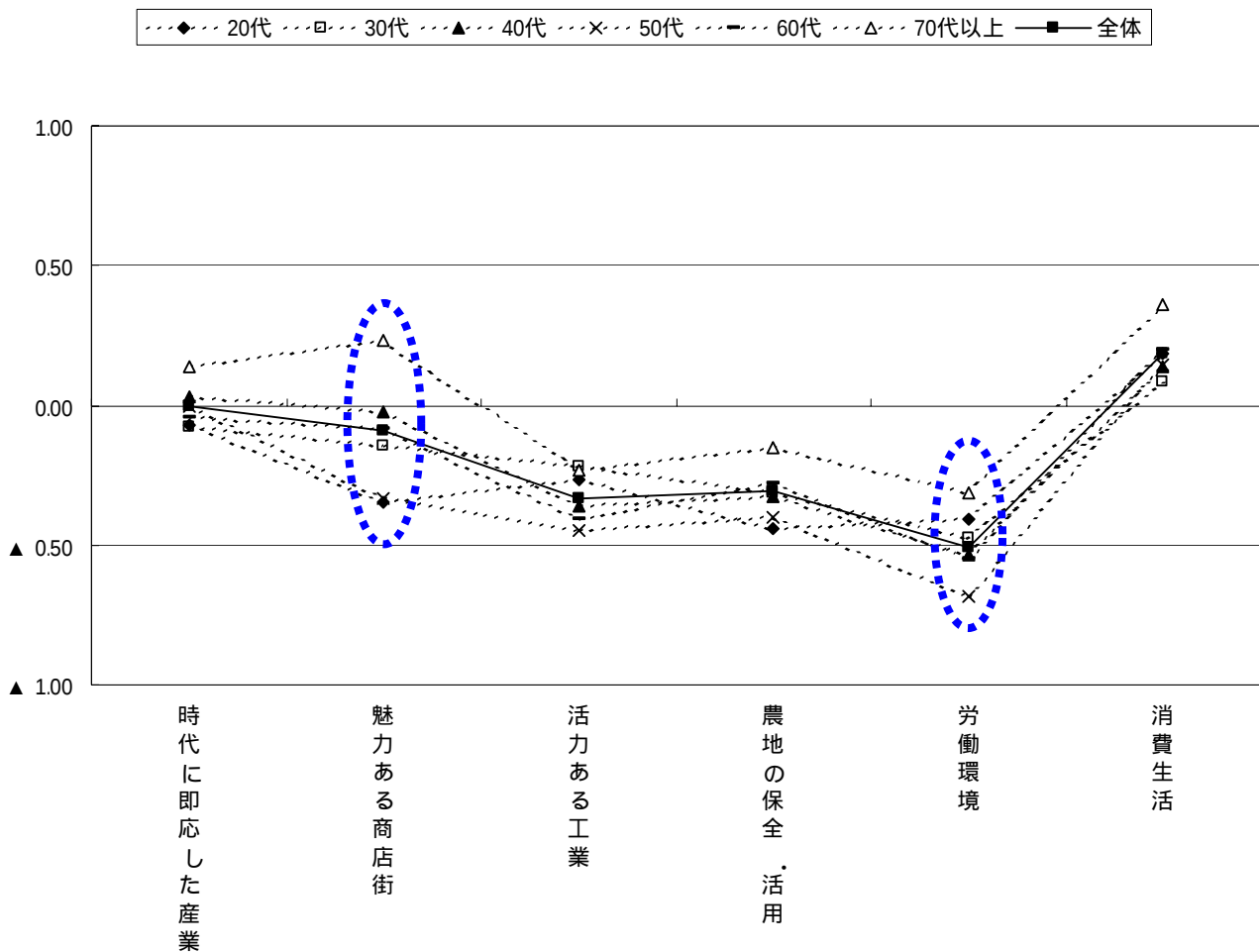
【全体】



【地域別平均スコア】



【年代別平均スコア】



【全体】

「魅力ある商店街」については「満足」「まあ満足」と、「不満」「やや不満」の回答数が拮抗している。「消費生活」の満足度は比較的高く出ているが、「活力ある工業」「農地の保全・活用」「労働環境」の満足度は低く現れている。

【地域別】

「魅力ある商店街」「農地の保全・活用」では地域により満足度に差が出ている。「魅力ある商店街」については、板橋地域での満足度が高い反面、他の地域では満足度は低く、全て平均スコアがマイナスとなっている。「農地の保全・活用」については全体的に満足度は低いものの、赤塚地域での満足度が他の地域と比較して高くなっている。

【年代別】

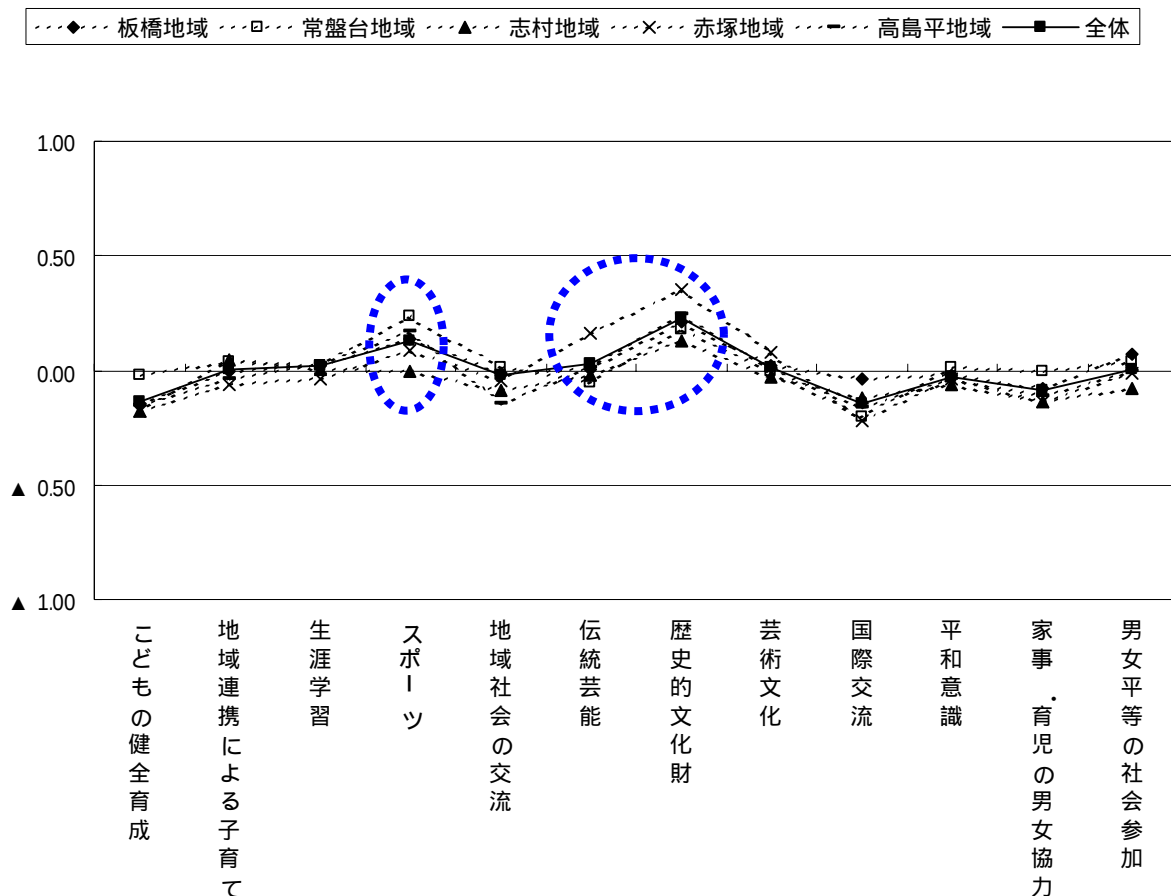
「魅力ある商店街」については年代によっても満足度に差が出ている。70代以上の回答者の満足度が一番高く、20代、50代の回答者の満足度はその他の年代と比較して低くなっている。また、「労働環境」においても年代によって満足度がまちまちとなっており、50代の満足度が際立って低く出ている。

■生活の満足度《 教育・文化・交流・男女平等分野 》

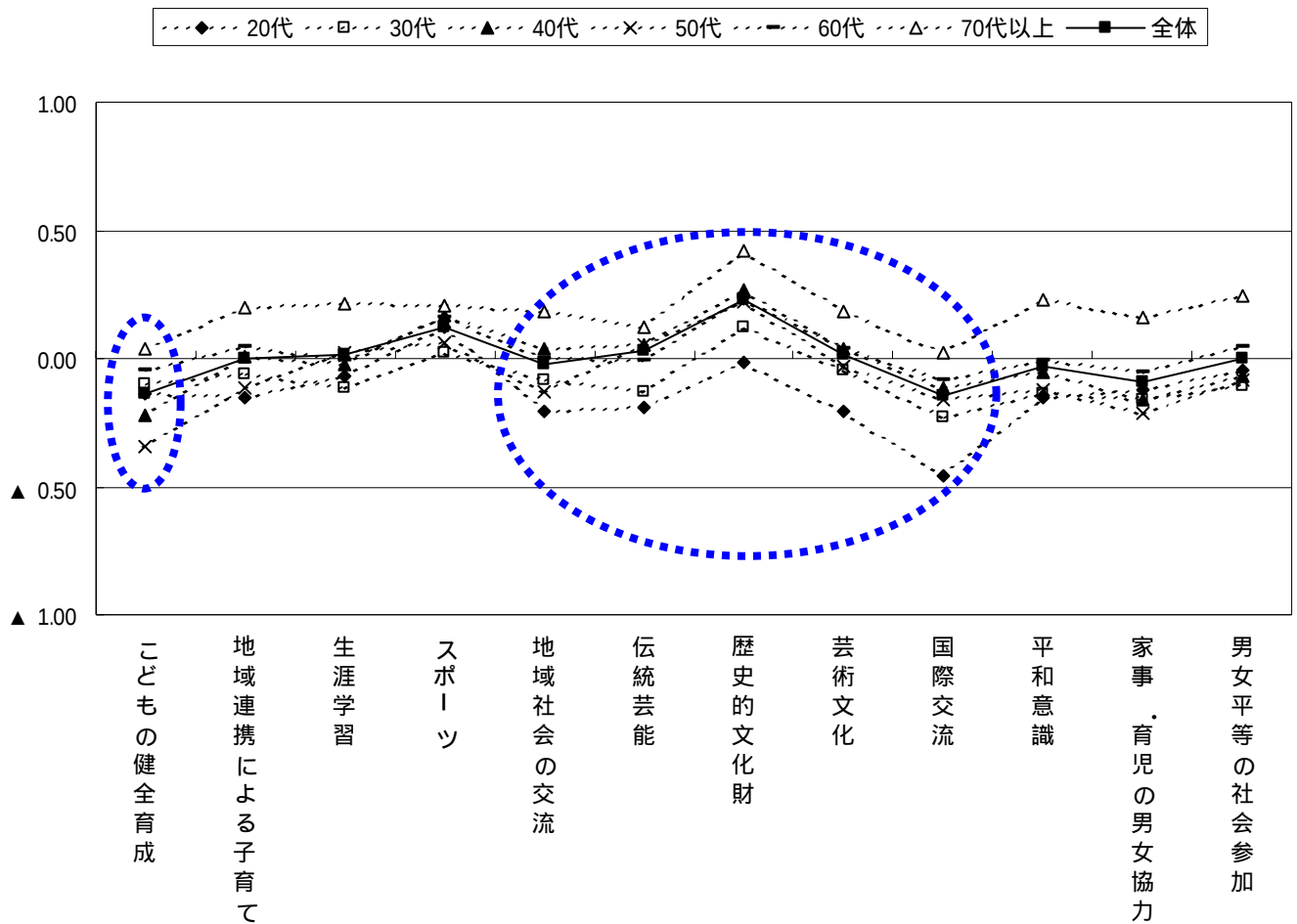
【全体】



【地域別平均スコア】



【年代別平均スコア】



【全体】

「歴史的文化財」「スポーツ」の満足度が他の項目と比較して高くなっている。「国際交流」の満足度が他の項目と比較して低くなっている。

【地域別】

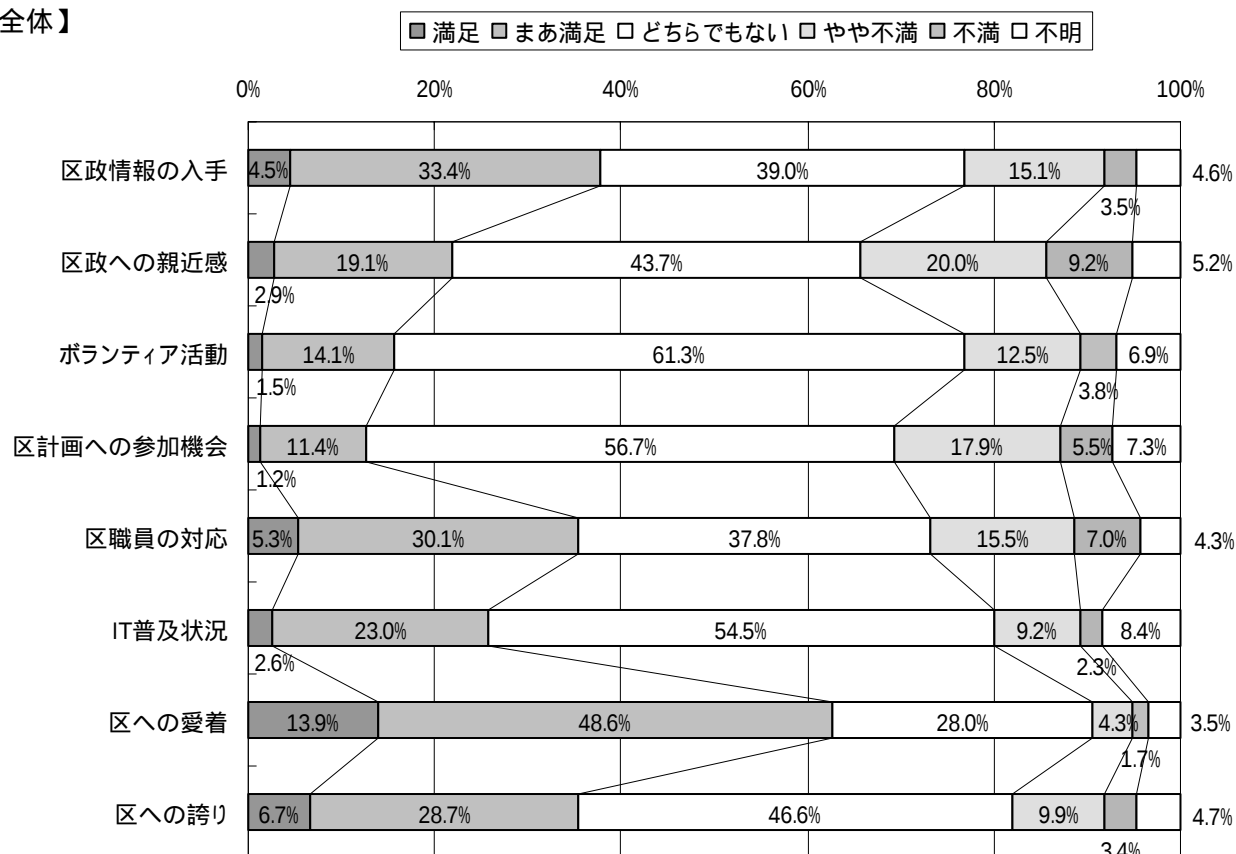
「スポーツ」では地域により評価に若干差が出ており、常盤台地域で満足度が高く、志村地域で満足度が低くなっている。また、「伝統芸能」「歴史的文化財」においては赤塚地域の満足度が他の地域と比較して高くなっている。

【年代別】

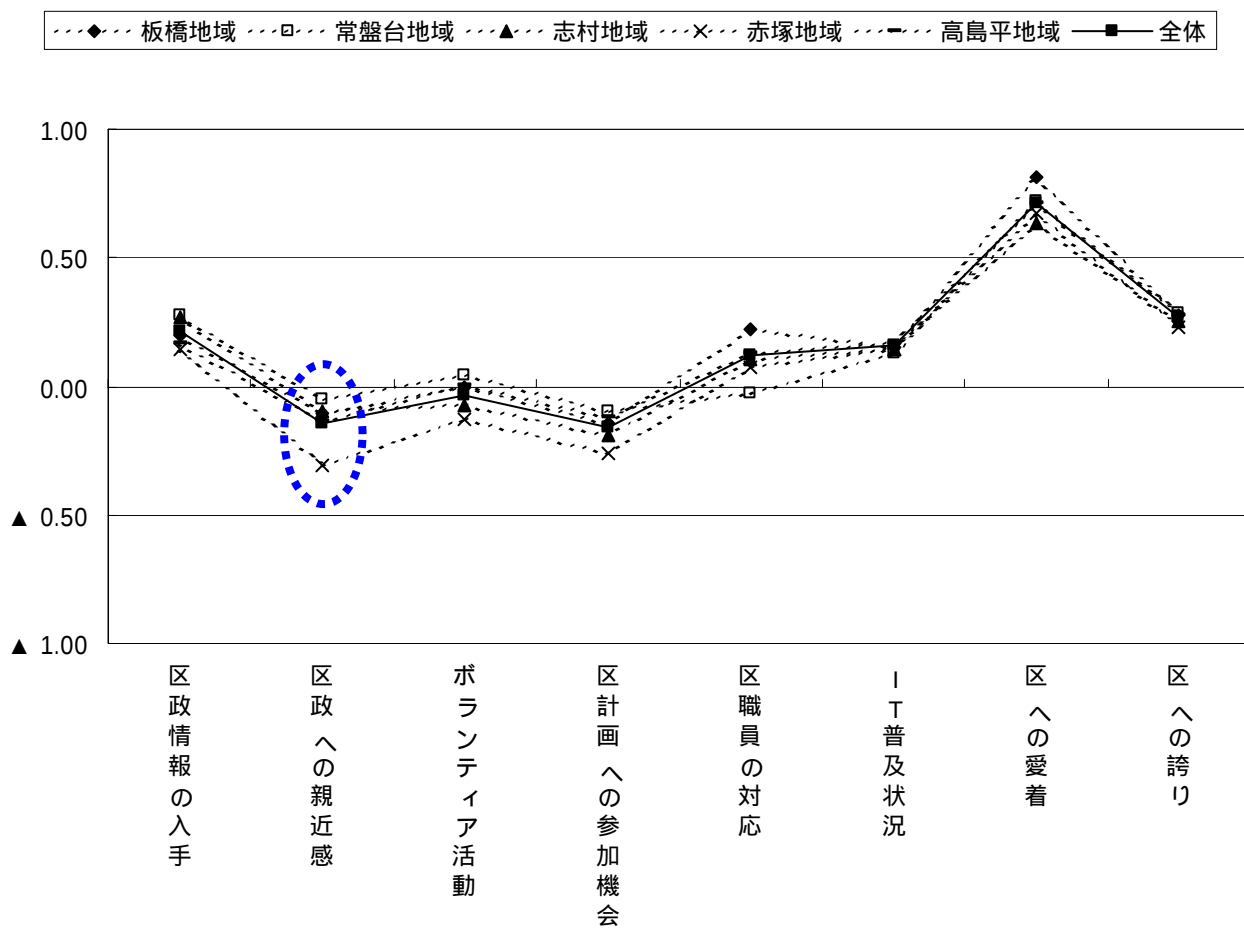
「地域社会の交流」「伝統芸能」「歴史的文化財」「芸術文化」「国際交流」など、多くの項目で、70代以上の回答者の満足度が高く、20代の回答者の満足度が低く出ている。また、「こどもの健全育成」において、50代の回答者の満足度が他の年代と比較して低くなっている。

■ 生活の満足度《 公開・参加・行政経営分野 》

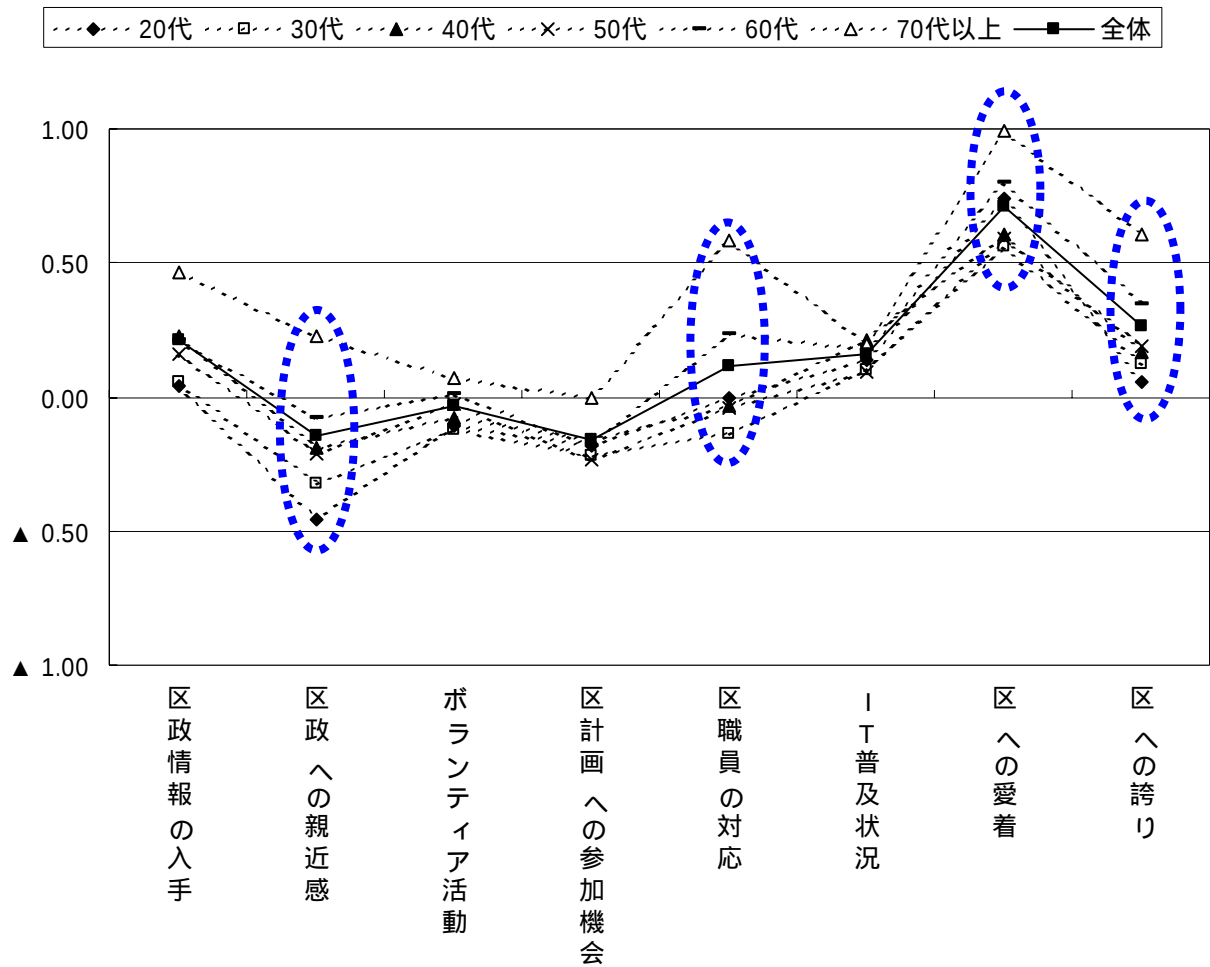
【全体】



【地域別平均スコア】



【年代別平均スコア】



【全体】

「区への愛着」の満足度が非常に高く、「区政情報の入手」「区職員の対応」「区への誇り」などの満足度も比較的高くなっている。逆に、「ボランティア活動」「区計画への参加機会」などの満足度は低く現れている。

【地域別】

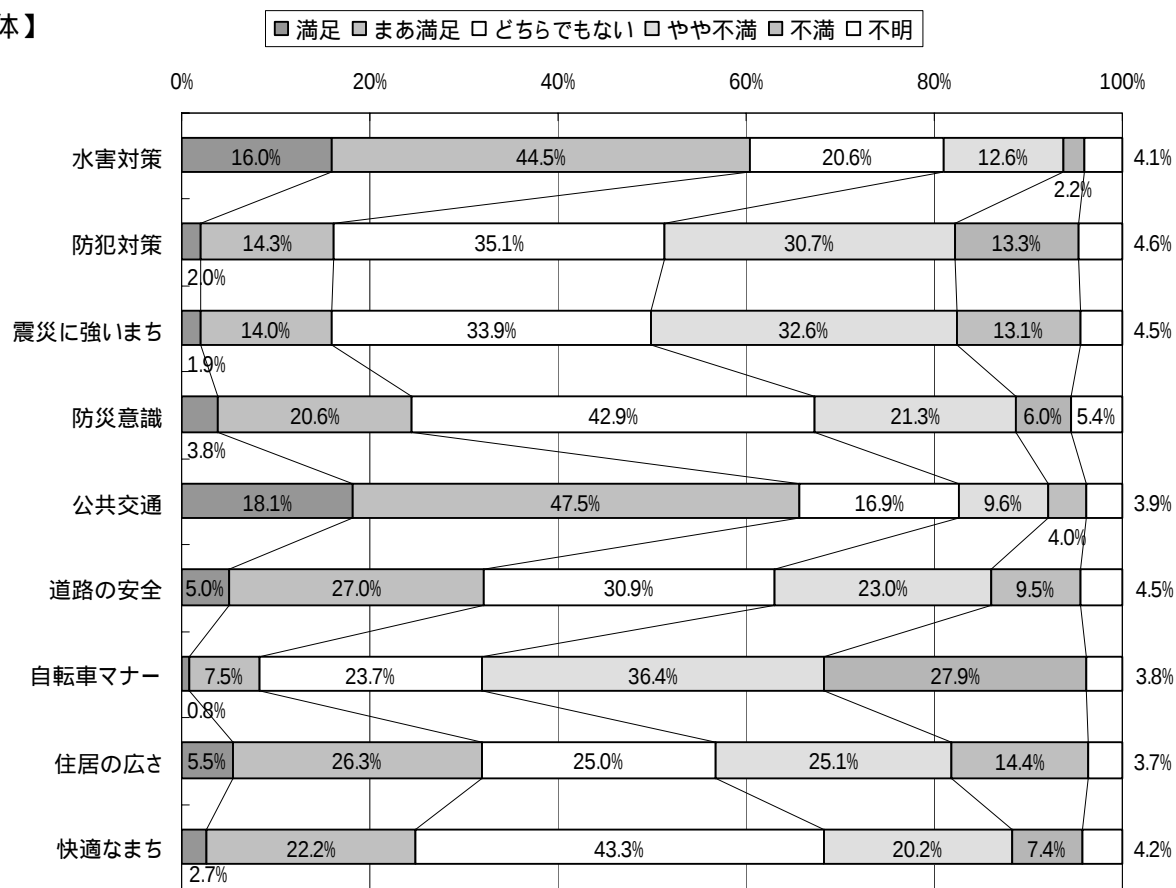
「区政への親近感」において赤塚地域の満足度が他の地域と比較して若干低くなっている以外は、地域による差はほとんど出ていない。

【年代別】

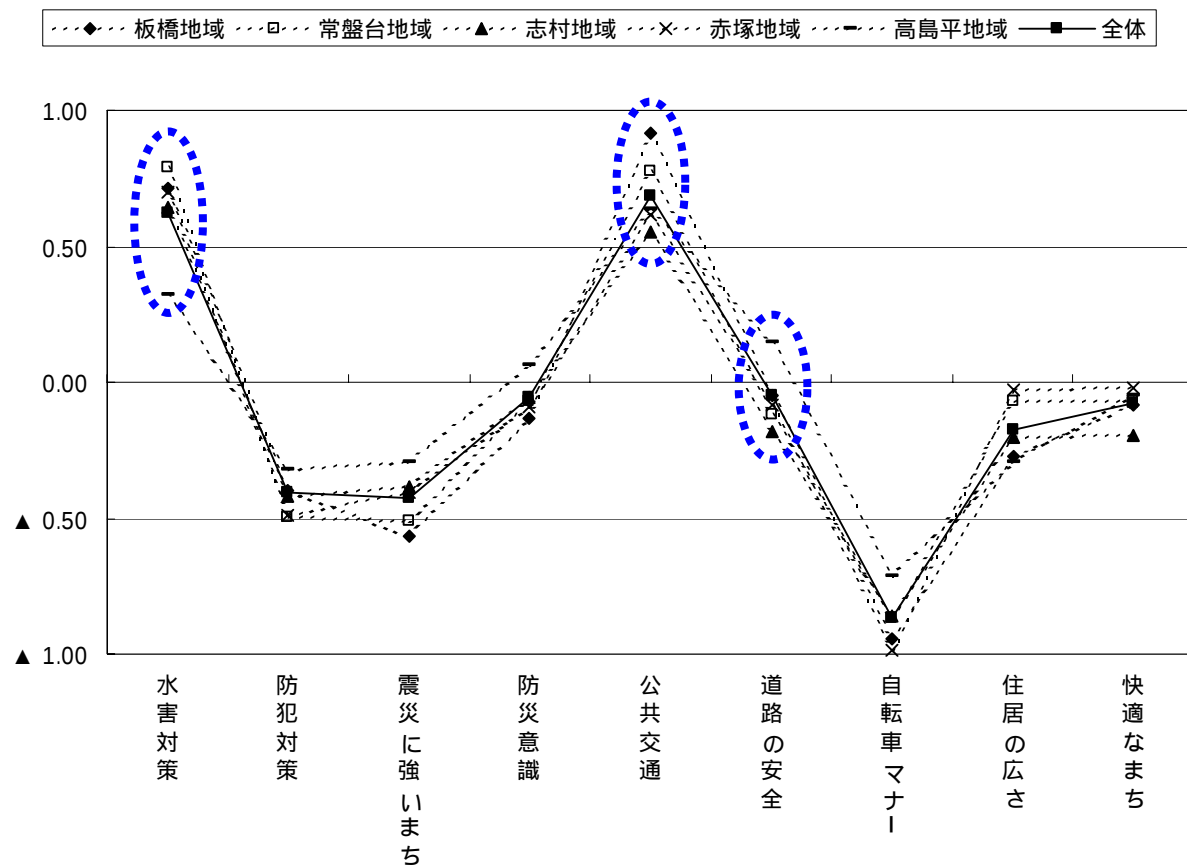
「区政への親近感」「区職員の対応」「区への愛着」「区への誇り」など、多くの項目において、70代以上の回答者の満足度が一番高く、20代、30代の満足度が低くなっている。年齢が若くなるにつれて、満足度が低くなる傾向が見られる。

■生活の満足度《 防災・まちづくり・住宅分野 》

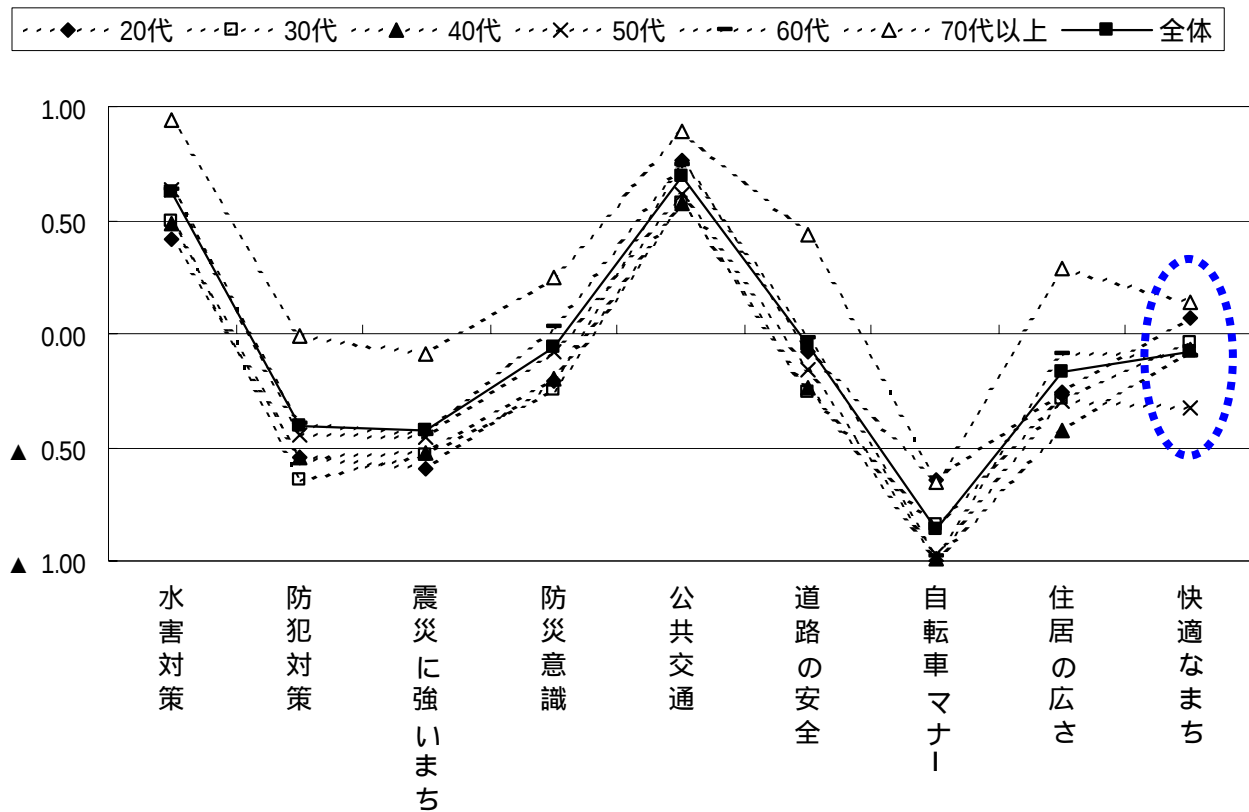
【全体】



【地域別平均スコア】



【年代別平均スコア】



【全体】

満足度の高い項目と低い項目の差がはっきりしており、「公共交通」「水害対策」が非常に高い満足度となっている反面、「自転車マナー」の満足度が非常に低くなっている。その他に「防犯対策」「震災に強いまち」の満足度も比較的低くなっている。

【地域別】

「水害対策」「公共交通」「道路の安全」では地域により満足度に差が出ている。高島平地域では「水害対策」の満足度が他の地域と比較して低くなっているが、「道路の安全」の満足度では他の地域と比較して高くなっている。また、「公共交通」の満足度は板橋地域で比較的高くなっている。

【年代別】

「快適なまち」において50代の回答者の満足度が他の年代と比較して低くなっている。また、70代以上の回答者の満足度がほとんどの項目で他の年代と比較して高くなっている。

第2部 定住意向と重点施策分野

1. 定住意向結果

区民の現時点における生活の総合的な評価となる「住みやすさ」と、「定住意向」について回答してもらった。

住みやすさの評価

問2 板橋区はあなたにとって、どの程度住みやすいですか。(○印は1つだけ)

【全体】

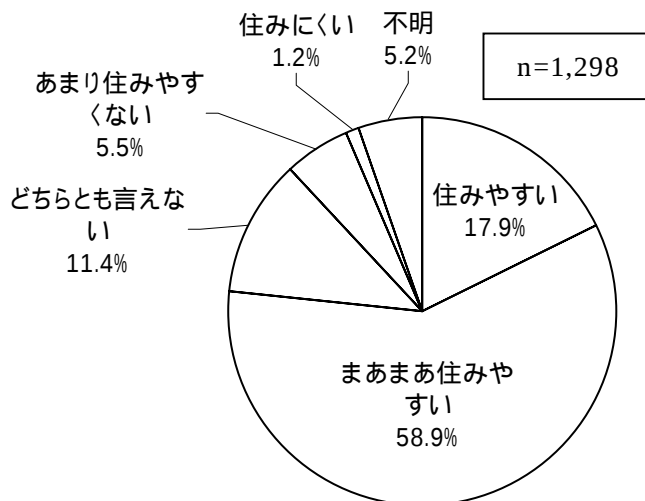
「まあまあ住みやすい」と答えた人が 58.9% (764 人) と多く、「住みやすい」と答えた人 17.9% (232 人) を含めると、全体の 8 割近くの人が住みやすさにある程度満足していると言える。

【地域別】

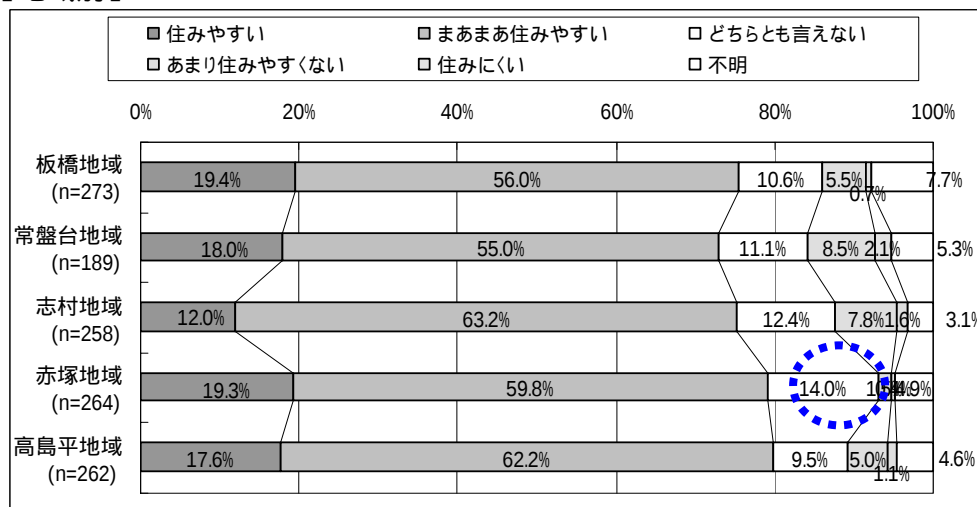
赤塚地域においては住みやすさの評価が高く、「あまり住みやすくない」「住みにくい」といった否定的な答えも他の地域と比べて少ない。

【年代別】

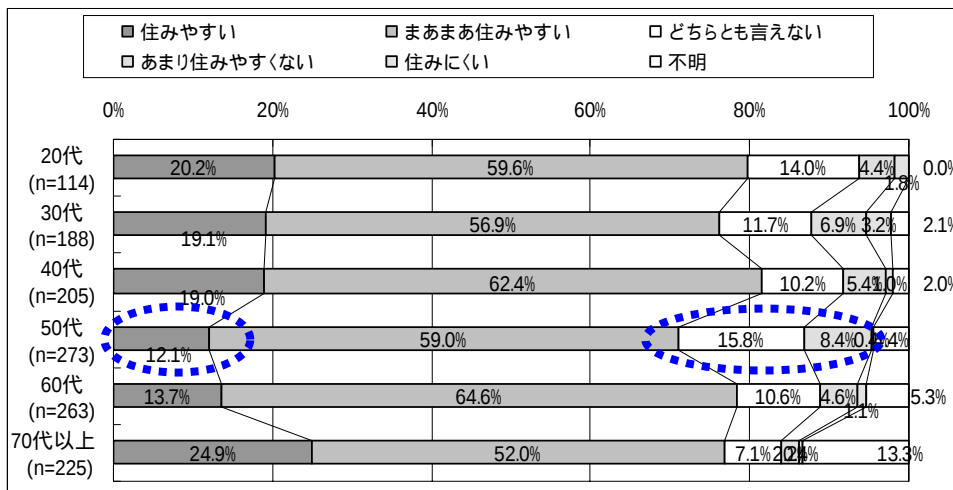
50代の住みやすさの評価がやや低くなっている。



【地域別】



【年代別】



定住意向

問2 あなたは今後も板橋区に住み続けたいとお考えですか。(○印は1つだけ)

【全体】

「今後も住み続けたい」と答えた人が 77.8% (1,010人) に上り、大多数の人が今後も板橋区に住み続けたいと考えていると言える。

【地域別】

特に地域別の傾向は見られない。

【年代別】

高齢の人ほど「区外に移り住みたい」と答えた人が少ない。

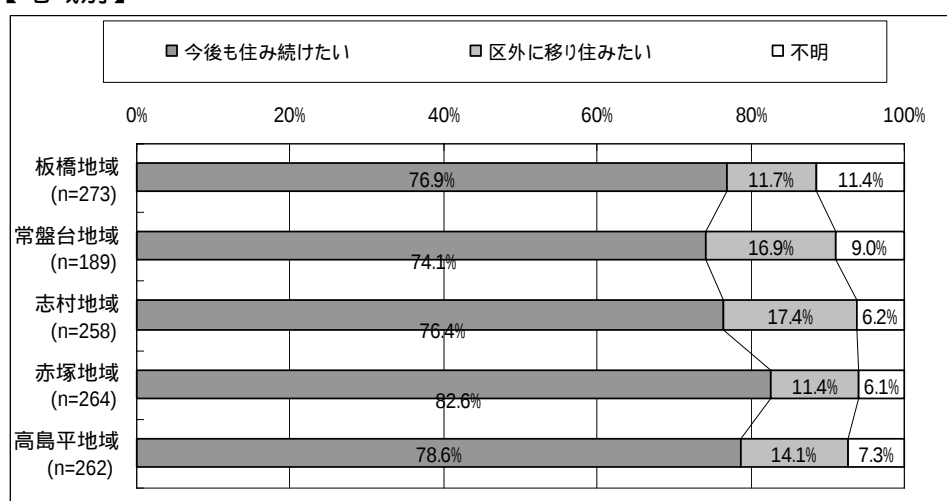
n=1,298

区外に移り住
みたい
14.3%

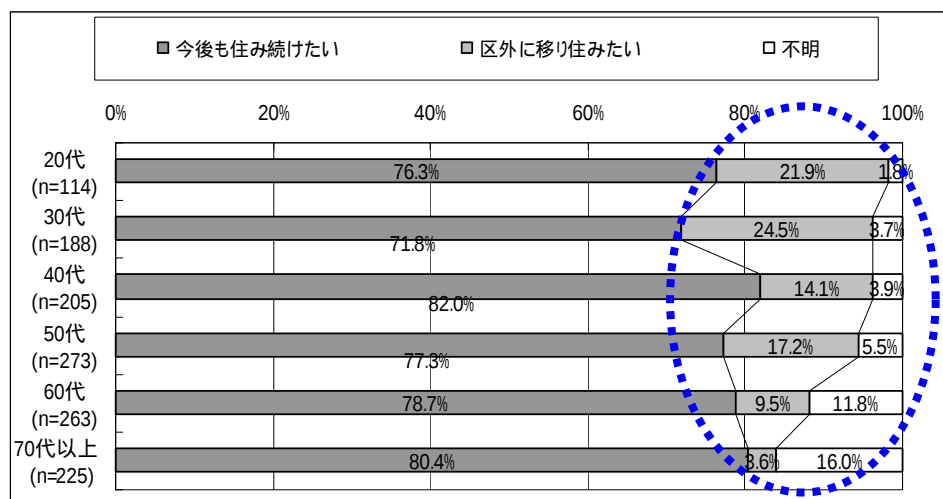
今後も住み続
け
たい
77.8%

不明
7.9%

【地域別】



【年代別】



前回調査（平成6年板橋区区民意識意向調査）との比較

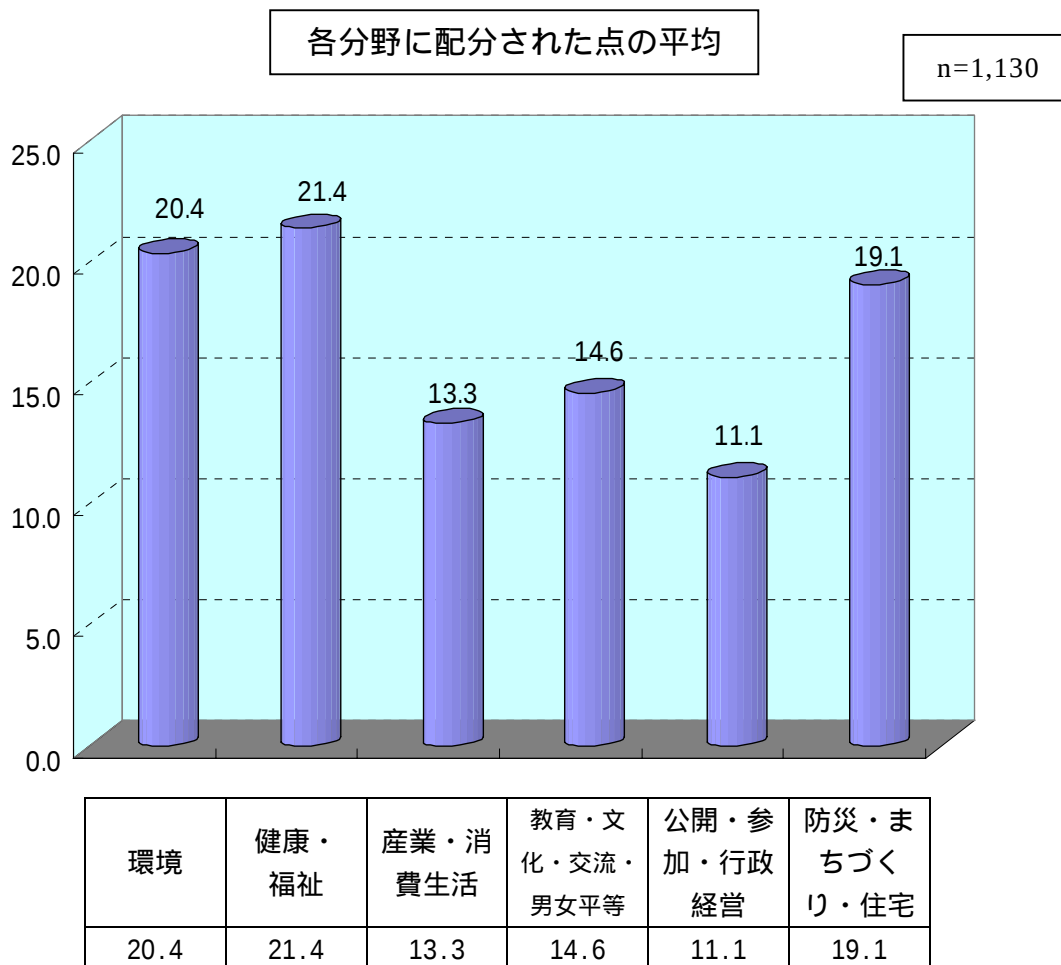
前回調査では定住希望のある区民（「住み続けるつもり」「当分住み続けたい」と答えた人の合計）は、85.7%であった。今回の調査においては、77.8%となっており、区民の定住意向は低下しているように見える。

しかし、前回は2.2%であった無回答者が、今回は8%となっており、選択肢が前回の「住み続けるつもり」「当分の間は住み続けたい」「できれば移転したい」「移転するつもり」に比べはっきりとしている今回の調査では、定住希望の不明な回答者が無回答とした可能性があるため、単純に前回調査時から区民の定住意向が下がったとは言えない。

2. 施策分野に対する区民意識

区民の視点から、どのような分野の施策が求められているのかを検討するため、区民の各施策の分野に対する意識を問う設問を用意した。また、各分野に対する意識をより正確に把握するため、分野を選択したり、順序づけたりするのではなく、点数を分配する「重み付け」によって回答してもらった。

問3 今後、区が重点的に力を入れるべきだと思う施策の分野をおうかがいします。合計が100点になるように、各分野の重要度に応じて点数をおつけください。なお、各分野は、問1でうかがった分野です。



各分野に配分された点の平均(性別・年代別・地域別)

		環境	健康・福祉	産業・消費生活	教育・文化・交流・男女平等	公開・参加・行政経営	防災・まちづくり・住宅
全体平均		20.4	21.4	13.3	14.6	11.1	19.1
性別	男性(n=455)	20.8	21.0	13.8	14.0	11.4	19.1
	女性(n=652)	20.1	21.6	13.1	15.2	11.1	18.9
年代別	20代(n=105)	20.8	18.1	15.1	14.9	12.1	19.1
	30代(n=174)	20.1	19.9	12.0	17.0	10.5	20.5
	40代(n=188)	21.4	20.3	12.6	14.9	10.9	19.9
	50代(n=247)	21.3	21.9	14.4	13.4	11.0	18.0
	60代(n=219)	20.0	22.4	13.1	14.4	11.6	18.5
	70代以上(n=174)	18.5	24.1	13.6	14.1	11.3	18.4
地域別	板橋(n=204)	21.0	20.5	13.7	15.3	11.0	18.6
	常盤台(n=166)	19.7	21.7	12.5	14.2	11.0	20.9
	志村(n=217)	21.0	22.1	13.4	14.8	10.9	17.7
	赤塚(n=222)	20.4	21.7	12.5	13.9	11.2	20.2
	高島平(n=233)	19.4	21.5	14.4	15.2	11.5	18.1

【全体】

「健康・福祉」の平均点が21.4と最も高く、次いで「環境」の20.4点、「防災・まちづくり・住宅」の19.1点となっている。

【性別】

性別の違いによる平均点の違いは特に見られない。

【年代別】

年代別に見ると、30代の「教育・文化・交流・男女平等」に対する平均点が高いことや、年代が上がるにつれて「健康・福祉」の平均点が上がる、などの特徴が見られる。

【地域別】

地域別の違いによる平均点の違いは特に見られない。

3. 区が重点的に進めるべき施策

(1) 分析の方法

主旨・目的

区政の目標である「住みよいまち」とするために、今後どのような施策を重点的に進めるべきか、また、どの項目の区民満足度を高めれば総合的な住みやすさが上がるか、を明らかにすることを目的とする。

概要

単回帰分析（注）を行うことによって、「生活に関する満足度」（「問1」の回答）と「住みやすさ」（問2 - の回答）の関連性を明らかにし、「生活に関する満足度」と合わせて比較評価する。

評価の方法

■ 「生活に関する満足度」

「問1」の回答の『平均スコア』（17ページ参照）の算出結果を活用する。

■ 『「住みやすさ」との関連性』

「問1」の回答と「問2」の回答の関連性を単回帰分析によって明らかにし、「回帰係数」を算出する。

注 【単回帰分析と回帰係数】

単回帰分析とはある変数 y （目的変数）が変数 x （説明変数）に対してどの程度変化しているかを予測し、明らかにする分析手法である。「どの程度変化しているか」を表す値として「回帰係数」があり、この回帰係数は0～1までの値となり、“0”は「目的変数は説明変数によって全く変化しない（目的変数と説明変数はまったく関連性がない）」ことを示し、“1”になると「目的変数は説明変数と完全に一致している」ことを示す。

【単回帰分析と問3の分析の違い】

単回帰分析は変数と変数の間に隠れている、回答者が無意識のうちに選択している関係性（回帰係数）を明らかにする分析手法であり、区民が個々の分野の重要性を直接判断している「問3」の回答とはこの点で性質が異なる。

よって、問3で重要であるとされた分野が単回帰分析の結果では重要でないと分析される場合もあれば、その逆もありうる。

どちらの数値が正しいかではなく、「区民の意識」に着目する場合は問3の結果を、「区民の無意識のうちに選択した住みやすさの向上」に着目する場合は単回帰分析の分析結果をより重視する等、目的と方法をうまく組み合わせることが重要となる。

■ 施策改善の方向性

「生活に関する満足度」(「問1」の回答<平均スコア>)と『「住みやすさ」との関連性』(回帰係数)を比較評価することにより、以下のような改善の方向性が明確となる。

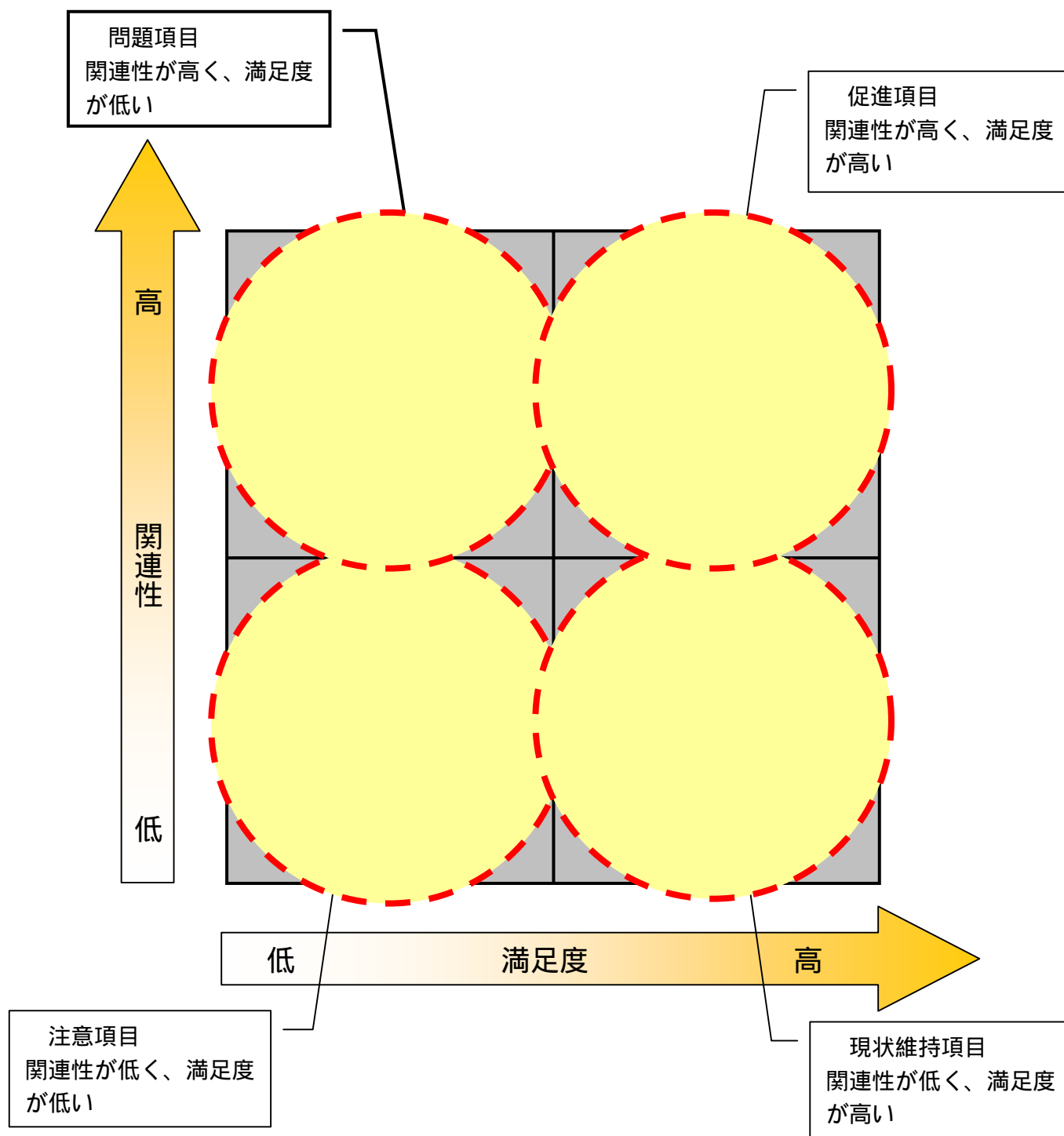
問題項目 (住みやすさに関連性が高く、現状の満足度が低い)

促進項目 (住みやすさに関連性が高く、現状の満足度が高い)

注意項目 (住みやすさに関連性が低く、現状の満足度が低い)

現状維持項目 (住みやすさに関連性が低く、現状の満足度が高い)

各項目における「生活に関する満足度」(「問1」の回答<平均スコア>)を横軸に、各項目における『「住みやすさ」との関連性』(回帰係数)を縦軸にとり、以下の散布図のように整理し、「施策改善の方向性」を明らかにする。



(2) 分析結果

算定結果

「生活に関する満足度」(「問1」の回答<平均スコア>)と『「住みやすさ」との関連性』を示す「回帰係数」を表にまとめると以下の通りとなる。

n=1,298

分野		項 目	平均 スコア	回帰 係数
環 境	1	憩える公園や緑地があり、自然環境が整っている	0.40	0.34
	2	空気や水がきれいで安心して生活できる	▲0.32	0.32
	3	まちなみや景観が美しい	▲0.26	0.40
	4	ごみ出しのルール(分別・曜日・場所等)が守られている	0.48	0.18
	5	リサイクルが進んでいる	0.36	0.22
健 康 ・ 福 祉	6	健康づくりに取り組みやすい	0.16	0.29
	7	休日・夜間も含め、安心して医療が受けられる	0.08	0.23
	8	衛生上の不安なく食品が入手できる	0.54	0.27
	9	高齢者のための福祉サービスが整っている	0.30	0.25
	10	障害者のための福祉サービスが整っている	0.21	0.26
	11	子どものための福祉サービスが整っている	0.11	0.21
	12	高齢者・障害者が生きがいを持って社会参加できる	▲0.06	0.25
	13	すべての人が生活しやすいよう、バリアフリーのまちづくりが進められている	▲0.36	0.21
	14	子育てしやすい環境が整っている	▲0.08	0.34
産 業 ・ 消 費 生 活	15	時代の変化に即応した製品やサービスがある	0.00	0.21
	16	魅力のある商店街が身近にある	▲0.09	0.26
	17	地域の工業に活力がある	▲0.33	0.19
	18	農地が保全され、活用されている	▲0.31	0.17
	19	すべての人にとって働きやすい環境が整っている	▲0.51	0.22
	20	消費生活におけるトラブルが少ない	0.19	0.28
教 育 ・ 文 化 ・ 交 流 ・ 男 女 平 等	21	健康で人間性豊かな子どもが育っている	▲0.14	0.28
	22	家庭・地域・学校が協力して子育てに取り組んでいる	0.00	0.27
	23	生涯学習に取り組imiやすい	0.02	0.25
	24	スポーツに取り組imiやすい	0.13	0.26
	25	地域社会にふれあいと交流がある	▲0.02	0.30
	26	伝統芸能が受け継がれている	0.03	0.18
	27	歴史的文化財が保存・活用されている	0.23	0.26
	28	芸術文化に親しみやすい	0.01	0.30
	29	国際交流が進んでいる	▲0.15	0.23
	30	平和に関する意識が高い	▲0.03	0.23
	31	家事・育児・介護を男女が協力して行っている	▲0.09	0.23
	32	男女が平等に社会活動に参加することができる	0.00	0.25

公開・参加・行政経営	3 3	区政に関する情報を容易に得ることができる	0.21	0.29
	3 4	区政が身近だと感じる	▲0.14	0.29
	3 5	ボランティア活動がしやすい	▲0.03	0.22
	3 6	まちづくりや区の計画づくりへの参加機会が充実している	▲0.16	0.25
	3 7	区の職員の対応が良い	0.12	0.22
	3 8	インターネットや電子メールなど情報通信技術が普及している	0.16	0.21
	3 9	板橋区に愛着を感じる	0.71	0.58
	4 0	板橋区が他の自治体に比べて誇れると感じる	0.27	0.51
防災・まちづくり・住宅	4 1	大雨が降っても水害の不安が少ない	0.62	0.25
	4 2	犯罪から守られている	▲0.41	0.30
	4 3	地震の時、建物倒壊や火災の延焼等の不安が少ない	▲0.43	0.31
	4 4	防災意識が高い	▲0.06	0.33
	4 5	電車やバスが便利に利用できる	0.69	0.32
	4 6	身近な道路が安全である	▲0.05	0.39
	4 7	自転車利用のマナーが守られている	▲0.86	0.22
	4 8	住居の広さが十分である	▲0.17	0.24
	4 9	身近なまちが快適で魅力のある生活空間である	▲0.08	0.52
平均値			-	0.277

『「住みやすさ」との関連性』の算定結果について

回帰係数の平均は 0.277 となっており、平均値を基準にどの項目がより『「住みやすさ」との関連性』が高い又は低いかが分かる。

回帰係数を見ると、

「39:板橋区に愛着を感じる(0.58)」

「49:身近なまちが快適で魅力のある生活空間である(0.52)」

「40:板橋区が他の自治体に比べて誇れると感じる(0.51)」

などが高い数値となっており、

次いで

「3:まちなみや景観が美しい(0.40)」

「46:身近な道路が安全である(0.39)」などが高い。

施策改善の方向性について

各項目における「現在の生活に関する満足度」(「問1」の回答<平均スコア>)を横軸に、各項目における『「住みやすさ」との関連性』(回帰係数)を縦軸において、各項目を分布したところ右図の通りとなった。

なお、相対的にどの項目がより『「住みやすさ」との関連性』が高いかを図るため、縦軸における横軸との交点は、全項目の回帰係数の平均である、0.277とした。

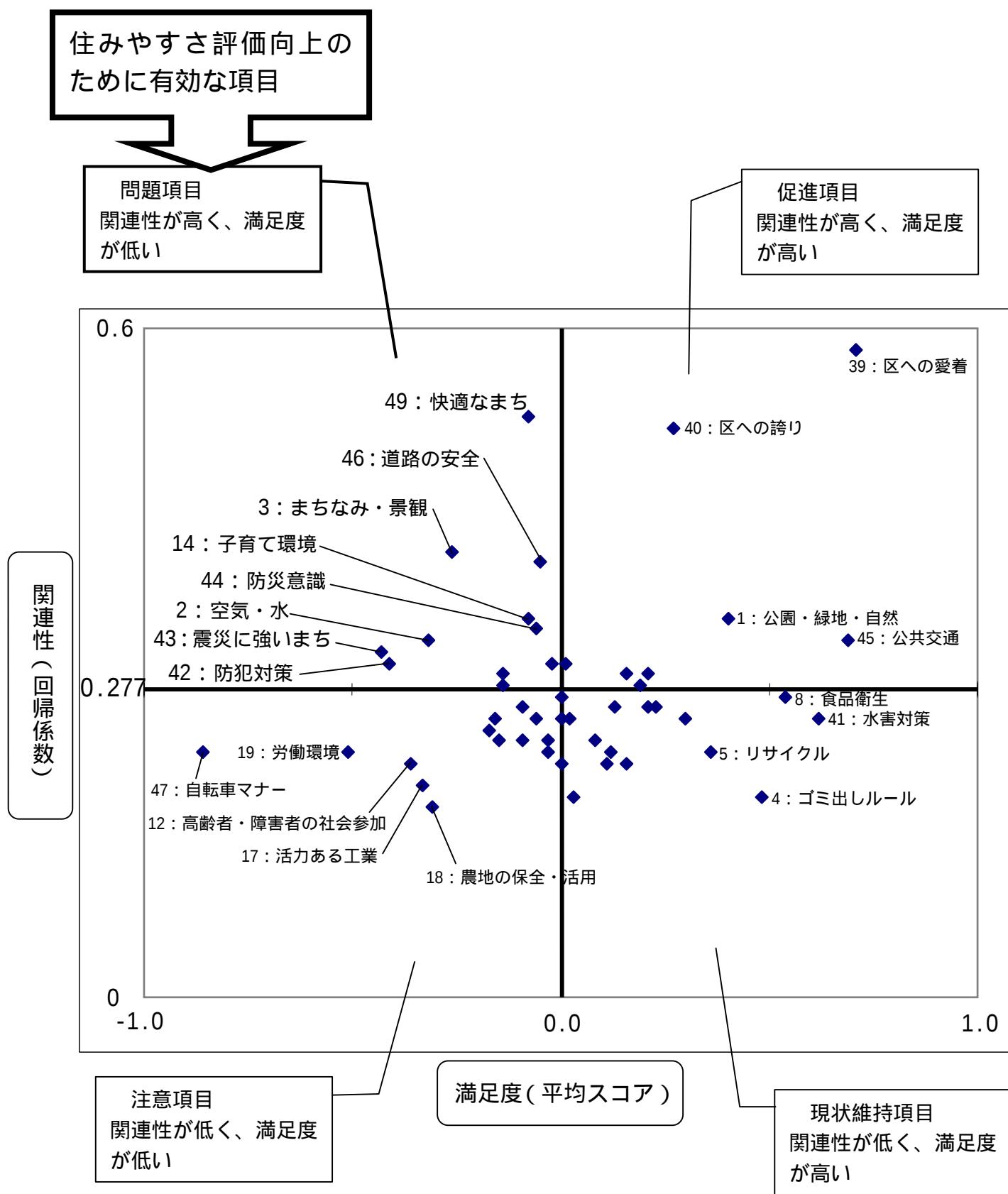
散布図内の第 象限(左上の部分)が、問題項目(関連性が高く、満足が低い)となり、これらの項目が「住みやすさ」の評価を上げるために有効であると考えられる項目であり、区が優先して進めるべき施策群であると考えられる。

分析の結果、

問題項目と考えられるのは、

- 「49:身近なまちが快適で魅力のある生活空間である」
- 「3:まちなみや景観が美しい」
- 「46:身近な道路が安全である」
- 「14:子育てしやすい環境が整っている」
- 「44:防災意識が高い」
- 「2:空気や水がきれいで安心して生活できる」
- 「42:犯罪から守られている」
- 「43:地震の時、建物倒壊や火災の延焼等の不安が少ない」

などの項目である。



第3部 将来像に対する意識

区民が望む区の将来像を把握し、またその将来像を実現するためにどのような取り組みを行うべきだと考えているかを把握するため、3つの大きな柱「まちの姿」「人のくらし」「しくみ」ごとに代表的な分野について複数選択方式の選択肢型設問を回答してもらい、また選択肢にとらわれない自由な発想による、広く深い意見を収集するため、自由記述型の設問を用意した。

なお、これらの設問に対し、現状を認識した上で、将来像について回答をしていただくため、調査票とともに区の現状などをまとめた参考資料「板橋区の現状と区の取り組み」を添付した。

1 まちの姿

関連するテーマ：
土地利用（土地の使い方） 景観・まちなみ、環境、交通 など

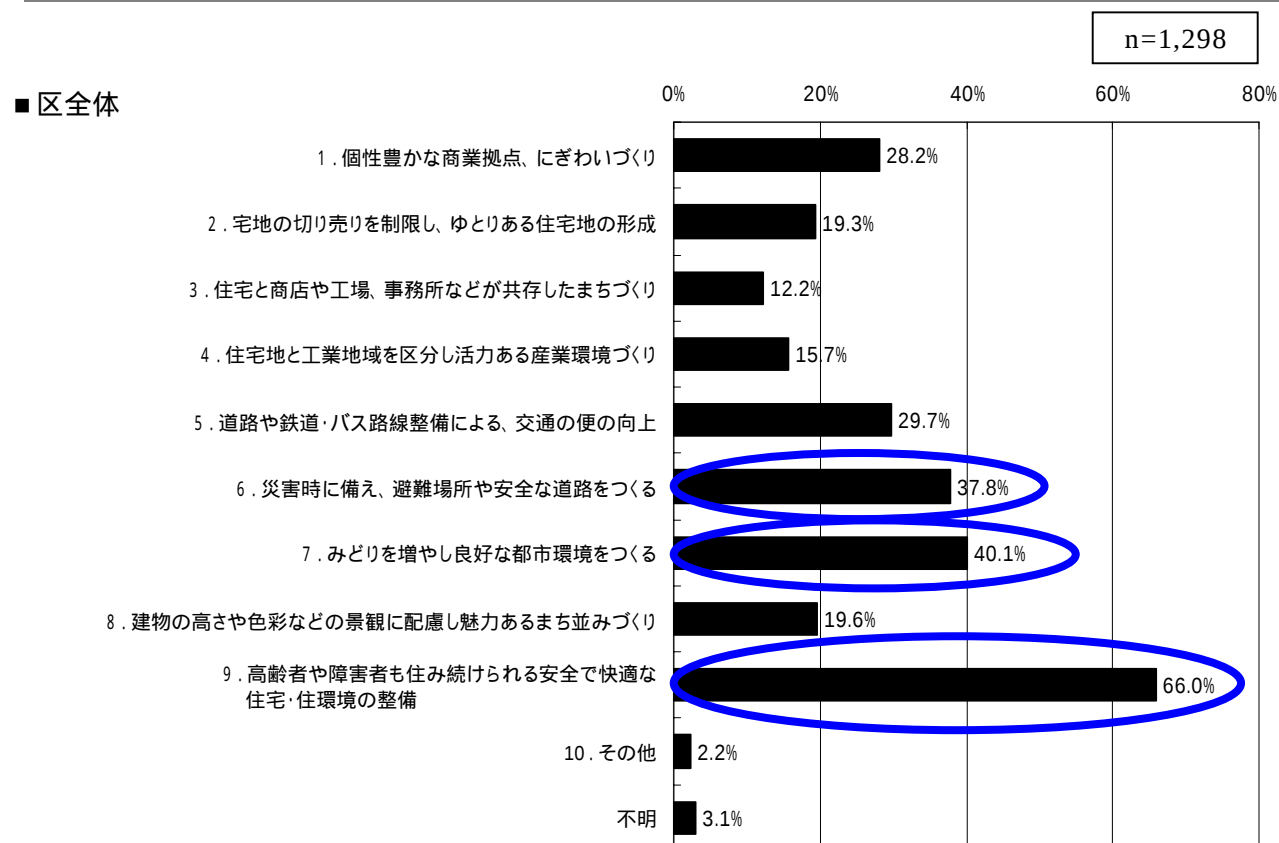
（1）まちづくり

問4 将来の板橋区を考え、より良いまちづくりをすすめるために重要だと思うものに○をつけてください。（○印は3つまで）

【区全体の傾向】

「9:高齢者や障害者も住み続けられる安全で快適な住宅・住環境の整備」が66.0%（857人）と最も多く、次いで「7:みどりを増やし良好な都市環境をつくる」の40.1%（520人）、「6:災害時に備え、避難場所や安全な道路をつくる」の37.8%（491人）となっている。

定住意向を反映して、緑化や防災面における良好な住環境の整備に対する期待が大きいことが伺える。



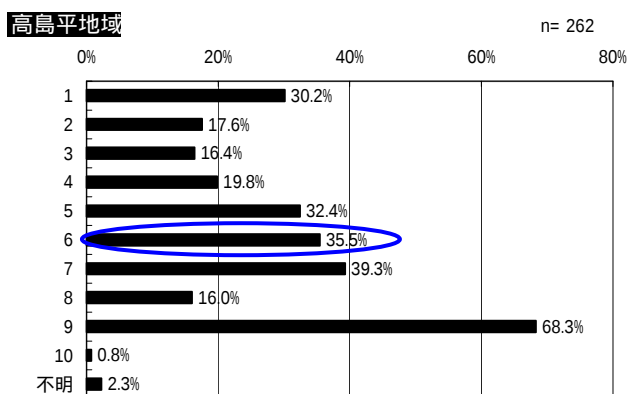
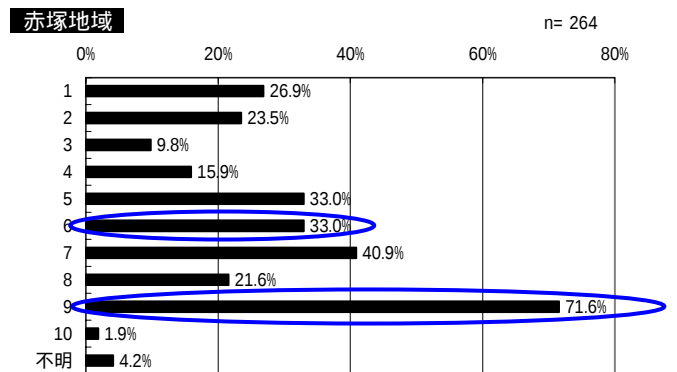
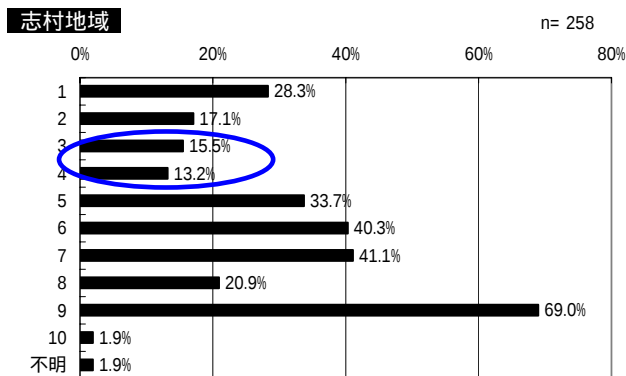
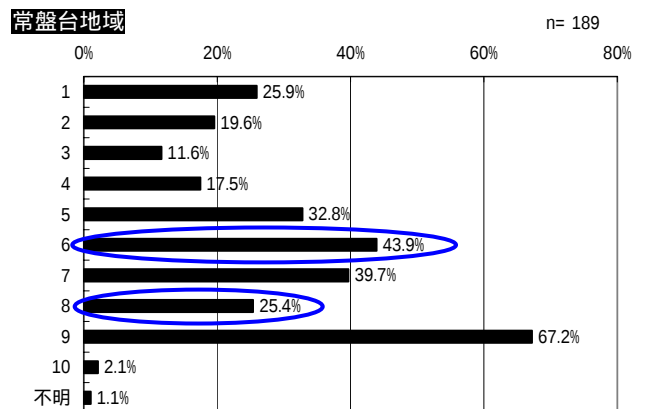
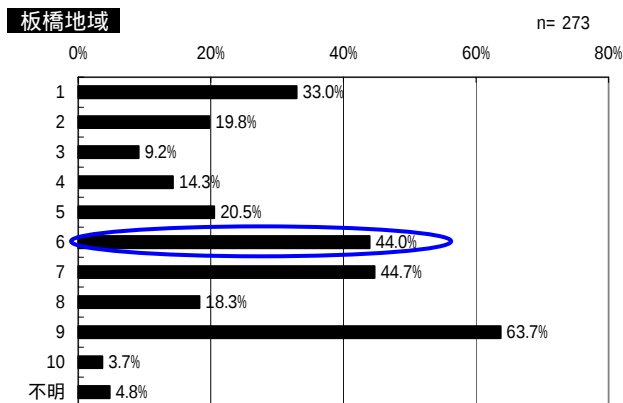
【地域別の傾向】

「6.災害時に備え、避難場所や安全な道路をつくる」では、板橋・常盤台地域が高くなっているのと比較して、赤塚・高島平地域では低くなっている。

その他に、常盤台地域で「8.建物の高さや色彩など景観に配慮し魅力あるまち並みづくり」、赤塚地域で「9.高齢者や障害者も住み続けられる安全で快適な住宅・住環境の整備」が他の地域と比べて若干高くなっている。

土地利用について、「3.住宅と商店や工場、事務所などが共存したまちづくり」と「4.住宅地と工業地域を区分し活力ある産業環境づくり」を比較すると、志村地域のみ、「3.住宅と商店や工場、事務所などが共存したまちづくり」のほうが「4.住宅地と工業地域を区分し活力ある産業環境づくり」より高く、他の地域での傾向と逆転している。

■ 地域別



1. 個性豊かな商業拠点、にぎわいづくり
2. 宅地の切り売りを制限し、ゆとりある住宅地の形成
3. 住宅と商店や工場、事務所などが共存したまちづくり
4. 住宅地と工業地域を区分し活力ある産業環境づくり
5. 道路や鉄道・バス路線整備による、交通の便の向上
6. 災害時に備え、避難場所や安全な道路をつくる
7. みどりを増やし良好な都市環境をつくる
8. 建物の高さや色彩などの景観に配慮し魅力あるまち並みづくり
9. 高齢者や障害者も住み続けられる安全で快適な住宅・住環境の整備
10. その他
不明

(2) 環境

問4 板橋区の環境をよくするうえで、区はどのようなことに力を入れるべきだと思いますか。
当てはまる番号に○をつけてください。(○印は3つまで)

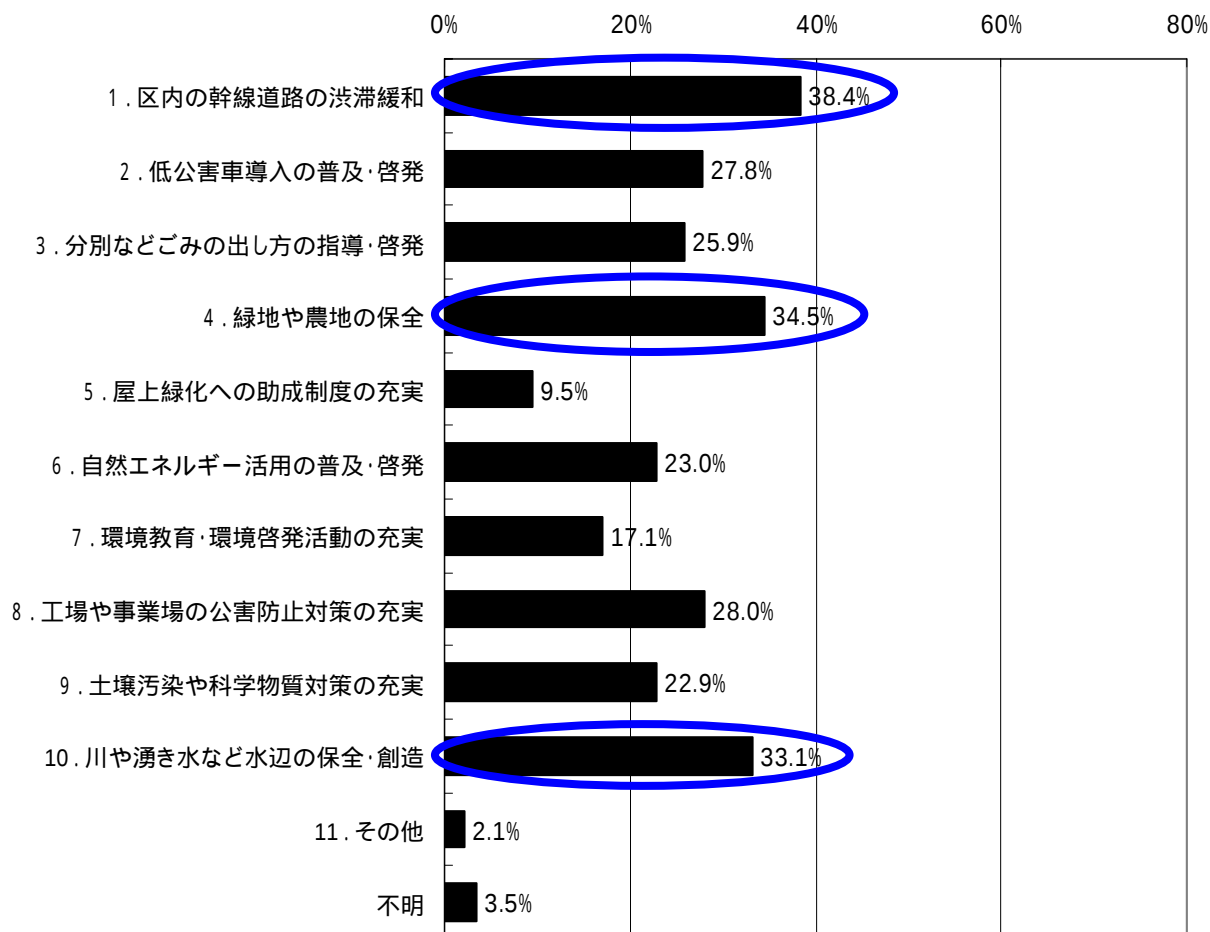
【区全体の傾向】

「1.区内の幹線道路の渋滞緩和」が38.4%(499人)と最も多く、次いで「4.緑地や農地の保全」の34.5%(448人)、「10.川や湧き水など水辺の保全・創造」の33.1%(430人)となっている。

中山道、川越街道、環状7号線など幹線道路の大気汚染の低減が求められているとともに、都市に潤いをもたらす、緑地や水辺の重要性を示している。

■ 区全体

n=1,298



【地域別の傾向】

「8.工場や事業場の公害防止対策の充実」に対して、志村・高島平地域が他の地域より高くなっている。

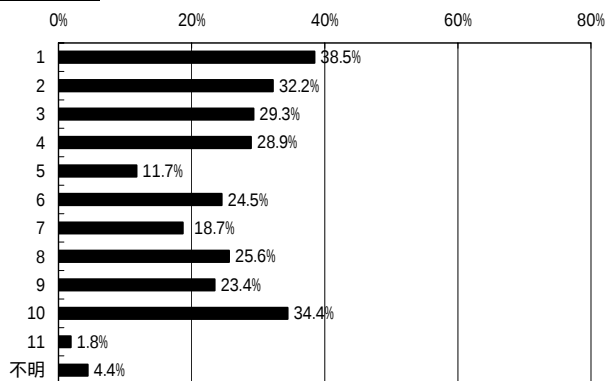
また、高島平地域では「10.川や湧き水など水辺の保全・創造」も他の地域と比べて高くなっている。

その他では、志村地域で「1.区内の幹線道路の渋滞緩和」が他の地域と比べて若干高くなっている。

■ 地域別

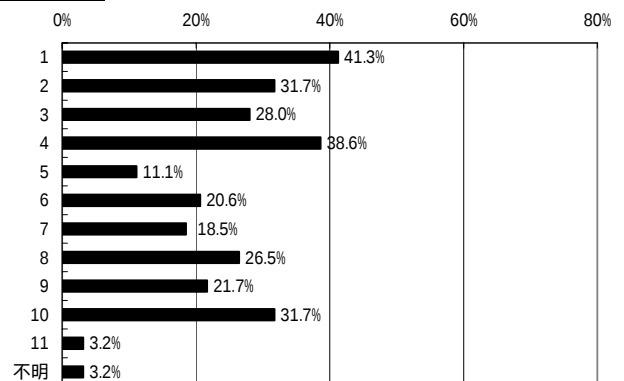
板橋地域

n= 273



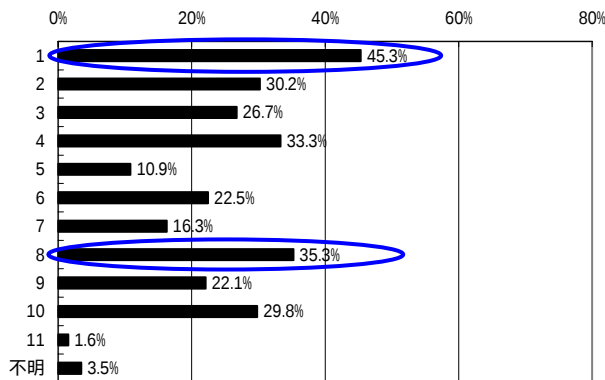
常盤台地域

n= 189



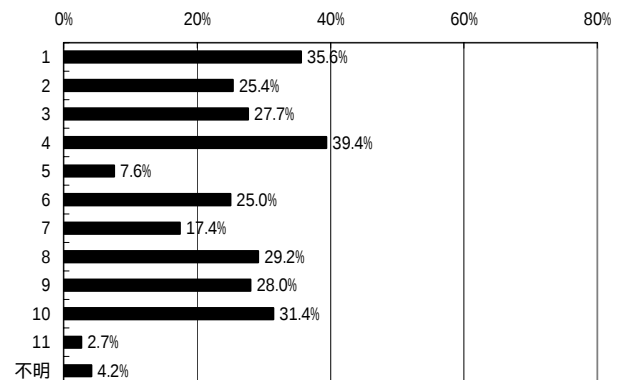
志村地域

n= 258



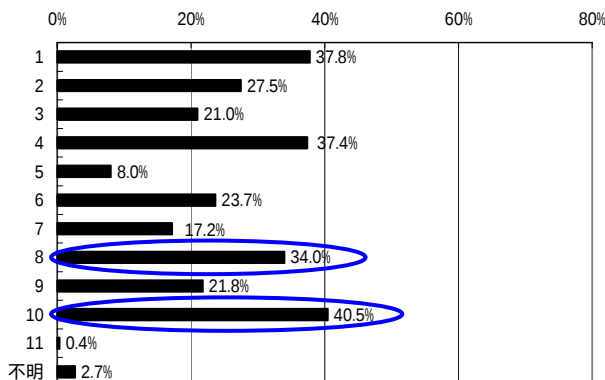
赤塚地域

n= 264



高島平地域

n= 262



1. 区内の幹線道路の渋滞緩和
2. 低公害車導入の普及・啓発
3. 分別などごみの出し方の指導・啓発
4. 緑地や農地の保全
5. 屋上緑化への助成制度の充実
6. 自然エネルギー活用の普及・啓発
7. 環境教育・環境啓発活動の充実
8. 工場や事業場の公害防止対策の充実
9. 土壌汚染や科学物質対策の充実
10. 川や湧き水など水辺の保全・創造
11. その他
不明

(3)「まちの姿」の将来像についての自由意見集計結果

問4 お住まいの地域の「まちの姿」は、将来、どうなっていればよいとお考えでしょうか。また、「まちの姿」が、将来、望ましいものとなるために、これから区と、区民のみなさんは、「どんなことに取り組むべき」でしょうか。ご意見を、お聞かせください。

■分析の方法

- ・ 自由意見欄に記入された各意見を以下のように分類して整理した。
- ・ 将来の望ましい「まちの姿」についての意見を、問1「生活に関する満足度」で設定した項目をもとに分類した。
- ・ 問1で設定した項目に分類できない意見は、「その他」の意見として分類した。
- ・ 分類した意見の回答者数と、意見数を集計した。回答者数、意見数については、地域別の集計も行った。
- ・ 項目については意見数が多い順に並べ替えた。
- ・ 将来の望ましい「まちの姿」に関して、意見数が多かった項目について、各意見に記述されていた「どんなことに取り組むべきか」の主な意見を整理した。整理にあたっては、全地域に共通する意見と、地域別に特徴的な意見を整理し、紹介している。

以上の方法による、「まちの姿」についての自由意見集計・整理結果を次項に示す。

■ 分析結果

□ 全体集計結果

○ 自由意見の回答数集計結果

	板橋		常盤台		志村		赤塚		高島平		合計	
	実数	割合 (%)	実数	割合 (%)	実数	割合 (%)	実数	割合 (%)	実数	割合 (%)	実数	割合 (%)
回答者数	124	20.3	90	14.7	130	21.2	145	23.7	123	20.1	612	100.0
意見数	220	21.0	169	16.2	216	20.7	234	22.4	207	19.8	1,046	100.0

	実数	割合 (%)
有効回答者数	1,298	100.0
まちの姿自由意見回答者数	612	47.1

○ 将来の望ましい「まちの姿」項目別意見数集計結果

回答者数： 612

項目	将来の望ましい「まちの姿」						板橋	常盤台	志村	赤塚	高島平	区全体	割合 (%)
1 憩える公園や緑地があり、自然環境が整っている							36	18	29	31	30	144	23.5
49 身近なまちが快適で魅力のある生活空間である							18	15	21	24	29	107	17.5
2 空気や水がきれい安心して生活できる							14	12	19	12	24	81	13.2
3 まちなみや景観が美しい							15	20	19	17	9	80	13.1
46 身近な道路が安全である							12	5	23	12	11	63	10.3
42 犯罪から守られている							20	5	9	15	5	54	8.8
16 魅力のある商店街が身近にある							10	9	9	12	7	47	7.7
47 自転車利用のマナーが守られている							10	8	9	12	4	43	7.0
4 ごみ出しのルール（分別・曜日・場所等）が守られている							9	9	8	12	2	40	6.5
13 すべての人が生活しやすいよう、バリアフリーのまちづくりが進められている							6	8	8	7	8	37	6.0
45 電車やバスが便利に利用できる							3	11	7	6	10	37	6.0
12 高齢者・障害者が生きがいを持って社会参加できる							6	4	6	9	10	35	5.7
5 リサイクルが進んでいる							4	6	2	9	10	31	5.1
25 地域社会にふれあいと交流がある							5	4	8	7	2	26	4.2
14 子育てしやすい環境が整っている							6	7	5	3	3	24	3.9
43 地震の時、建物倒壊や火災の延焼等の不安が少ない							7	6	3	1	3	20	3.3
9 高齢者のための福祉サービスが整っている							4	3	2	1	6	16	2.6
44 防災意識が高い							7	2	4	1	2	16	2.6
19 すべての人にとって働きやすい環境が整っている							2	3	2	4	2	13	2.1
40 板橋区が他の自治体に比べて誇れると感じる							2	2	2	5	1	12	2.0
36 まちづくりや区の計画づくりへの参加機会が充実している								1	3	3	3	10	1.6
21 健康で人間性豊かな子どもが育っている							1			2	5	8	1.3
22 家庭・地域・学校が協力して子育てに取り組んでいる							2			2	4	8	1.3
33 区政に関する情報を容易に得ることができる							1	1	2		3	7	1.1
39 板橋区に愛着を感じる							1	1	2	1	2	7	1.1
17 地域の工業に活力がある							1	1	1	1	1	5	0.8
10 障害者のための福祉サービスが整っている							1	1		1	1	4	0.7
7 休日・夜間も含め、安心して医療が受けられる							3					3	0.5
11 子どものための福祉サービスが整っている									1		2	3	0.5
18 農地が保全され、活用されている							2				1	3	0.5
28 芸術文化に親しみやすい							2		1			3	0.5
35 ボランティア活動がしやすい								1	1	1		3	0.5
27 歴史的文化財が保存・活用されている										2		2	0.3
48 住居の広さが十分である										1	1	2	0.3
6 健康づくりに取り組みやすい							1					1	0.2
8 衛生上の不安なく食品が入手できる										1		1	0.2
23 生涯学習に取り組むやすい										1		1	0.2
24 スポーツに取り組むやすい							1					1	0.2
34 区政が身近だと感じる										1		1	0.2
37 区の職員の対応が良い											1	1	0.2
50 その他							8	6	10	17	5	46	7.5
合計							220	169	216	234	207	1,046	

* 割合は、区全体意見数の回答者数に対する割合

□地域別集計結果

○板橋地域

回答者数 124

意見数 220

項目	将来の望ましい「まちの姿」	意見数	割合 (%)
1	憩える公園や緑地があり、自然環境が整っている	36	29.0
42	犯罪から守られている	20	16.1
49	身近なまちが快適で魅力のある生活空間である	18	14.5
3	まちなみや景観が美しい	15	12.1
2	空気や水がきれいで安心して生活できる	14	11.3
46	身近な道路が安全である	12	9.7
16	魅力のある商店街が身近にある	10	8.1
47	自転車利用のマナーが守られている	10	8.1
4	ごみ出しのルール（分別・曜日・場所等）が守られている	9	7.3
43	地震の時、建物倒壊や火災の延焼等の不安が少ない	7	5.6
44	防災意識が高い	7	5.6
12	高齢者・障害者が生きがいを持って社会参加できる	6	4.8
13	すべての人が生活しやすいよう、バリアフリーのまちづくりが進められている	6	4.8
14	子育てしやすい環境が整っている	6	4.8
25	地域社会にふれあいと交流がある	5	4.0
5	リサイクルが進んでいる	4	3.2
9	高齢者のための福祉サービスが整っている	4	3.2
7	休日・夜間も含め、安心して医療が受けられる	3	2.4
45	電車やバスが便利に利用できる	3	2.4
18	農地が保全され、活用されている	2	1.6
19	すべての人にとって働きやすい環境が整っている	2	1.6
22	家庭・地域・学校が協力して子育てに取り組んでいる	2	1.6
28	芸術文化に親しみやすい	2	1.6
40	板橋区が他の自治体に比べて誇れると感じる	2	1.6
6	健康づくりに取り組みやすい	1	0.8
10	障害者のための福祉サービスが整っている	1	0.8
17	地域の工業に活力がある	1	0.8
21	健康で人間性豊かな子どもが育っている	1	0.8
24	スポーツに取り組みやすい	1	0.8
33	区政に関する情報を容易に得ることができる	1	0.8
39	板橋区に愛着を感じる	1	0.8
50	その他	8	6.5

○ 常盤台地域

回答者数	90
------	----

意見数	169
-----	-----

項目	将来の望ましい「まちの姿」	意見数	割合 (%)
3	まちなみや景観が美しい	20	22.2
1	憩える公園や緑地があり、自然環境が整っている	18	20.0
49	身近なまちが快適で魅力のある生活空間である	15	16.7
2	空気や水がきれいで安心して生活できる	12	13.3
45	電車やバスが便利に利用できる	11	12.2
4	ごみ出しのルール（分別・曜日・場所等）が守られている	9	10.0
16	魅力のある商店街が身近にある	9	10.0
13	すべての人が生活しやすいよう、バリアフリーのまちづくりが進められている	8	8.9
47	自転車利用のマナーが守られている	8	8.9
14	子育てしやすい環境が整っている	7	7.8
5	リサイクルが進んでいる	6	6.7
43	地震の時、建物倒壊や火災の延焼等の不安が少ない	6	6.7
42	犯罪から守られている	5	5.6
46	身近な道路が安全である	5	5.6
12	高齢者・障害者が生きがいを持って社会参加できる	4	4.4
25	地域社会にふれあいと交流がある	4	4.4
9	高齢者のための福祉サービスが整っている	3	3.3
19	すべての人にとって働きやすい環境が整っている	3	3.3
40	板橋区が他の自治体に比べて誇れると感じる	2	2.2
44	防災意識が高い	2	2.2
10	障害者のための福祉サービスが整っている	1	1.1
17	地域の工業に活力がある	1	1.1
33	区政に関する情報を容易に得ることができる	1	1.1
35	ボランティア活動がしやすい	1	1.1
36	まちづくりや区の計画づくりへの参加機会が充実している	1	1.1
39	板橋区に愛着を感じる	1	1.1
50	その他	6	6.7

○ 志村地域

回答者数 130

意見数 216

項目	将来の望ましい「まちの姿」	意見数	割合 (%)
1	憩える公園や緑地があり、自然環境が整っている	29	22.3
46	身近な道路が安全である	23	17.7
49	身近なまちが快適で魅力のある生活空間である	21	16.2
2	空気や水がきれいで安心して生活できる	19	14.6
3	まちなみや景観が美しい	19	14.6
16	魅力のある商店街が身近にある	9	6.9
42	犯罪から守られている	9	6.9
47	自転車利用のマナーが守られている	9	6.9
4	ごみ出しのルール（分別・曜日・場所等）が守られている	8	6.2
13	すべての人が生活しやすいよう、バリアフリーのまちづくりが進められている	8	6.2
25	地域社会にふれあいと交流がある	8	6.2
45	電車やバスが便利に利用できる	7	5.4
12	高齢者・障害者が生きがいを持って社会参加できる	6	4.6
14	子育てしやすい環境が整っている	5	3.8
44	防災意識が高い	4	3.1
36	まちづくりや区の計画づくりへの参加機会が充実している	3	2.3
43	地震の時、建物倒壊や火災の延焼等の不安が少ない	3	2.3
5	リサイクルが進んでいる	2	1.5
9	高齢者のための福祉サービスが整っている	2	1.5
19	すべての人にとって働きやすい環境が整っている	2	1.5
33	区政に関する情報を容易に得ることができる	2	1.5
39	板橋区に愛着を感じる	2	1.5
40	板橋区が他の自治体に比べて誇れると感じる	2	1.5
11	子どものための福祉サービスが整っている	1	0.8
17	地域の工業に活力がある	1	0.8
28	芸術文化に親しみやすい	1	0.8
35	ボランティア活動がしやすい	1	0.8
50	その他	10	7.7

○ 赤塚地域

回答者数 145

意見数 234

項目	将来の望ましい「まちの姿」	意見数	割合 (%)
1	憩える公園や緑地があり、自然環境が整っている	31	21.4
49	身近なまちが快適で魅力のある生活空間である	24	16.6
3	まちなみや景観が美しい	17	11.7
42	犯罪から守られている	15	10.3
2	空気や水がきれいで安心して生活できる	12	8.3
4	ごみ出しのルール（分別・曜日・場所等）が守られている	12	8.3
16	魅力のある商店街が身近にある	12	8.3
46	身近な道路が安全である	12	8.3
47	自転車利用のマナーが守られている	12	8.3
5	リサイクルが進んでいる	9	6.2
12	高齢者・障害者が生きがいを持って社会参加できる	9	6.2
13	すべての人が生活しやすいよう、バリアフリーのまちづくりが進められている	7	4.8
25	地域社会にふれあいと交流がある	7	4.8
45	電車やバスが便利に利用できる	6	4.1
40	板橋区が他の自治体に比べて誇れると感じる	5	3.4
19	すべての人にとって働きやすい環境が整っている	4	2.8
14	子育てしやすい環境が整っている	3	2.1
36	まちづくりや区の計画づくりへの参加機会が充実している	3	2.1
21	健康で人間性豊かな子どもが育っている	2	1.4
22	家庭・地域・学校が協力して子育てに取り組んでいる	2	1.4
27	歴史的文化財が保存・活用されている	2	1.4
8	衛生上の不安なく食品が入手できる	1	0.7
9	高齢者のための福祉サービスが整っている	1	0.7
10	障害者のための福祉サービスが整っている	1	0.7
17	地域の工業に活力がある	1	0.7
23	生涯学習に取り組みやすい	1	0.7
34	区政が身近だと感じる	1	0.7
35	ボランティア活動がしやすい	1	0.7
39	板橋区に愛着を感じる	1	0.7
43	地震の時、建物倒壊や火災の延焼等の不安が少ない	1	0.7
44	防災意識が高い	1	0.7
48	住居の広さが十分である	1	0.7
50	その他	17	11.7

○高島平地域

回答者数 123

意見数 207

項目	将来の望ましい「まちの姿」	意見数	割合 (%)
1	憩える公園や緑地があり、自然環境が整っている	30	24.4
49	身近なまちが快適で魅力のある生活空間である	29	23.6
2	空気や水がきれいで安心して生活できる	24	19.5
46	身近な道路が安全である	11	8.9
5	リサイクルが進んでいる	10	8.1
12	高齢者・障害者が生きがいを持って社会参加できる	10	8.1
45	電車やバスが便利に利用できる	10	8.1
3	まちなみや景観が美しい	9	7.3
13	すべての人が生活しやすいよう、バリアフリーのまちづくりが進められている	8	6.5
16	魅力のある商店街が身近にある	7	5.7
9	高齢者のための福祉サービスが整っている	6	4.9
21	健康で人間性豊かな子どもが育っている	5	4.1
42	犯罪から守られている	5	4.1
22	家庭・地域・学校が協力して子育てに取り組んでいる	4	3.3
47	自転車利用のマナーが守られている	4	3.3
14	子育てしやすい環境が整っている	3	2.4
33	区政に関する情報を容易に得ることができる	3	2.4
36	まちづくりや区の計画づくりへの参加機会が充実している	3	2.4
43	地震の時、建物倒壊や火災の延焼等の不安が少ない	3	2.4
4	ごみ出しのルール（分別・曜日・場所等）が守られている	2	1.6
11	子どものための福祉サービスが整っている	2	1.6
19	すべての人にとって働きやすい環境が整っている	2	1.6
25	地域社会にふれあいと交流がある	2	1.6
39	板橋区に愛着を感じる	2	1.6
44	防災意識が高い	2	1.6
10	障害者のための福祉サービスが整っている	1	0.8
17	地域の工業に活力がある	1	0.8
18	農地が保全され、活用されている	1	0.8
37	区の職員の対応が良い	1	0.8
40	板橋区が他の自治体に比べて誇れると感じる	1	0.8
48	住居の広さが十分である	1	0.8
50	その他	5	4.1

□項目別の「取り組むべきこと」主な意見集計・整理結果

1 憩える公園や緑地があり、自然環境が整っている

全地域に共通する意見

- ・公園の維持管理が行き届いていない面がある。清掃やトイレの整備、生い茂った木々の下枝を払って見通しよくするなどが必要。
- ・屋上緑化を充実させるなど建物を緑豊かに。
- ・小さな公園はあるが、まとまった土地で大きな公園がほしい。
- ・小さな子供を安心して遊ばせる場所が不足している
- ・ケヤキなどの街路樹を充実させ、夏に木陰をつくる。

板橋地域

- ・工場などの移転に伴う空地は、積極的に公園化したい。
- ・道路沿いなど小さな場所でも積極的に緑化すべき。区と住民が協力して花壇だけでも良いミニ公園をつくる。
- ・高島平や常盤台はみどりが充実しているが他地域は少なく、区内での地域差を解消したい。
- ・緑地保全のため、みどりの基金を充実し、活用する。

常盤台地域

- ・現在残っている民間の緑地の保全対策を。地主さんの好意により公園として活用している例を見かけるが、区が買い取り公園のまま維持してほしい。
- ・石神井川沿いの桜並木はすばらしく、いつまでも保全したい。
- ・公園の造園、維持管理、農地の活用など、区民や小学生が趣味や学習のために活用し、人のつながりをつくる。

志村地域

- ・幹線道路の整備によって、西台・若木地区の貴重な樹林地がなくなってしまった。こうした緑の再生に力を入れていくべき。
- ・都内のわりに緑が充実していると思います。緑を保全する取り組みを。
- ・家のすぐ近くに北区の自然観察公園があり、湧き水が出てメダカやオタマジャクシとふれあえます。湧き水を活用した自然公園を整備してほしい。
- ・サンシティは、団地の中に山があり、緑が豊富で近所の人たちの憩いの場にもなっています。住民が自発的に緑づくりに励んでいます。団地は、このように周辺にも貢献するかたちで開発できたらよいです。

赤塚地域

- ・他地域に比べ、公園・緑地が充実していると思うが、今後は、農地をできるだけ買い取り、緑地として確保したい。
- ・樹木の伐採や、崖地での造成を伴う住宅開発が目立つ。自然を残しながら開発を抑制する仕組みをつくりたい。

高島平地域

- ・荒川河川敷の利用方法について、高齢者も運動を楽しめる「パークゴルフ場」の整備を行ってほしい。
- ・赤塚公園、赤塚城址公園などで季節ごとに美しい花が鑑賞でき、すばらしい。都会の中での貴重な空間なので、観光面も含め、PRして大切に守りたい。
- ・区民農園だったところにマンションや家が建つようになった。区民農園は希望者が多く、活用するのが難しい。これ以上の開発は規制し、農地として確保したい。

- ・昭和30年頃まで赤塚公園付近には沢ガニが住んでいた。こうした環境を望むのは難しいが、湧水のある場所は、水質の保全と水量を現在以上に湧出する対策を行い、区民が憩える場を拡充したい。
- ・公園の近くに住んでいるが、深夜まで若者がバイクを乗り入れたり、話し声がしたり、困っている。夜間パトロールなどを行う必要がある。

49 身近なまちが快適で魅力のある生活空間である

全地域に共通する意見

- ・歩きたばこなどを禁止する、禁煙区域を千代田区を参考に条例で区全域に定める。
- ・犬のフンを道に放置していく人がおり、厳しく規制したい。

板橋地域

- ・工業地域のため、高層マンションが立地可能であるが、景観だけでなく日照問題などを考え、住みやすい環境にしていく。
- ・住宅地と工業地を分離し、歩行者優先の道路計画などをあわせて行う。
- ・高齢者や障害者も安全で快適に住み続けられる住宅を増やし、住環境を整備する。
- ・住宅の密集化を減らし、日照や快適な居住空間を確保する
- ・調和のとれた街並みと見通しの良い道をつくる。
- ・住宅地で公園、学校、公共施設も充実しており、静かで良いところなので将来も環境を維持したい。
- ・花を植えても心ない人がとったり、道などにゴミを捨てたりするので、モラルを高めることができる取り組みを進める。

常盤台地域

- ・常盤台地区は、様々な工夫（緑地、公園、学校や図書館、住んでいる人々の庭造りなどの努力）により住環境が保たれており、こうした努力を続けて住環境を保つ。
- ・住宅地には、日照問題もあり、高層のマンションが建たないようにしたい。マンションを建てる場合は、低層に抑え、周囲全体に樹を植えるなどを義務付ける。
- ・1階が保育園、2階が高齢者住宅、3階より上が住まい、屋上が緑地のように、多様な世代が快適に暮らす建物を増やす。
- ・住宅・工場・商店、事務所が共存したまちをめざす。住宅地は、二世帯住宅を増やすなど、バランスのとれた年齢層にし、商店や工場、事務所は、例えば、吉祥寺のように、子供からお年寄りまで、それぞれが楽しめる商店を増やし、その商店を支える、工場、事務所を周囲に共存させるのがよい。

志村地域

- ・ほんの少しの空き地、野原に、あっという間に住宅が建つ。日増しに空間、自然がせばめられ息が詰まる。少しでも自然を残せる対策をたてる。
- ・駅舎を含む関連施設の整備により、駅前を魅力的な空間にする。
- ・鉄道と道路の立体交差化、区画整理による道路、住宅地の整備、電柱の地下化等で、魅力あるまちにする。
- ・個性的な中小企業と商店等を積極的に支援し、職場と住居の両立をめざす。
- ・幹線道路の工事も進んでおり、近い将来圧迫感と騒音に悩まされると思われる。そのための緩和策をどうすべきかを検討すべき。

赤塚地域

- ・夏場に、クーラーを使用しなくてすむよう、ゆとりのある住宅地・風がぬけるような緑地の形成をめざし、省エネと、体にやさしい住環境をつくる。
- ・相続などの影響により、農地などでの開発が盛んである。中高層住宅は、紛争防止のための条例ができましたが、戸建開発などにも近隣問題が発生するケースも多く、地区の特性を考慮した建築行政が希望される。
- ・駅周辺整備に力を入れて欲しい。商業施設周辺では、道路に自転車があふれ、車交通とあわさり危険。踏切の解消、架橋や地下鉄化などの対策が望まれる。
- ・大きな公園を中心に生活できるスタイル。休日には広い公園でのんびりし、運動したり、フリーマーケットを楽しんだり、子ども同士で遊んだりできる。公園のまわりには、魅力的な商店街があり、病院や福祉施設などもある。道路や建物はもう少しゆったりとつくられ、電柱は地下へ。マンションの1階部分は、店舗や病院にする。屋上は緑化する。並木道や噴水もつくり魅力的に。

高島平地域

- ・学校のあいているスペースを利用して高齢者が気軽にスポーツをいつでもできる様にする。(民間は高いのでスポーツがなかなかできない。)
- ・住宅と商店や工場、事務所が共存した災害に強いまちにする。工場と住宅の共存は、公害騒音などを含め、難しい問題と思うが、公園や緑道などを介しての区別など、くふうして住宅計画を進める。
- ・高島平区出張所改築には劇場映画館スポーツ施設を導入するなど、人と人とが交流し、憩いの場となる魅力的な施設をつくる。
- ・駅周辺の道路整備を進め、渋滞緩和だけでなく人の流れを活発にする。各住民の最寄り駅周辺での動きが活性化され、魅力ある百貨店等の取り込みも可能になる。

2 空気や水がきれいで安心して生活できる

全地域に共通する意見

- ・幹線道路の渋滞緩和対策を進める。通過交通を規制する対策を行う。
- ・低公害車の導入を普及させる対策を進め、排気ガスによる空気の汚染をなくす。
- ・太陽光などを活用する自然エネルギー利用を普及させる。

常盤台地域

- ・石神井川の水をきれいにする対策を進める。

高島平地域

- ・20年前に比べ、工場の排気によるにおいなどは良くなった。
- ・夜間になると工場からけむりのにおいがするので、規制が必要。
- ・新河岸川の水をきれいにする対策を進める。

3 まちなみや景観が美しい

全地域に共通する意見

- ・マンション開発など開発の波がはげしい。高さや色彩などについてルールをつくり、落ち着いた街並みをつくる。
- ・まちの緑を、屋上緑化や壁面緑化により増やす。
- ・電線地中化を進め、すっきりした街並みを形成する。
- ・捨て看板の規制を強化する。

板橋地域

- ・歴史的建物を保全し、なごみの空間を活かしたまちづくりを行う。
- ・建物の高さ規制に関連し、「景観権」を保障する条例などのルールをつくる。

常盤台地域

- ・今ある緑を大切に、子供から大人まで安心して暮らせるきれいなまちを望みます。
- ・駅前に高層マンションが建設されるようですが、ベランダにふとんや干し物が干してあったら、景観が悪い。駅前ではあるが、高さを規制する方向に行ってほしい。

志村地域

- ・家の道路に面する側に、生垣により緑を連続させる。
- ・一戸建ての開発の際の最低敷地規模のルールを決め、ゆとりがあり、緑豊かな街並みをつくる。

赤塚地域

- ・駅前のパチンコ店などの印象が良くないので、美しい景観に変える。
- ・新しいマンションと古い街並みの調和が取れていない。旧来の街並みとの調和を図るところでは、3階までとするなど、ルールをつくる。

46 身近な道路が安全である

全地域に共通する意見

- ・狭い歩道の中に、歩行者と自転車が混在して通行しているので危ない。自転車専用道の整備や、自転車通行ルールのマナーの徹底を図る対策が必要。
- ・夜道が暗い。街灯を整備するなどにより、安心して歩けるようにしたい。
- ・生活道路に車が入ってきて危ない。子供や高齢者などが安心できるよう、車の進入防止対策を進める。
- ・歩道があっても、歩道上に物が置いてあるなど、通行に支障があるところがある。歩道を広く使うルールを徹底したい。

志村地域

- ・坂道が多く、車や自転車から見えにくい信号や危険な交差点があるので、交通安全対策が必要。

42 犯罪から守られている

全地域に共通する意見

- ・ ピッキング、ひったくり、空き巣などの犯罪が増えている。警察による夜間パトロールなどを増やしてほしい。
- ・ 治安が良くなれば、住みやすいイメージにつながる。
- ・ 犯罪が多いなかで、外国人が関係するケースが増えている。適切な対策が必要。
- ・ 暗い夜道には、街灯を設置する。

板橋地域

- ・ 区民が協力し合って、防犯パトロールやボランティア活動に参加する。そのための企画の情報発信や、拠点となる場所をつくる。
- ・ 子供たちを犯罪から守るため、地域での防犯対策に力を入れる。
- ・ 空き巣は、小さい家が密集していて死角の多いところでおきる。被害状況や、被害に遭いやすい場所と、防止対策をホームページ上で公開するなど、情報提供したほうがよい。

16 魅力のある商店街が身近にある

全地域に共通する意見

- ・ 1つの商店街で、いろいろなものが買えて買い物の用事が済むようにしたい。
- ・ チェーン店にはない、個性的なお店を増やし、若者もよべる環境を整備する。
- ・ 商店街に、1箇所でも良いので、休めるところ（ベンチや花壇がある）を整備する。
- ・ 商店街の陳列棚や荷台、看板などが道にはみ出しており、歩行者が通りにくく、お店側でも通りやすくする努力をすべき。

板橋地域

- ・ 中板橋地区の商店街は魅力的。お祭りも盛んでにぎやかであり、この状態を保ってほしい。しかし、最近では、お店が減ってきているので、後継者問題などの対策が必要と思う。

高島平地域

- ・ 魅力ある商店街がない上、大規模店舗の出店の影響で、既存の小売店が閉店している。個性ある商店街づくりを進めるべき。

47 自転車利用のマナーが守られている

全地域に共通する意見

- ・ 駅周辺に放置自転車が多い。歩道が歩きにくい。視覚障害者の方の為に点字ブロック上に駐輪しているところもある。駐輪場の整備と撤去作業などを充実させる。
- ・ 商店街の歩く道に自転車が止めてあり、通行に困る。駐輪場所を確保すべき。
- ・ 歩道内を走る自転車が怖い。スピードが出ていたり、夜間、点灯しないで走るの、歩いているのが怖い。自転車にのときのマナーを徹底する講習会などの充実を。罰則を決めても良い。

4 ごみ出しのルール（分別・曜日・場所等）が守られている

全地域に共通する意見

- ・ごみ出しのルールが守られていないため、深夜に出した生ごみがカラスに荒らされている。カラスが近年、増えている。ごみ出しルールの徹底、防鳥ネットの整備、収集ボックスの整備を行う。
- ・集合住宅や、外国人の方で、ごみ出しのルールを守らない人がいるので、啓発活動を充実させる。

5 リサイクルが進んでいる

全地域に共通する意見

- ・ペットボトルの回収場所を増やし、リサイクルを充実する。
- ・フリーマーケットなどリサイクル活動を充実させる。
- ・リサイクルのための回収ボックス設置を充実させる。（電池、牛乳パック、ペットボトル、発泡スチロールなど）

13 すべての人が生活しやすいよう、バリアフリーのまちづくりが進められている

全地域に共通する意見

- ・鉄道駅では、エレベーター・エスカレーターの整備を行ってほしい。エスカレーターは、昇りが整備されていても下りがないところがある。下りのほうが、足が不自由な場合はきついので整備が必要。
- ・歩道の段差は、車椅子やベビーカーにとって、通行の障害となるので解消してほしい。
- ・車道との段差を解消するためなどに歩道がかまぼこ型に波をうつ。車椅子利用の際、傾いてしまうので、平らにしてほしい。
- ・高齢者などが渡りきらないうちに、歩行者用信号が赤になってしまう交差点があるので、対策が必要。

45 電車やバスが便利に利用できる

全地域に共通する意見

- ・鉄道同士を結ぶ公共交通機関を充実すべき。東武東上線と都営三田線、都営大江戸線、ＪＲ埼京線と西武線。巡回バスの運行などが考えられる。
- ・バス路線をさらに充実する。自動車の交通量を減らす対策にもつなげる。

高島平地域

- ・都営三田線は、西高島平で止まっているが、和光市や成増に向けて延伸し、東武東上線と接続してほしい。

43 地震の時、建物倒壊や火災の延焼等の不安が少ない

44 防災意識が高い

全地域に共通する意見

- ・住宅が密集しているところでは、火災が起きると燃え広がることが心配。最近の戸建て住宅は、隣と隙間がなく建ててしまう。不燃化建物を増やし、ゆとりをもった建物を建てるルールを決めるなどの対策が必要。
- ・避難場所の整備が必要。避難場所では、水やトイレなど災害時に備えた物資の備蓄も必要。
- ・避難路を使って、災害時に避難場所にたどり着けるか心配。防災訓練を充実して行い、日頃から防災意識を高め、まちの状況を知っておくことが重要。

50 その他

全地域に共通する意見

- ・鉄道の踏切が、開かずの踏み切りになっている。地下道か高架橋の整備を行うなどの対策が必要。
- ・ホームレスが増えているので対策が必要。
- ・年末などに道路工事が多く、有効性を検証してほしい。
- ・道路による騒音に悩まされている。舗装材を改良するなどにより、車が通行しても静かな道路にしてほしい。

第3部 将来像に対する意識

2 人のくらし

関連するテーマ：
 少子・高齢社会、区民の価値観の多様化を背景とした
 健康・福祉、文化・スポーツ、安全・安心、教育、仕事 など

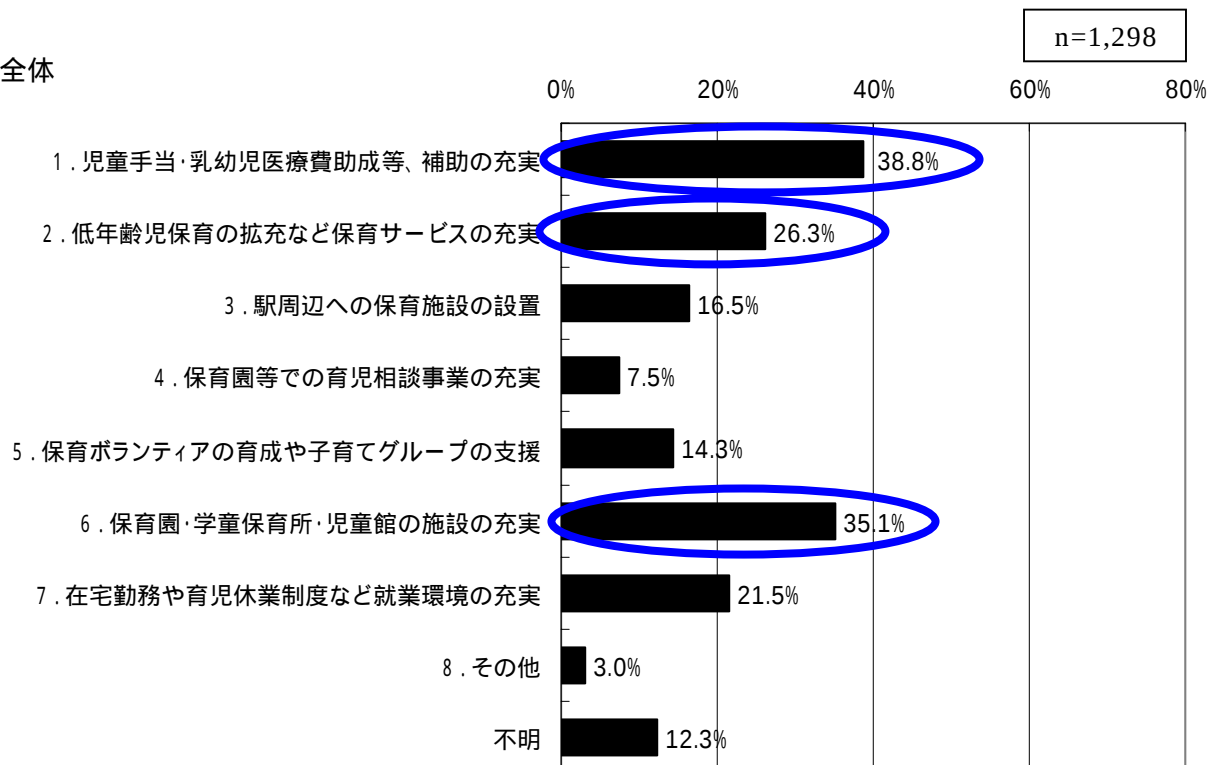
(1) 子育て環境

問5 少子化が進む中で、子どもを持ちたい人が安心して子どもを産み、育てることができる社会をつくっていくことが求められています。子育て支援のため、区は、どのような施策に力を入れるべきだと思いますか。あてはまる番号に○をつけてください。(○印は2つまで)

【区全体の傾向】

「1.児童手当・乳幼児医療費助成等、補助の充実」が38.8%(503人)と最も多く、次いで「6.保育園・学童保育所・児童館の施設の充実」の35.1%(455人)、「2.低年齢児保育の拡充など保育サービスの充実」の26.3%(341人)となっている。
 行政に対する期待として、経済的支援と施設面での環境整備が求められている。

■ 区全体



【年代別の傾向】

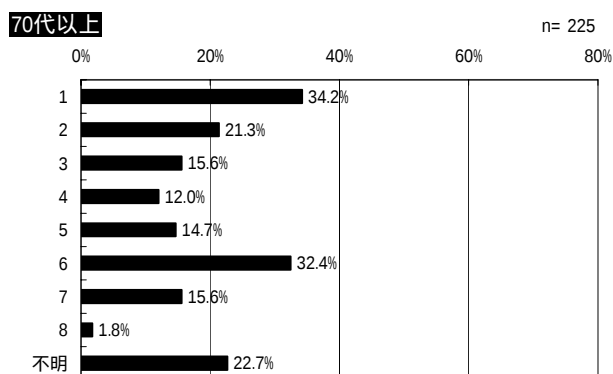
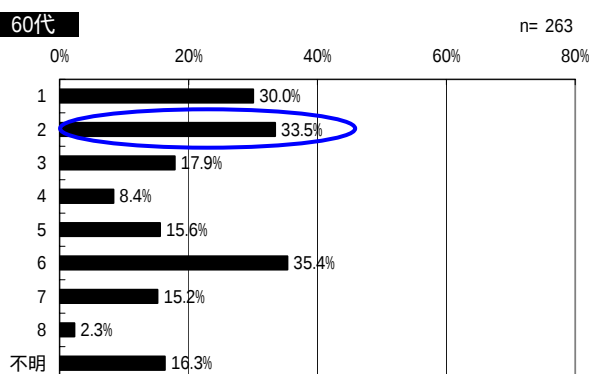
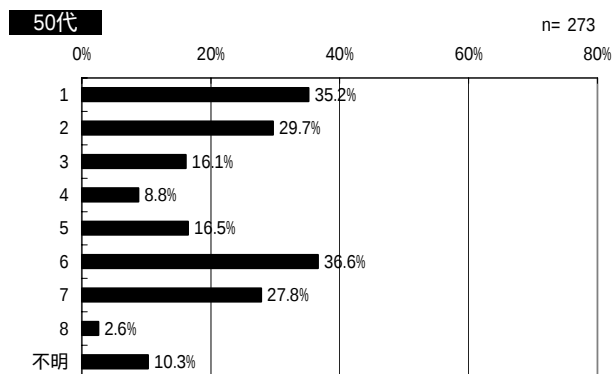
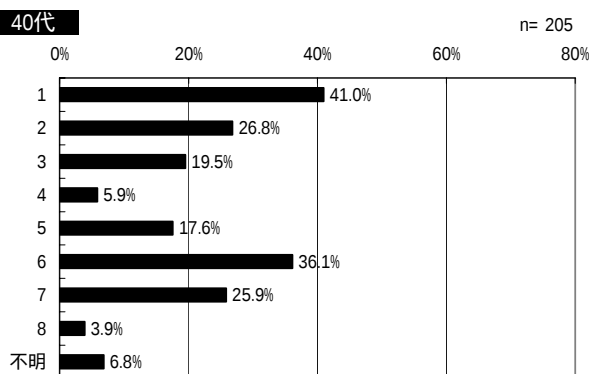
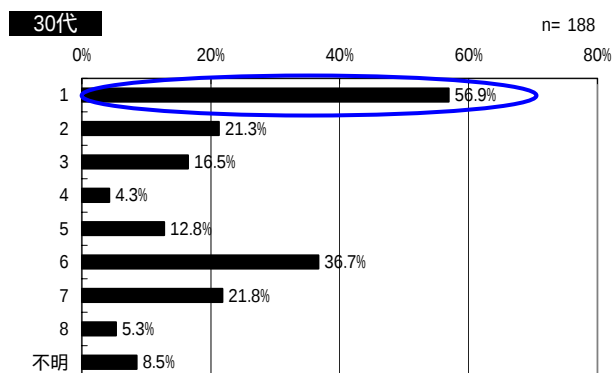
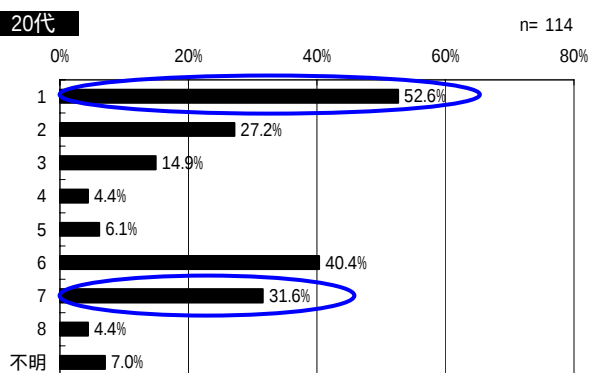
20代、30代で、「1.児童手当等補助の充実」が特に高い。

また、20代では、「7.在宅勤務や育児休業制度など就業環境の充実」も高い。

60代で、「2.保育サービスの充実」が高くなっている。

1. 児童手当・乳幼児医療費助成等、補助の充実
2. 低年齢児保育の拡充など保育サービスの充実
3. 駅周辺への保育施設の設置
4. 保育園等での育児相談事業の充実
5. 保育ボランティアの育成や子育てグループの支援
6. 保育園・学童保育所・児童館の施設の充実
7. 在宅勤務や育児休業制度など就業環境の充実
8. その他
不明

■ 年代別



(2) 学校教育

問5 区立小・中学校での教育について、重要と思うものはどんなことでしょうか。あてはまる番号に○をつけてください。(○印は3つまで)

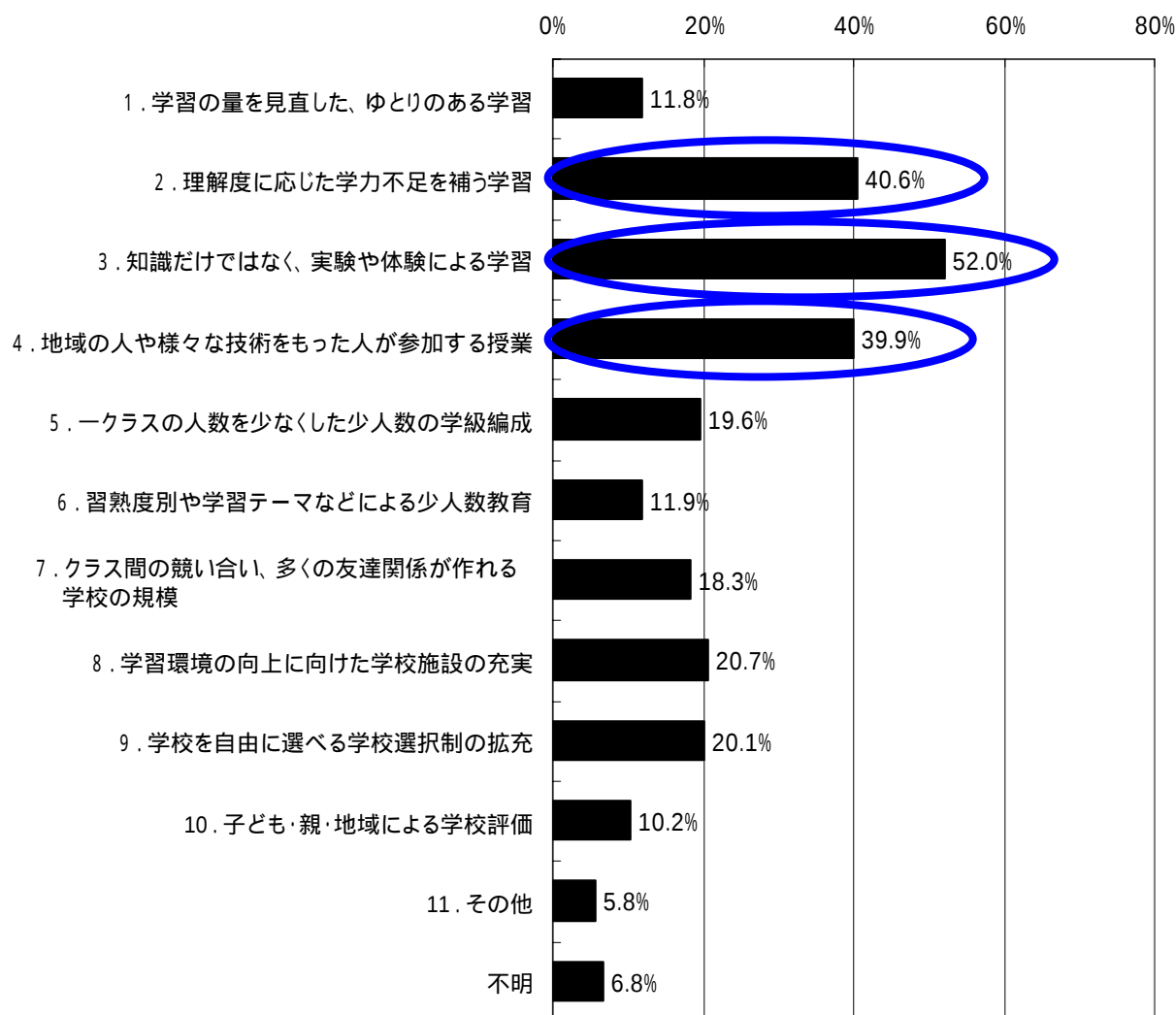
【区全体の傾向】

「3.知識だけでなく、実験や体験による学習」が52.0%(675人)と最も多く、次いで「2.理解度に応じた学力不足を補う学習」の40.6%(527人)、「4.地域の人や様々な技術をもった人が参加する授業」の39.9%(518人)となっている。

学校選択制や少人数クラスなど、教育体制の変革よりも、児童・生徒一人ひとりの学習力を伸ばす学習内容に対する期待が大きいことが伺える。

■ 区全体

n=1,298



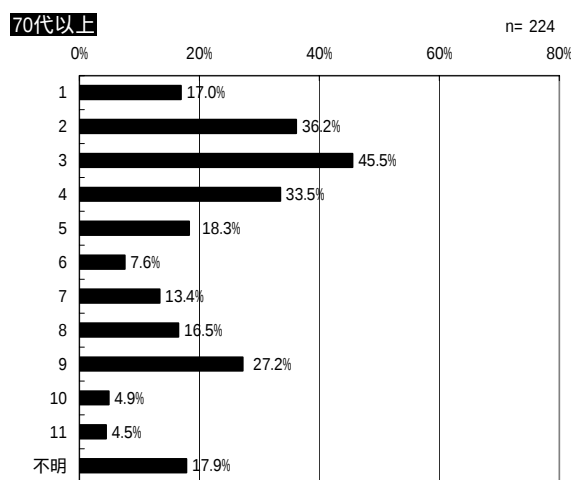
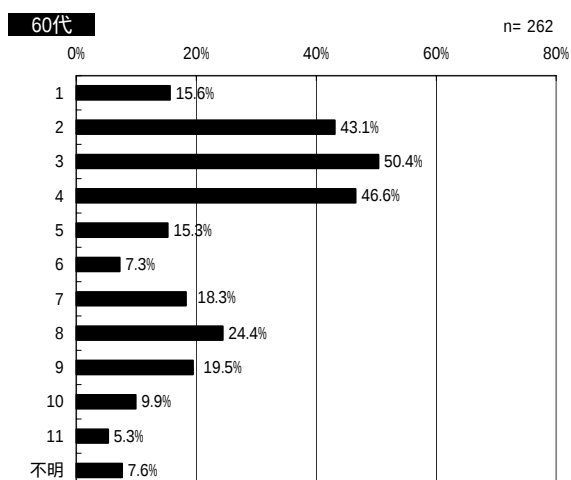
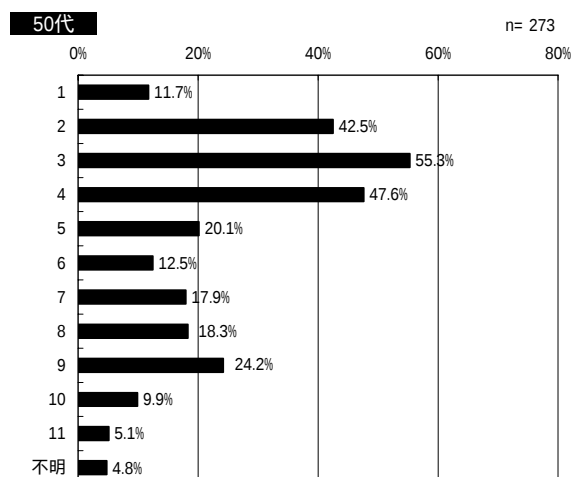
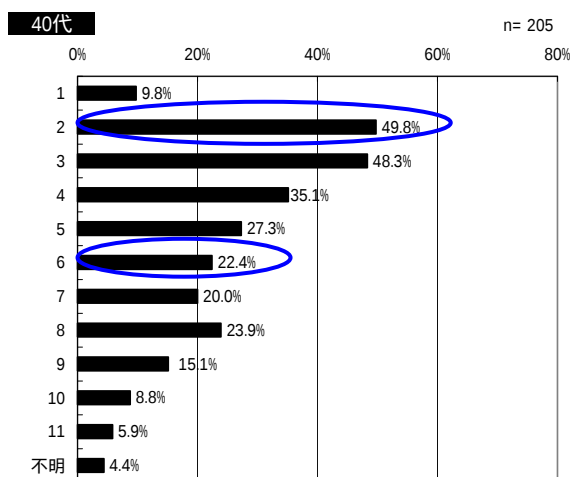
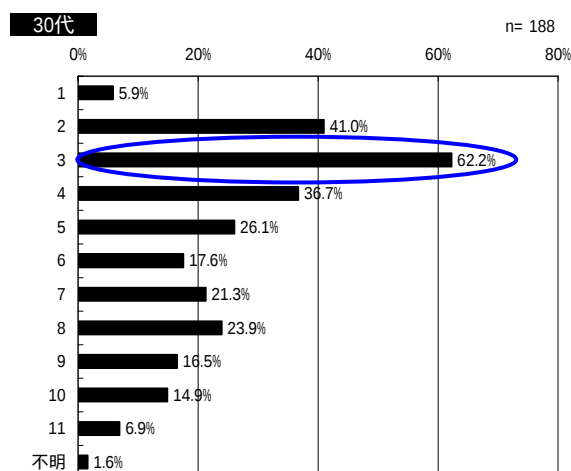
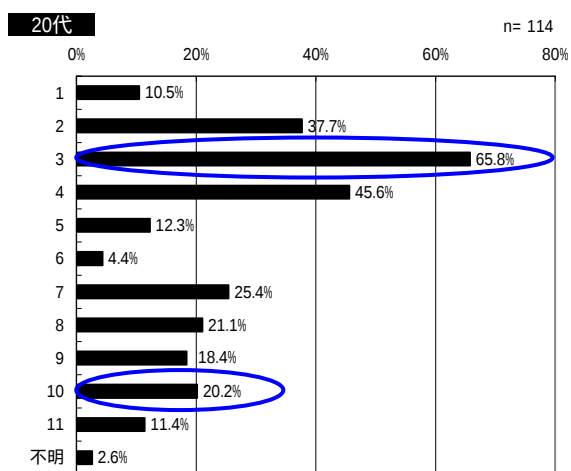
【年代別の傾向】

20代、30代で「3.実験や体験による学習」が特に高い。なお、20代では「10.子ども・親・地域による学校評価」も他の年代より高くなっている。

また、40代で、「2.学力不足を補う学習」「6.習熟度別や学習テーマなどによる少人数教育」が他の年代より高くなっている。

1. 学習の量を見直した、ゆとりのある学習
2. 理解度に応じた学力不足を補う学習
3. 知識だけではなく、実験や体験による学習
4. 地域の人や様々な技術をもった人が参加する授業
5. 一クラスの人数を少なくした少人数の学級編成
6. 習熟度別や学習テーマなどによる少人数教育
7. クラス間の競い合い、多くの友達関係が作れる学校の規模
8. 学習環境の向上に向けた学校施設の充実
9. 学校を自由に選べる学校選択制の拡充
10. 子ども・親・地域による学校評価
11. その他
不明

■ 年代別



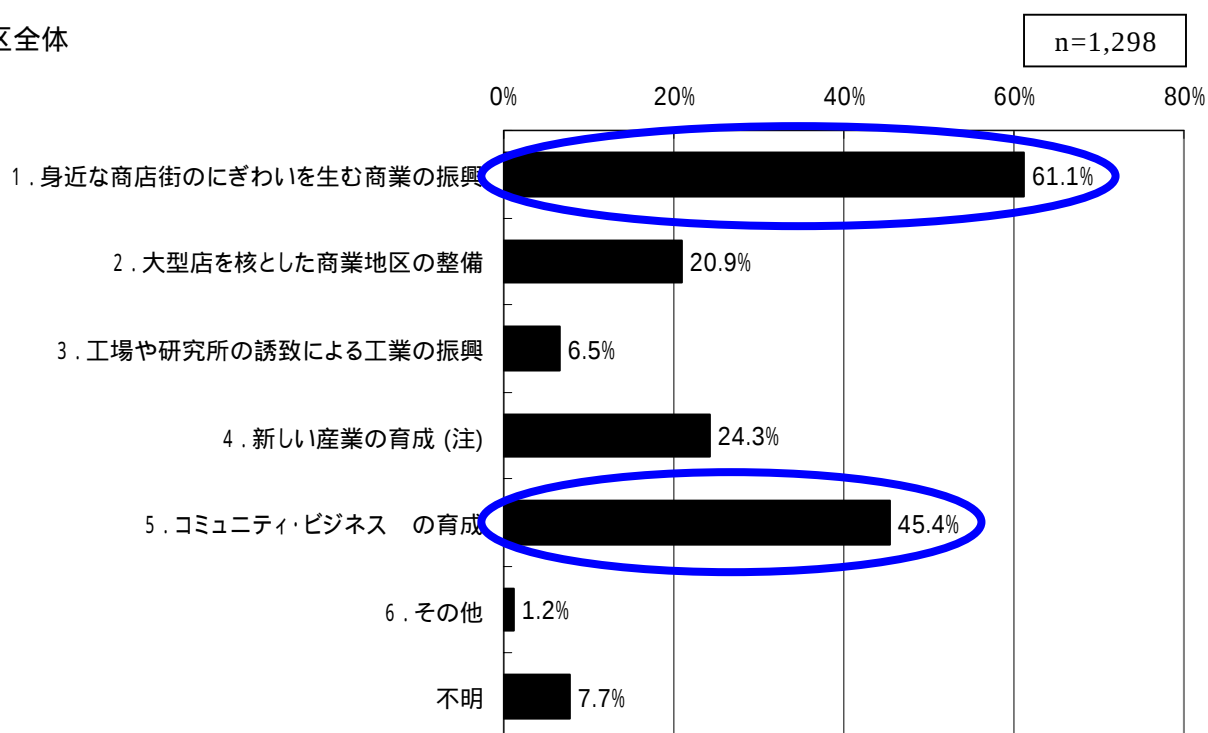
(3) 産業振興

問5 板橋区の産業振興として、どのような施策に力を入れるべきだと思いますか。あてはまる番号に○をつけてください。(○印は2つまで)

【区全体の傾向】

「1.身近な商店街のにぎわいを生む商業の振興」が61.1%(793人)と最も多く、次いで「5.コミュニティ・ビジネスの育成」の45.4%(589人)が高くなっている。
くらしを支える産業として、生活に身近な振興策に対する期待が高くなっている。

■ 区全体



(注)新しい産業の育成(ベンチャー企業の育成やインターネットを使った在宅などでの業務の支援など)

ベンチャー企業 : 専門技術等を駆使して新事業を起こす企業のこと。

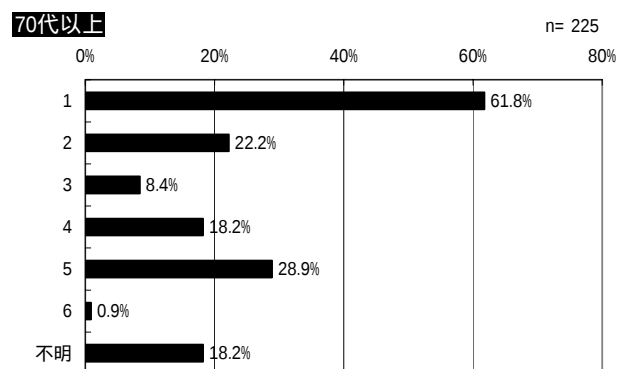
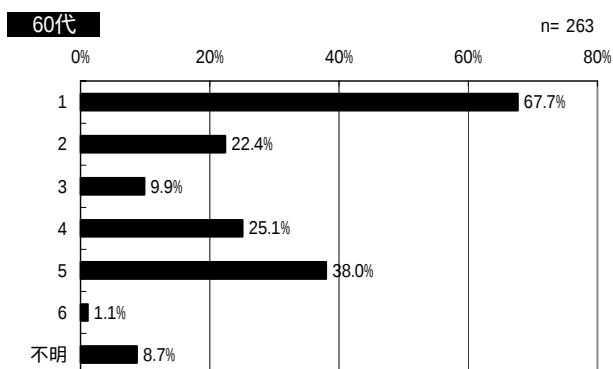
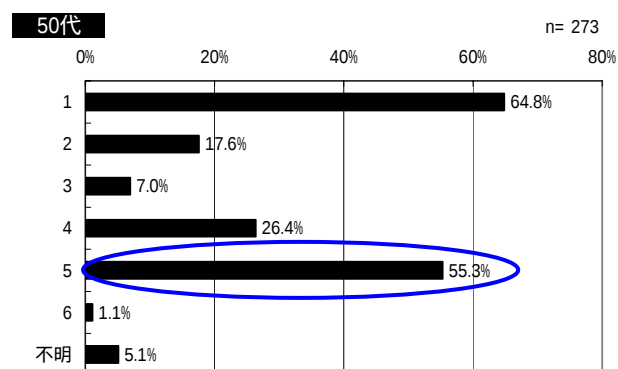
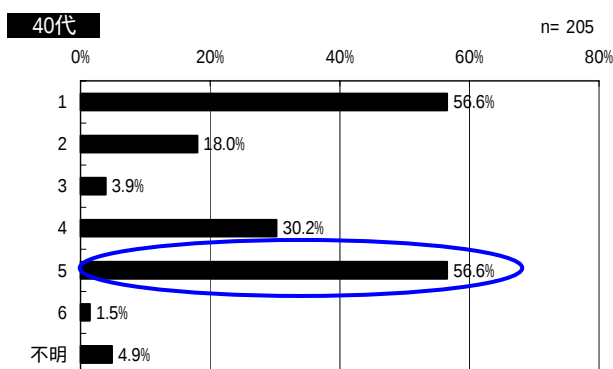
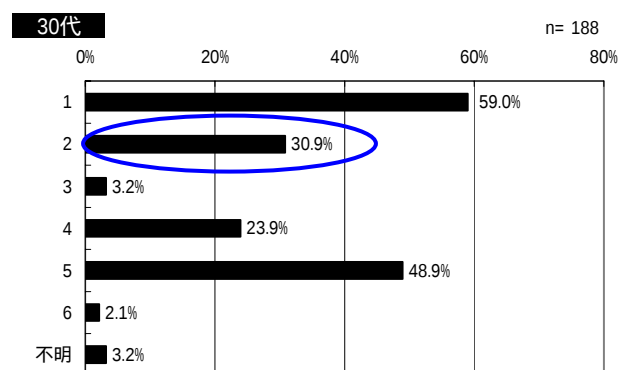
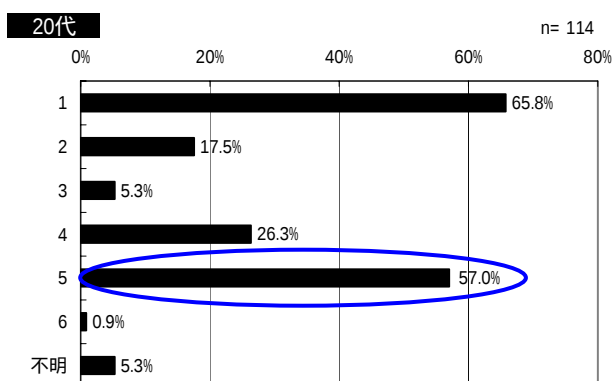
コミュニティ・ビジネス : 空き店舗対策・高齢者への配食サービスといった行政ではカバーしきれないサービスの提供など、地域の課題を解決するための地域に密着したビジネスのこと。

【年代別の傾向】

20代、40代、50代で「5.コミュニティ・ビジネスの育成」が特に高い。
また、30代では「2.大型店を核とした商業地区の整備」が他の年代より高くなっている。

1.身近な商店街のにぎわいを生む商業の振興
2.大型店を核とした商業地区の整備
3.工場や研究所の誘致による工業の振興
4.新しい産業の育成(ベンチャー企業の育成やインターネットを使った在宅などでの業務の支援など)
5.コミュニティ・ビジネスの育成
6.その他
不明

■ 年代別



(4) 高齢社会

問5 高齢化が進む中で、区は、どのような施策に力を入れるべきだと思いますか。あてはまる番号に、○をつけてください。(○印は2つまで)

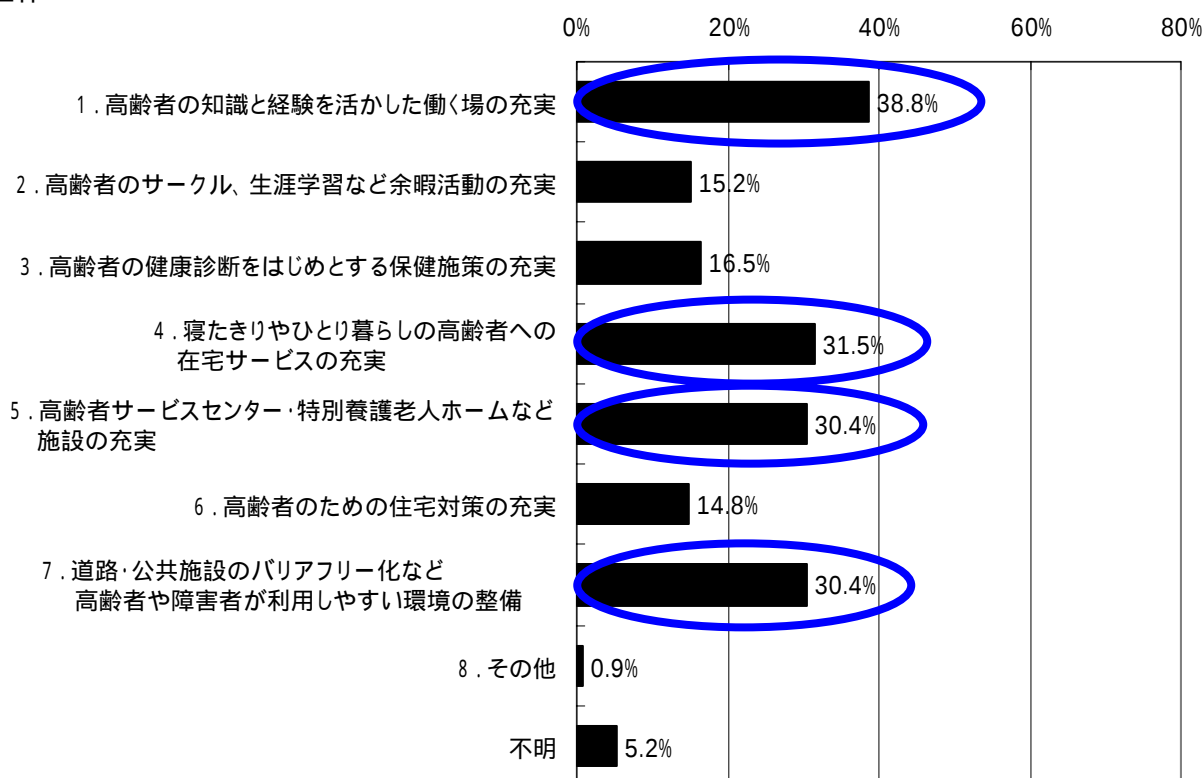
【区全体の傾向】

「1.高齢者の知識と経験を活かした働く場の充実」が38.8%(503人)と最も多く、次いで「4.寝たきり高齢者やひとり暮らしの高齢者への在宅サービスの充実」の31.5%(409人)、「5.高齢者サービスセンター・特別養護老人ホームなどの施設の充実」の30.4%(394人)、「7.道路・公共施設のバリアフリー化など高齢者や障害者等が利用しやすい環境の整備」の30.4%(394人)などが僅差で並んでいる。

元気な高齢者に対する施策と加齢に伴って必要となる生活支援の施策の充実について、併せて期待されている。

■ 区全体

n=1,298



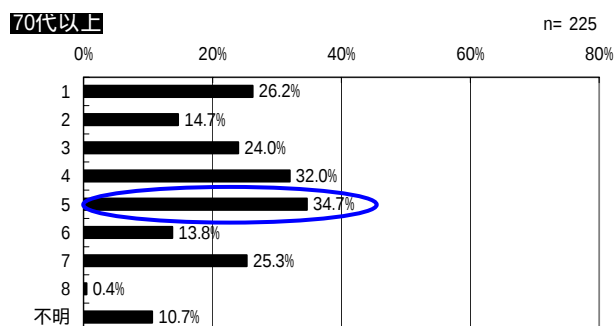
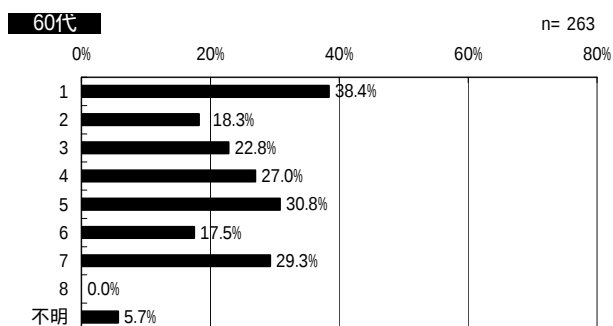
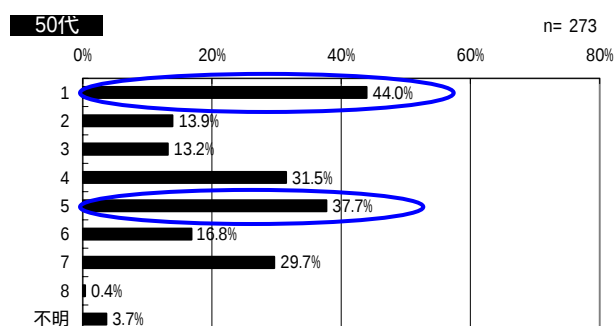
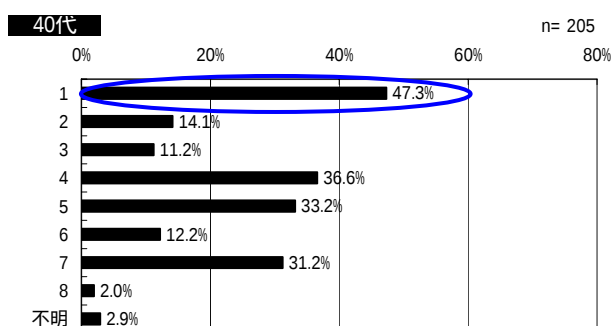
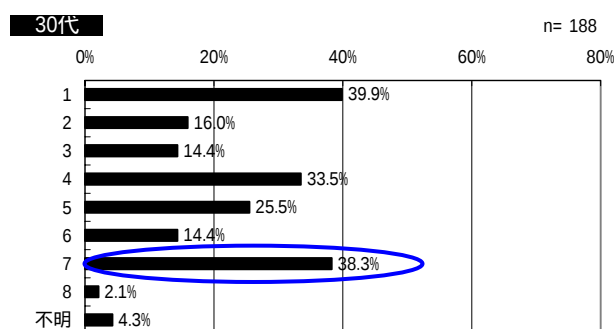
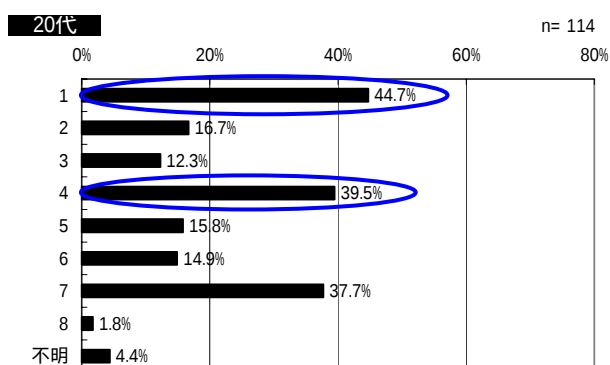
【年代別の傾向】

20代、40代、50代で「1 高齢者の働く場の充実」が高くなっており、50代・70代は、「5 高齢者サービスセンター・特別養護老人ホームなどの施設の充実」が高くなっている。

また、20代の「4.寝たきりやひとり暮らしの高齢者への在宅サービスの充実」や30代の「7.道路・公共交通のバリアフリー化など高齢者や障害者が利用しやすい環境の整備」が他の年代より高くなっている。

1. 高齢者の知識と経験を活かした働く場の充実
2. 高齢者のサークル、生涯学習など余暇活動の充実
3. 高齢者の健康診断をはじめとする保健施策の充実
4. 寝たきりやひとり暮らしの高齢者への在宅サービスの充実
5. 高齢者サービスセンター・特別養護老人ホームなどの施設の充実
6. 高齢者のための住宅対策の充実
7. 道路・公共施設のバリアフリー化など高齢者や障害者が利用しやすい環境の整備
8. その他
不明

■ 年代別

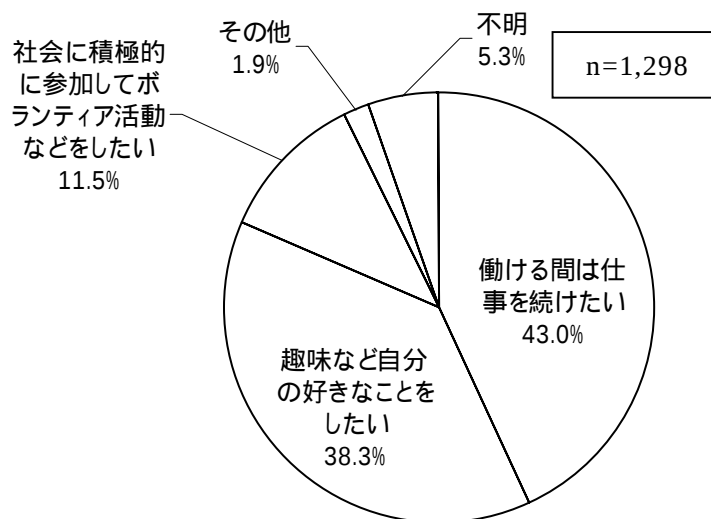


問5 あなたは老後の生活を、どのように過ごすことが望ましいとお考えですか。あてはまる番号に○をつけてください。(○印は1つだけ)

【区全体の傾向】

「働ける間は仕事を続けたい」が43.0% (558人)、「趣味など自分の好きなことをしたい」が38.3% (497人)と意見が二つに分かれている。

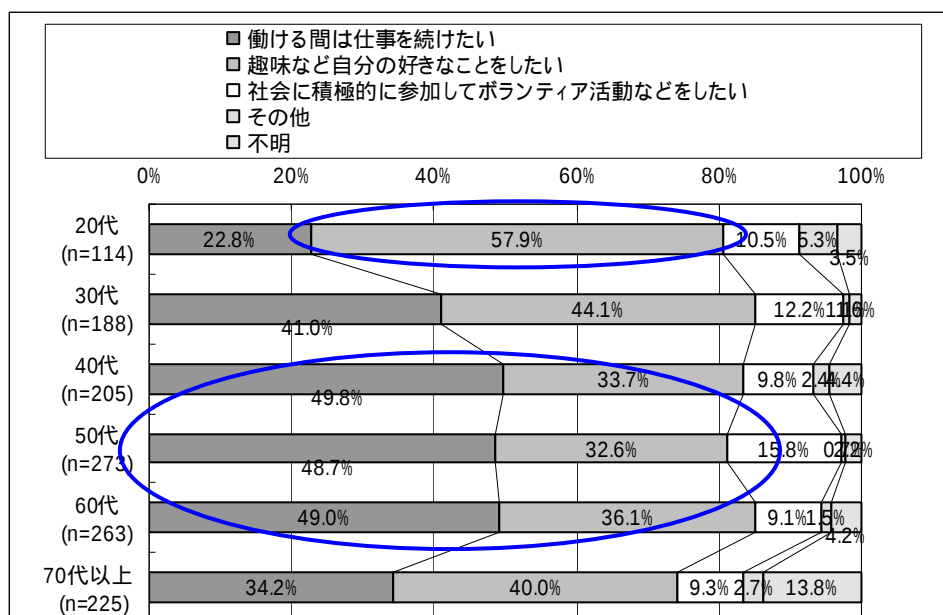
また、「社会に積極的に参加してボランティア活動などをしたい」は11.5% (149人)となっている。



【年代別の傾向】

20代では「趣味など自分の好きなことをしたい」という回答が非常に多くなっている。

40代・50代・60代では「働ける間は仕事を続けたい」という回答が「趣味など自分の好きなことをしたい」という回答を上回っている。



(5)「人のくらし」の将来像についての自由意見集計結果

問5 将来の「くらし」は、どうなっていればよいとお考えでしょうか。また、「くらし」が、将来、望ましいものとなるために、これから区と、区民のみなさんは、「どんなことに取り組むべき」でしょうか。ご意見を、お聞かせください。

■ 分析の方法

- ・ 自由意見欄に記入された各意見を以下のように分類して整理した。
- ・ 将来の望ましい「人のくらし」についての意見を、問1「生活に関する満足度」で設定した項目をもとに、分類した。
- ・ 問1で設定した項目に分類できない意見は、「その他」の意見として分類した。
- ・ 分類した意見の回答者数と、意見数を集計した。回答者数、意見数については、年代別の集計も行った。
- ・ 項目については意見数が多い順に並べ替えた。
- ・ 将来の望ましい「人のくらし」に関して、意見数が多かった項目について、各意見に記述されていた「どんなことに取り組むべきか」の主な意見を整理した。整理にあたっては、全年代に共通する意見と、年代別に特徴的な意見を整理し、紹介している。

以上の方法による、「人のくらし」についての自由意見集計・整理結果を次項に示す。

■ 分析結果

□ 全体集計結果

○ 自由意見の回答数集計結果

	20代		30代		40代		50代		60代		70代以上		合計	
	実数	割合(%)	実数	割合(%)	実数	割合(%)	実数	割合(%)	実数	割合(%)	実数	割合(%)	実数	割合(%)
回答者数	58	10.9	94	17.6	86	16.1	132	24.7	90	16.9	74	13.9	534	100.0
意見数	80	11.3	127	17.9	118	16.7	170	24.0	115	16.2	98	13.8	708	100.0

	実数	割合(%)
有効回答者数	1,298	
自由意見回答者数	534	41.1

○将来の望ましい「人のくらし」項目別意見数集計結果

回答者数： 534

項目	将来の望ましい「人のくらし」	20代	30代	40代	50代	60代	70代以上	区全体	割合(%)
12	高齢者・障害者が生きがいを持って社会参加できる	7	18	16	26	20	12	99	18.5
9	高齢者のための福祉サービスが整っている	6	8	15	24	20	16	89	16.7
21	健康で人間性豊かな子どもが育っている	8	16	15	26	8	13	86	16.1
25	地域社会にふれあいと交流がある	11	12	9	14	5	10	61	11.4
19	すべての人にとって働きやすい環境が整っている	7	10	11	15	10	7	60	11.2
14	子育てしやすい環境が整っている	8	11	8	11	4	7	49	9.2
22	家庭・地域・学校が協力して子育てに取り組んでいる	3	9	6	8	7	6	39	7.3
42	犯罪から守られている	5	5	8	5	7	5	35	6.6
16	魅力のある商店街が身近にある	2	8	5	3	5	4	27	5.1
6	健康づくりに取り組みやすい		4	3	5	3	2	17	3.2
13	すべての人が生活しやすいよう、バリアフリーのまちづくりが進められている	1	4	2	3	1	2	13	2.4
23	生涯学習に取り組むしやすい		2	2	4	3	2	13	2.4
49	身近なまちが快適で魅力のある生活空間である	2	2		3	2	2	11	2.1
36	まちづくりや区の計画づくりへの参加機会が充実している	1	2	2	3		1	9	1.7
35	ボランティア活動がしやすい		1	2	2	3		8	1.5
7	休日・夜間も含め、安心して医療が受けられる	1		1	1	1		4	0.7
47	自転車利用のマナーが守られている	1	1				2	4	0.7
3	まちなみや景観が美しい				1	1	1	3	0.6
11	子どものための福祉サービスが整っている	1	1	1				3	0.6
5	リサイクルが進んでいる					1	1	2	0.4
24	スポーツに取り組むしやすい				2			2	0.4
33	区政に関する情報を容易に得ることができる	1				1		2	0.4
37	区の職員の対応が良い		1		1			2	0.4
38	インターネットや電子メールなど情報通信技術が普及している	1	1					2	0.4
40	板橋区が他の自治体に比べて誇れると感じる	1			1			2	0.4
44	防災意識が高い				1	1		2	0.4
1	憩える公園や緑地があり、自然環境が整っている			1				1	0.2
4	ごみ出しのルール（分別・曜日・場所等）が守られている					1		1	0.2
10	障害者のための福祉サービスが整っている					1		1	0.2
18	農地が保全され、活用されている				1			1	0.2
32	男女が平等に社会活動に参加することができる	1						1	0.2
34	区政が身近だと感じる			1				1	0.2
39	板橋区に愛着を感じる			1				1	0.2
43	地震の時、建物倒壊や火災の延焼等の不安が少ない					1		1	0.2
45	電車やバスが便利に利用できる				1			1	0.2
46	身近な道路が安全である	1						1	0.2
48	住居の広さが十分である					1		1	0.2
50	その他	11	11	9	9	8	5	53	9.9
	合計	80	127	118	170	115	98	708	

* 割合は、区全体意見数の回答者数に対する割合

□年代別集計結果

○20代

回答者数 58

意見数 80

項目	将来の望ましい「人のくらし」	意見数	割合 (%)
25	地域社会にふれあいと交流がある	11	19.0
14	子育てしやすい環境が整っている	8	13.8
21	健康で人間性豊かな子どもが育っている	8	13.8
12	高齢者・障害者が生きがいを持って社会参加できる	7	12.1
19	すべての人にとって働きやすい環境が整っている	7	12.1
9	高齢者のための福祉サービスが整っている	6	10.3
42	犯罪から守られている	5	8.6
22	家庭・地域・学校が協力して子育てに取り組んでいる	3	5.2
16	魅力のある商店街が身近にある	2	3.4
49	身近なまちが快適で魅力のある生活空間である	2	3.4
7	休日・夜間も含め、安心して医療が受けられる	1	1.7
11	子どものための福祉サービスが整っている	1	1.7
13	すべての人が生活しやすいよう、バリアフリーのまちづくりが進められている	1	1.7
32	男女が平等に社会活動に参加することができる	1	1.7
33	区政に関する情報を容易に得ることができる	1	1.7
36	まちづくりや区の計画づくりへの参加機会が充実している	1	1.7
38	インターネットや電子メールなど情報通信技術が普及している	1	1.7
40	板橋区が他の自治体に比べて誇れると感じる	1	1.7
46	身近な道路が安全である	1	1.7
47	自転車利用のマナーが守られている	1	1.7
50	その他	11	19.0

○30代

回答者数 94

意見数 127

項目	将来の望ましい「人のくらし」	意見数	割合 (%)
12	高齢者・障害者が生きがいを持って社会参加できる	18	19.1
21	健康で人間性豊かな子どもが育っている	16	17.0
25	地域社会にふれあいと交流がある	12	12.8
14	子育てしやすい環境が整っている	11	11.7
19	すべての人にとって働きやすい環境が整っている	10	10.6
22	家庭・地域・学校が協力して子育てに取り組んでいる	9	9.6
9	高齢者のための福祉サービスが整っている	8	8.5
16	魅力のある商店街が身近にある	8	8.5
42	犯罪から守られている	5	5.3
6	健康づくりに取り組みやすい	4	4.3
13	すべての人が生活しやすいよう、バリアフリーのまちづくりが進められている	4	4.3
23	生涯学習に取り組むやすい	2	2.1
36	まちづくりや区の計画づくりへの参加機会が充実している	2	2.1
49	身近なまちが快適で魅力のある生活空間である	2	2.1
11	子どものための福祉サービスが整っている	1	1.1
35	ボランティア活動がしやすい	1	1.1
37	区の職員の対応が良い	1	1.1
38	インターネットや電子メールなど情報通信技術が普及している	1	1.1
47	自転車利用のマナーが守られている	1	1.1
50	その他	11	11.7

○ 40代

回答者数 86

意見数 118

項目	将来の望ましい「人のくらし」	意見数	割合 (%)
12	高齢者・障害者が生きがいを持って社会参加できる	16	18.6
9	高齢者のための福祉サービスが整っている	15	17.4
21	健康で人間性豊かな子どもが育っている	15	17.4
19	すべての人にとって働きやすい環境が整っている	11	12.8
25	地域社会にふれあいと交流がある	9	10.5
14	子育てしやすい環境が整っている	8	9.3
42	犯罪から守られている	8	9.3
22	家庭・地域・学校が協力して子育てに取り組んでいる	6	7.0
16	魅力のある商店街が身近にある	5	5.8
6	健康づくりに取り組みやすい	3	3.5
13	すべての人が生活しやすいよう、バリアフリーのまちづくりが進められている	2	2.3
23	生涯学習に取り組むやすい	2	2.3
35	ボランティア活動がしやすい	2	2.3
36	まちづくりや区の計画づくりへの参加機会が充実している	2	2.3
1	憩える公園や緑地があり、自然環境が整っている	1	1.2
7	休日・夜間も含め、安心して医療が受けられる	1	1.2
11	子どものための福祉サービスが整っている	1	1.2
34	区政が身近だと感じる	1	1.2
39	板橋区に愛着を感じる	1	1.2
50	その他	9	10.5

○ 50代

回答者数 132

意見数 170

項目	将来の望ましい「人のくらし」	意見数	割合 (%)
12	高齢者・障害者が生きがいを持って社会参加できる	26	19.7
21	健康で人間性豊かな子どもが育っている	26	19.7
9	高齢者のための福祉サービスが整っている	24	18.2
19	すべての人にとって働きやすい環境が整っている	15	11.4
25	地域社会にふれあいと交流がある	14	10.6
14	子育てしやすい環境が整っている	11	8.3
22	家庭・地域・学校が協力して子育てに取り組んでいる	8	6.1
6	健康づくりに取り組みやすい	5	3.8
42	犯罪から守られている	5	3.8
23	生涯学習に取り組むやすい	4	3.0
13	すべての人が生活しやすいよう、バリアフリーのまちづくりが進められている	3	2.3
16	魅力のある商店街が身近にある	3	2.3
36	まちづくりや区の計画づくりへの参加機会が充実している	3	2.3
49	身近なまちが快適で魅力のある生活空間である	3	2.3
24	スポーツに取り組むやすい	2	1.5
35	ボランティア活動がしやすい	2	1.5
3	まちなみや景観が美しい	1	0.8
7	休日・夜間も含め、安心して医療が受けられる	1	0.8
18	農地が保全され、活用されている	1	0.8
37	区の職員の対応が良い	1	0.8
40	板橋区が他の自治体に比べて誇れると感じる	1	0.8
44	防災意識が高い	1	0.8
45	電車やバスが便利に利用できる	1	0.8
50	その他	9	6.8

○ 60代

回答者数 90

意見数 115

項目	将来の望ましい「人のくらし」	意見数	割合 (%)
9	高齢者のための福祉サービスが整っている	20	22.2
12	高齢者・障害者が生きがいを持って社会参加できる	20	22.2
19	すべての人にとって働きやすい環境が整っている	10	11.1
21	健康で人間性豊かな子どもが育っている	8	8.9
50	その他	8	8.9
22	家庭・地域・学校が協力して子育てに取り組んでいる	7	7.8
42	犯罪から守られている	7	7.8
22	家庭・地域・学校が協力して子育てに取り組んでいる	7	7.8
16	魅力のある商店街が身近にある	5	5.6
25	地域社会にふれあいと交流がある	5	5.6
14	子育てしやすい環境が整っている	4	4.4
6	健康づくりに取り組みやすい	3	3.3
23	生涯学習に取り組むやすい	3	3.3
35	ボランティア活動がしやすい	3	3.3
49	身近なまちが快適で魅力のある生活空間である	3	2.3
23	生涯学習に取り組むやすい	3	3.3
49	身近なまちが快適で魅力のある生活空間である	2	2.2
3	まちなみや景観が美しい	1	1.1
4	ごみ出しのルール（分別・曜日・場所等）が守られている	1	1.1
5	リサイクルが進んでいる	1	1.1
7	休日・夜間も含め、安心して医療が受けられる	1	1.1
10	障害者のための福祉サービスが整っている	1	1.1
13	すべての人が生活しやすいよう、バリアフリーのまちづくりが進められている	1	1.1
33	区政に関する情報を容易に得ることができる	1	1.1
43	地震の時、建物倒壊や火災の延焼等の不安が少ない	1	1.1
44	防災意識が高い	1	1.1
48	住居の広さが十分である	1	1.1
13	すべての人が生活しやすいよう、バリアフリーのまちづくりが進められている	1	1.1
50	その他	8	8.9

○ 70代以上

回答者数 74

意見数 98

項目	将来の望ましい「人のくらし」	意見数	割合 (%)
9	高齢者のための福祉サービスが整っている	16	21.6
21	健康で人間性豊かな子どもが育っている	13	17.6
12	高齢者・障害者が生きがいを持って社会参加できる	12	16.2
25	地域社会にふれあいと交流がある	10	13.5
14	子育てしやすい環境が整っている	7	9.5
19	すべての人にとって働きやすい環境が整っている	7	9.5
22	家庭・地域・学校が協力して子育てに取り組んでいる	6	8.1
42	犯罪から守られている	5	6.8
16	魅力のある商店街が身近にある	4	5.4
6	健康づくりに取り組みやすい	2	2.7
13	すべての人が生活しやすいよう、バリアフリーのまちづくりが進められている	2	2.7
23	生涯学習に取り組むやすい	2	2.7
47	自転車利用のマナーが守られている	2	2.7
49	身近なまちが快適で魅力のある生活空間である	2	2.7
3	まちなみや景観が美しい	1	1.4
5	リサイクルが進んでいる	1	1.4
36	まちづくりや区の計画づくりへの参加機会が充実している	1	1.4
50	その他	5	6.8

□項目別の「取り組むべきこと」主な意見集計・整理結果

12 高齢者・障害者が生きがいを持って社会参加できる

20代

- ・元気なお年寄りがたくさんいると思います。仕事をしなくてもいい人もいます。危なくない公共の仕事（公道の植込みの草むしり等）を老人会に委託するなどできないでしょうか。
- ・高齢者・障害者が一人でも安心して暮らせるようなシステム（ボランティアへの援助強化など）をつくる。障害者も高齢者も、自分でできる事は自分でやりたいと思っているのではないのでしょうか？そんな方々への仕事の斡旋や住宅のサポートサービスなどがあったら良いと思います。
- ・高齢者と若い世代混合の地域ふれあいの会があると、さびしくない。子供を産んだばかりの母親は、元気なおばあさんが家事手伝いしてくれると助かります。二人の子供を育てる会社員は、おじいちゃんに昔遊びを教えてもらいながら、心豊かに育つ我が子の姿に、感動と感謝が生まれると思います。幼子が、中・高生に育ち、自分を育て、遊んでくれたときの経験が、高齢者が、やがて動けなくなった時、恩返しにつながる。一芸披露の場があったら目標を持って、生きていけるかも知れません。

30代

- ・シルバー世代の方々が、地域で仕事やボランティア等の活動をイキイキとしていらっしゃる姿を見るのは、子供達にも私達にもとても良い事だと思う。
- ・高齢者が生きがいを持って生活できるようなサークル活動、生涯学習ができるような施設を充実させてほしい。
- ・高齢者は、定年を迎える事によって人生の引退者となるのではない！ まだまだ、夢とパワーを持っている人はたくさんいる！高齢者と弱者へのやさしい社会づくりと、元気で健康な生き生き社会をつくり、技術と能力が有る人は若い人への後継、伝達する事が大事。それが社会全体の輪を生む。（どんな小さな内容でも良いと思う）

40代

- ・体が動く限り、趣味を追求し、街へ出かけ、美術館や観劇など文化的な刺激を受けて暮らしたい。そのため、交通の便を良くすること、区内の便のよいところに文化的施設をつくり、それが魅力的に活用されていると楽しい老後になりそうだ。
- ・人間は仕事をやめても人とのかわりの中で生活した方がいいと思うので、選択できるいくつかの組織を作って欲しい。例えば、この場所ではこのような活動をしており、違うところではまた別の活動があるというように、自分が選択できて目標に向かって組織として活動できる場所が欲しい。
- ・高齢者の一人暮らしが多いので、身近なところ（公民館や区民センター、学校の空いた部屋など）で、話したりできる憩いの場所を作ってあげられないでしょうか？1日中家の中に居るよりも少しでも外に出かけられるような環境を作ってあげられると良いと思います。
- ・70歳代の実母は一人暮らしのものの、趣味のサークル、ボランティア活動等に参加し、多くの仲間達とのふれあいとお付き合いがあります。生活の影響も考えられますが、たいへん健康です。こういった高齢者への活動の機会と場所などを、区はすすんで提供してほしいと望みます。それが、医療費削減にもつながるものと考えられます。少子化で空いた教室の有効利用を盛んに取り組んでください。

50代

- ・核家族化により、暮らしの中で子供やその親が高齢者との交流があまりないので、毎日のあいさつや他人を思いやる気持ちなどを育ててもらいたい。高齢者の方たちにも色々なつながりや生きる張り合いなどが出来来る様なくらして、たとえば「幼老合築施設」など保育園と養老施設が合併した様な物がいくつかあるといいのではないかと思います。
- ・老人が死ぬまで社会参加できるシステムを考え、健康、環境に配慮した、過度にならない行政サービスの提供、お金のかからない区政をめざすべきである。
- ・私自身、脳性マヒの身障者です。手が不自由で特に左手はほとんど力がなく、細かい事はできません。高齢になり、これからの生活が不安です。現在は体が動けるので、一人で生活ができていますが、また、障害者への偏見をなくし、人間は一人一人平等であり、価値も皆一緒だと思える社会を望みます。板橋をそういう町にしてもらいたいです。

60代

- ・自分でできる事で社会に貢献して、またその貢献を助ける人がいて、できるだけ自立できる社会が良い。
- ・仕事をやめても、高齢者でもできるボランティアをもっと増してほしい。何にもしないで家にいるとボケる気がする。
- ・高齢者が働きたい、スポーツを行いたいと思っても、身体の機能が衰える方が大きい。そのため、社会環境整備と、人の助け合う教育が必要と思う。公共交通、働く場所、また楽しいスポーツする環境整備を明確にし、気長に実行する。
- ・高齢者の健常者が積極的に係わって、自分が老齢化して他人や機関に世話になるまでは、自分が貢献できる状態の続く限り他の高齢者のために貢献することが必要である。従って、そのような活動を内容、程度、期間をポイント化し、自分が将来受けるサービスへの対価として貯蓄する制度の導入が望ましい。

70代以上

- ・高齢化社会を迎えるにあたり、第一線を引いた方も、労働力の一員として需要が高まると思われる。それぞれにニーズは多様化しておりますが、今まで培かって来た知的資源を活用できるシステム作りが必要かと思う。例えば、空き教室、空き店舗を利用して、地域に密着した、学童保育＋学習の補習、保育所と高齢者施設をつくり、同一施設での世代間の交流を行う。また給食サービス等、行政ではカバーしきれない部分のサービスの提供も担えるのではないかと思います。
- ・私もできるかぎり社会に参加をし、ボランティア活動を現在もやっている。できれば区民のみなさんにも積極的に参加されるようお願いしたい。

9 高齢者のための福祉サービスが整っている

20代

- ・介護施設も現在の状況では、自分が70代、80代になった時にどうなるんだろうと思い不安です。
- ・高齢社会である今、一人暮らしの方が多いと考える。その1人1人生活を知り、生活が十分に行われているのか、調査し、不足している部分は援助する必要がある。高齢者は、環境変化への適応はスムーズではなく、支援をまっている人は多いと思う。

30代

- ・一人暮らしの老人サポートも必要。地域ボランティアを組織するなどして、行政が率先して行ってほしい。民間の指導も必要。
- ・高齢化が進むので、施設やサービスを拡充し、待機する人がなくなるよう、また、困らないようにすべきと思う。

40代

- ・公共の施設で、地域ぐるみで、一人暮らしの老人の生活を支えていける何かを考えて欲しい。又、老人夫婦だけの家庭も増加すると思われるので、生きがいを持って暮らせる環境作りを考えてほしい。
- ・高齢者に対し、対応の良い施設、また反対に悪い施設等の声が聞えてくる。これから高齢化社会に向けて、職員の人材育成が望まれる。

50代

- ・本当に困っている高齢者に手厚いサービスをし、裕福な方、自立している方には補助のサービスは必要ではないのでは？なんでも平等では、高齢者自身が自立できなくなるのではないかとされます。
- ・寝たきり状態の希望者全員の入れる施設の充実。但し費用負担は年金内とする。

60代

- ・なるべく、自分でできる事は、人に頼まず生活して行きたいと思っていますが、先の事はなってみないと分かりません。大変不安に思っています。病気になった時がやはり心配です。保健施策の充実に取り組んでほしいです。
- ・私達のような民間のアパートに住んでいる者にとって、2年ごとの再更新は切実な問題です。高齢者はどこの不動産屋さんもいい返事のないのが現状です。今一番の望む事は、ほんとうに困っている高齢者の私達が終の住家を手に入れたと思う事です。住宅の相談問題を一番に取り組んで頂きたいと思います。
- ・特別養護老人ホームの収容人員の拡大と施設の充実を期待したい。

70代以上

- ・年金に拘らず、健康な間は地域とも積極的に結びつき、体が動かない状態になった時は遠慮なく社会に助けていただけたら良いと希望します。
- ・特別養護老人ホームも絶対数足りない。待っている人がたくさんいる。何とかして増設するのが急務である。

21 健康で人間性豊かな子どもが育っている

全年代に共通する意見

- ・ゆとり教育が進められているが、学力低下が心配であり、基礎学力を高める教育が必要。

20代

- ・最近、マナーの悪い子供が多いと聞きますが、見てみると、母親や父親が注意をまったくしていなかったり、常識のない人がとても多いです。子供は親を見て育ってしまうので、学校などでしっかりと教えられないものかと思います。
- ・子供達の学力低下が気になるので「ゆとりのある学習」ではなく、満たされる学習ができるようになってほしい。
- ・まだ独身ですが、もし子供ができたとしても、区や都や国に子供の教育を押しつけたり、逆に甘えて何もかもやってもらったりする気はありません。学校の先生達も、最近はおとなしいせいか、生徒の親のいいなりになりすぎていませんか？親がだらしがないので、1日の3分の1を子供が過ごす学校で、基本的な社会のルールを教えてあげるべきです。

30代

- ・少人数学級、補助教員をつける等、子どもたちに多くの目が行き届くようにしてほしい。
- ・学校を自由に選べる選択制度や、学校公開の開催はこれからも続けてほしい。少子化に対する学校の統廃合はさけ、その学校のやり方にあったものを取り組んでほしい。習熟度別にクラスを分けるのは差別の原因になりうる。物作りの技術をもった人の課外授業があってもいいと思う。畳屋さん、お米屋さん、勉強とは関係がなくても、物を作る工程や苦労などがわかっておもしろいのではないかなと思う。
- ・学校は“ゆとり”というだけで、土曜を休みにしてしまったような気がします。学校と地域がよく話し合い、土曜は地域へのボランティア活動や、体験学習等にあてた方がよいのではないのでしょうか。また、今、学校がどうなっているか、知る機会はありません。広報に載せるのでも良いのですが、インターネット上のホームページに載せて頂けると、いつでも参照できて良いと思います。
- ・乳幼児期の子どもの健全な発達に母親は絶対に必要だと思います。子どもは、母親と一緒にいられる安心感の中で心が育ち、成長してから心の安定につながっていくそうです。

40代

- ・学校でのしつけをきびしくし、将来の良い人材育成に力を入れる。
- ・日本の宝である子供達に、私達大人が言葉に出し、良い事、悪い事を共に話し合える様になれたらと望みます。
- ・少子化については、親業がきちんとできていない親が多いので、せっかく生まれてきてもしっかりと育てられなかったりで、子供もかわいそうな気がする。保健所だけでなく、子どもが生まれた家庭には、個々の家庭の状況に応じて専門のカウンセラーを訪問させるべきだと思う。学校でも子供の教育、特に心の教育に真剣に取り組んでくれる人材を教員として採用して欲しいし、教員の人材育成もしてもらいたい。親の思いが先生に伝わらなければ地域でよい子育てをしたくても功を奏しない。学童保育も学校と同様で、ただあずかり見てるだけではなく、保育園や幼稚園の時のように、その時期やっておかなくてはいけない、子供のしつけや遊びを指導員が教えていくべきだと思う。また、高齢者や障害者と一般の人がふれあう機会がないので、保育園や学校を通して積極的に行ってほしいし、お友達としての付き合いもできるようになれたらよいと思う。

50代

- ・すべてが、整っているから良いと言えるだろうか。不足の幸せというものがあるように思う。行政と区民は、前向きに将来のある子供達に不足の生き方を教える事が出来れば、人と人がもっと互いに支え合う社会になると思う。
- ・中学校の部活動などは全て先生にまかせるのではなく、外部の人を起用して学校単位から離れてブロック単位に指導するという部活動があっても良いのではないかな。
- ・学校も親もひたすら受験に力を入れすぎているために、本来あるべき子供の姿が失われている。一歩外に出れば車の往来が激しく、遊ぶ場所さえない町に将来の不安はつきません。少子化が進み、ますます過熱化する子供への過度の干渉は自立する子供の成長をさまたげ、社会の一員として成長する芽をつんでしまいます。子供が生き生きと力を発揮できるような環境作りを目指してほしいです。
- ・自分だけが快適に暮らせれば、どんな事をしてでも手に入れたいという傾向が広がってきていると思うので、2～3歳頃から、思いやる心とかやさしさ、協調性等を教えて欲しい(保育園等)。親も子供も人間らしく生きて欲しい。
- ・子どもがのびのび遊べる場所が減って来ていると思う。固定遊具を置くばかりではなく、自然に近い形の草むらや水場がある様な場所。また、ボール遊びや鬼ごっこ等ののびのびできる場所を作ってください。
- ・私自身、若い頃は母子家庭でした。ですから、子供を育てていく女性の気持ちは十分に理解しています。生活のために子供を育てるために働きました。しかし、現在は共働きする意味が「自分たちの要求を満たす」という所にあると思います。もっと親子関係が正面から向き合い、物ではなくても話が出来る親子関係でいたら良いだろうと思います。
- ・近年少子化の問題で、子供を預ける施設ばかりが増え、非常に残念に思っている。生み育てるためには、3歳頃までは、親が大切に育てる様な周りの環境を良くし(勤めている場合は育児休暇)ゆったりとした子育てをしてから又、職場復帰できる社会になってもらいたい。そうなれば高齢者になった時には、必然的に親を介護しようとする人間本来のやさしい気持ちで取り組める気がする。
- ・最近、未成年者の犯罪が特に目立つように思う。学校教育の見直しももちろん大切であるが、青少年と社会一般の人とのコミュニケーションを図る機会をつくり、悩みを持つ人の良き相談相手になれる機構をもっと拡充すべきであると思う。高齢者の知識と経験をもっと有効に利用できるのではないかな。これからの日本を支える若い人達を正しく導くことが重要な課題である。(道徳、マナーが非常に悪くなっている)

60代

- ・子ども達の問題は深刻になっています。学力の問題よりも、人格形成のところでのつまずきから学習意欲が持てない子ども達が増えてきています。今年度から中学にスクールカウンセラーが配置されましたが、小学校の中に問題予備群が多いことから小学校へのスクールカウンセラーの配置が必要です。他の区では少しずつ取り組んでいます。
- ・子供や若者のひきこもりなどが増えているのを感じます。援助のチャンスを広めてほしいです。
- ・少人数クラスは確かに目がいき届き一人ひとりを良く見られますが、競争意識がなくなり、依存度が強くなる傾向もあります。多くの生徒の中でもまれてたくましくなることも必要。人数が少ないと一人ひとりが分かりすぎて、レッテル化され、いじめや疎外感により自信喪失などの傾向もあります。あまり良いとは言えないと思う。
- ・学校の自由選択制は地域との連携ができなくなるのではないかと心配です。
- ・子育ては親がするのが基本。保育園、幼稚園が充実するのは良いが、働きたいからとか子育てが面倒だから預けてしまう親も最近増えているように思います。子供が大きくなって自分の思うようにならないと嘆く親のほとんどが小さい頃の子育てをしていないことが多いようです。就業時間の工夫、遅く出て早く帰るとか、3歳ぐらいまでは休業できるなどの制度ができると良いと思います。

70代以上

- ・小中学校教育の中で、道徳に関する教育を重要視してほしい。隣近所あるいは知っている人に会ったら必ず挨拶をする。おとしより、障害者に対しては思いやりの心を持ち、いつでも、反射的に席をゆずり、また、力添えをしてあげるよう自覚してもらうようにする。
- ・小学校は学校を自由に選べて児童の理解度に応じた教育をし、先生として地域の技術者等にも参加してもらい地域全体で教育に取り組む。

25 地域社会にふれあいと交流がある

全年代に共通する意見

- ・ 子供から高齢者まで交流できる場を充実する。学校の余裕教室を活用することなどが有効だと思う。

20代

- ・ 趣味やボランティア、健康づくりの活動をしやすい環境をつくり、若者と高齢者のコミュニケーションを活発にする。
- ・ 学校の設備を地域に開放し、生涯学習に活用する。図書室の開放などが有効。

30代

- ・ 小学校などの生徒が、特別養護老人ホームにボランティアにいくなど核家族化した家庭の子供が高齢者とふれあえるようにする。
- ・ 自分の子供が将来のことを考える時期なので、技術をもった方や高齢者の話をきける機会などを充実させたい。
- ・ 地域のつながりをもつために、区民一人ひとりが何かをする。行政依存ではなく、区民が主体的に活動の場をつくる。

40代

- ・ 高齢者のサークル活動の施設と保育園などの施設を一つにして、お年よりと、小さな子供が、ふれあえる環境をつくる。

50代

- ・ 各町内会に若い人の意見を入れ、皆で参加できる（ボランティアでも）色々なイベントなどを行い、すべての世代がコミュニケーションできる場をつくる。
- ・ 地域の中で、防犯、交通、教育など、ボランティア活動などで住民が主体的に活動の場を広げる。

60代

- ・ 朝の「おはようございます」のあいさつから、気持ちよくお互い声をかけあう地域にする。

70代以上

- ・ 高齢者の一人暮らしが多くなっており、コミュニティ・ビジネスなどを通じて地域の結びつきを強め、孤独死などが起きないようにする。

19 すべての人にとって働きやすい環境が整っている

全年代に共通する意見

- ・元気な高齢者に働く場を提供する。

20代

- ・働ける間は、たくさん仕事をして、休日は、心のゆとりある時間を送りたい。老後も楽しく暮らしたい。

30代

- ・やはり、税、年金制度が一番気になる場所ですが、すべての機関が動くためには仕方ないです。無駄遣いがなければ良いと思っています。現在、子供を1人でも欲しいと考えていますが、実際産まれた後の社会復帰はかなり難しいです。企業は、子どもがいると雇ってくれないケースが多くあり、区から企業への働きかけをしていただけるとありがたいと思います。
- ・戦後の高度成長期のときのように、働けばそれなりに生活が向上していく、収入が増え、“ゆとり”を感じられるようなくらしになればいいと思います。これからは、税負担が一方向的に増やされ、年金問題、介護保険の負担増と、全く良くなる要素がなく、不安で一杯です。これから、お金のかかる子供を抱え、住宅事情、収入の不安定さ、職場の不安定さを考えると、子供を産まない人が増えてもしかたないです。ただ、それでは日本はだめになってしまうので、板橋から全国に本当の意味の“ゆとり”を発信出来るように区政と区民がもっと近い距離で話し合いをできる場を提供してほしい。
- ・板橋区はボランティア活動が充実していると思いますが、一仕事としてなされるべきことがボランティアとして行われていることが多いと思います。ボランティアの精神は素晴らしいものだと思いますが、世の中の仕組みとして、ボランティアばかりが、充実してしまうのは、問題ではないかと思っています。本来労働には代価が支払われるものです。区はボランティアを助成・推進するのではなく、その活動が一つの仕事・労働としてなされるよう、助言・協力していくべきだと思います。

40代

- ・高齢者が経験を生かして、もっと働ける場所を提供して欲しい。

50代

- ・区内で消費できる産業や商業を立ち上げ、高齢者（技術、ノウハウの活用）と若者（活力、体力、能力）がともに働ける環境を作る。
- ・現在、主人はほとんど失業状態にありますので、毎日食べていくことで必死です。まだまだ家族を支えていかなければならない中高年の働ける場所をつくってほしいです。

60代

- ・働く場の確保をして、生涯現役でありたい。たとえボランティアであっても「生きがい」を認識する事ができる様でありたい。

70代以上

- ・シルバー人材センターがあるが登録した人全部に仕事が行き渡らない。もっとPRにつとめる。
- ・コミュニティ・ビジネスを、区がもっと支援しても良いと思う。特に、1人暮らしの高齢者にサービスの充実を。

14 子育てしやすい環境が整っている

全年代に共通する意見

- ・保育園に入れない待機児童がいるため、保育園不足を解消したい。保育園を増やすなどにより、働く親の支援を充実する。

20代

- ・若い親が増えていますが、中にはまだ大人に成りきれていない人が子育てをしているケースもあります。補助金や保育サービスの充実はとても助かると思います。それだけでなく、子育ての悩みを抱えた親が同じ問題を抱えている人達と話し合ったり、共に勉強したり出来るような場を提供してもらえると助かるのではないかと思います。
- ・少子化は、両親の共働きや経済的負担の不安など、さまざまな要因で進んでいると考えられる。親が安心して働けるように、徐々に保育所や手当などが増えてきていると感じるが、まだ、子供を育てる環境が十分でないと思う。それは、サービスや施設等の情報が少なく、良い環境であっても、身近に伝わってこないため、不安が多くなっていると考えられるからである。

30代

- ・知人が、「育児休暇後、子供を預ける保育園がまだ見つからない」と言っています。もうすぐ職場復帰をしなければならない状況の中、空きが見付からず、不安なことと思います。働く母親のために、もっと、子育て環境を充実させてほしいと思います。
- ・保育園の運動会はどこも日曜などにはしないのですか？他の区では区民の意見を取り入れて平日から、土、日にするようにしたところもあると聞きました。

40代

- ・就業環境の制度的なものが整っても運用する側の企業や夫の意識が変わっていかないと、女性の負担が重くなるだけ。地域ぐるみやあるいはマスコミの参加で、男性にも育児の楽しさと、その役割の重要性を世間に伝えていくことも必要だと思います。
- ・保育園の乳幼児一人あたりの保育単価はとても高いが、長い目でみれば、そのことによって、親が仕事を辞めずにすみ、卒園後も長期にわたり税金を納めることができる。質のよい保育環境を整備し、ファミリー層に魅力のあるくらしを提供することによって活力あるくらしにもつながっていく。
- ・若い人達が、安心して子供を産み育てられる保育所の拡充や、子育てのバックアップを充実させ、将来に希望を持てる社会にしてもらいたい。若い人達が、就業でき、安心して子供を産めるシステムを築くことが、区の活性化の第一歩だと思います。

50代

- ・子供をたくさん産める環境にする。（家賃の補助、保育園の増加、教員の質の向上、家庭のしつけ、安全な遊び場 など）。やはり、子どもが増えない事には、街が活性化しない。

22 家庭・地域・学校が協力して子育てに取り組んでいる

20代

- ・子供がのびのびとできるゆとりのある学習で、心にもゆとりを持ち世代間の交流を大切にする。核家族化が進むにつれて、子供と年配者のかかわりが薄くなるので、地域の中でそうした交流があればよい。
- ・老後も仕事か趣味か自分の好きなことをできる環境をつくる。そのためにも地域の人が学校の授業に参加したり、在宅で働けるようにし、仕事や趣味のできる場を増やす。

30代

- ・人同士の関係が、希薄になっている現況は好ましくない。小学校または中学校で、週に一度程度のペースで、一人暮らしのお年寄りを訪問し、話し相手、掃除の手伝い等をボランティアとするような教育をして欲しい。老人の孤独死も避けられるし、子ども達もボランティアを重ねることによって、困っている人を見たら、自然に手をさしのべられるようになるのではないだろうか。

50代

- ・学校と地域社会とに協力してもらい、いくつかの社会体験コースを作って、生徒が色々な社会見学（区内に限らない色々な職場）を行えるように、もっと力を入れたら良いと思います。区民も青少年用のセミナーを主催したりして、学校では学べない実社会のすぐれた技能、伝統、文化を伝えていって、教育に参加する。

42 犯罪から守られている

全年代に共通する意見

- ・最近、犯罪のニュースが多く、治安が悪くなっているを感じる。犯罪防止の取り組みを強化したい。

40代

- ・住民によるパトロール、警備会社の活用など。区役所にも犯罪被害者相談窓口を作る。専門家も参加して、告訴に値する事件は警察へ、その他でも住民に注意、警備員の一時配置などの防犯処置をする。
- ・特に女子の低学年の頃から、地域なり学校なりにおいて護身術のように身を守る方法を教える。自分自身はまず自分で守るという考え方が身に付けば国内とわず、外国でも役にたつ事だと思います。

70代以上

- ・子供たちや若い人の連れ去り事件や暴走する人達の不幸をなくしたいと思います。見掛けたら、声を掛けてお互い守らなくてはと願っております。それには、勇気が必要ですが、少しでも良い環境でありますように、また、幼い子供達の虐待のない社会であってほしいと願っております。周囲のコミュニケーションが大事だと思います。
- ・地域社会で安心して生活できる環境が望ましい。具体的には無人交番をなくし、犯罪の発生を防止するため、地域ぐるみの対策を立てる。

50 その他

全年代に共通する意見

- ・年金制度に不安を感じる。老後を安心して暮らせる年金制度にしてほしい。

第3部 将来像に対する意識

3 しゅみ

関連するテーマ：
区政の進め方、区と区民との協働、区民参加、男女平等 など

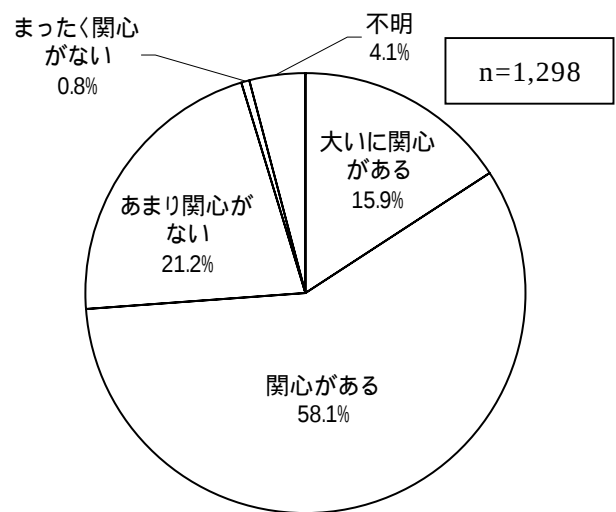
協働：相互の立場や特性を認めて、共通する課題の解決や、社会的目的の実現に向け協力すること

(1) まちづくりへの関心

問6 あなたは、板橋区のまちづくりにどのくらい関心がありますか。あてはまる番号に○をつけてください。(○印は1つだけ)

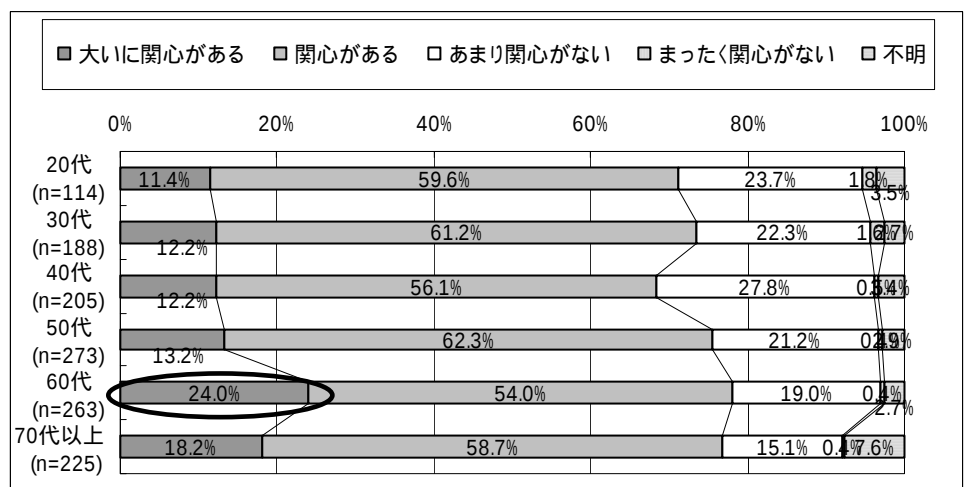
【区全体の傾向】

「大いに関心がある」が15.9%(206人)、「関心がある」が58.1%(754人)と、関心があるという回答が74%(960人)と多くを占める。



【年代別の傾向】

60代で「大いに関心がある」が24.0%(63人)という回答が他の年代と比較して多い。



(2) 区民意見の反映

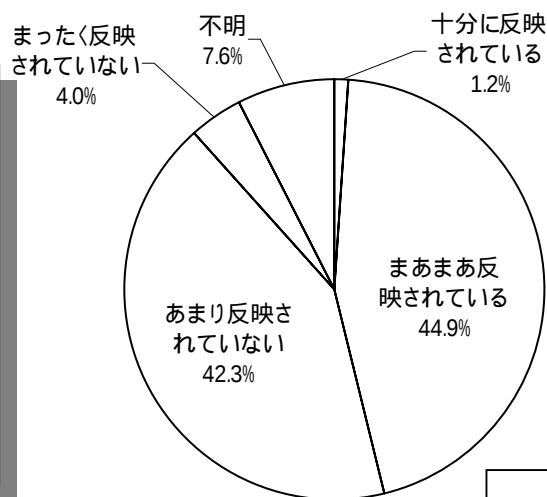
問6 あなたは板橋区のまちづくりについて、区民の意見が十分に反映されていると思われますか。あてはまる番号に○をつけてください。(○印は1つだけ)

【区全体の傾向】

「十分に反映されている」が1.2%(16人)、「反映されている」が44.9%(583人)と、反映されているという回答は、46.1%(599人)である。

反面、「まったく反映されていない」が4.0%(52人)、「あまり反映されていない」が42.3%(549人)と、反映されていないという回答は、46.3%(601人)である。

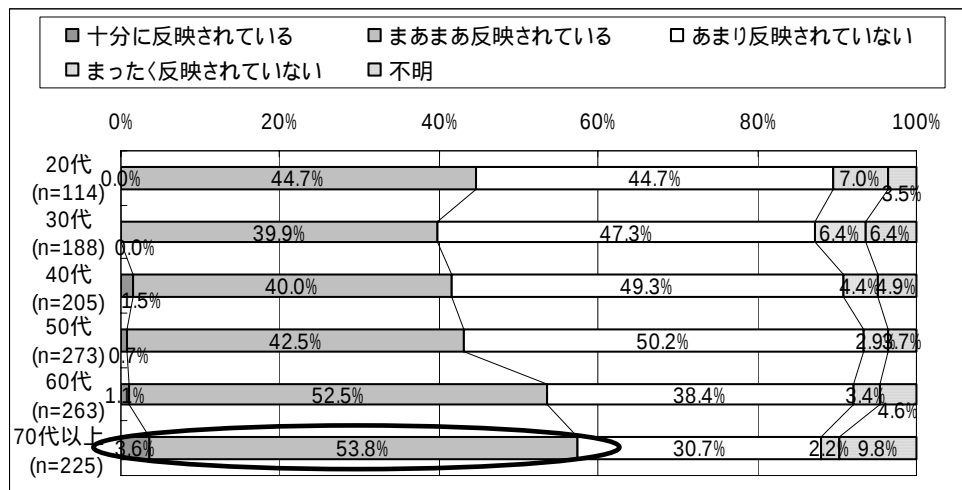
評価が二つに分かれている。



n=1,298

【年代別の傾向】

70代以上で「十分に反映されている」「まあまあ反映されている」と、反映されているという回答が一番多く、他の年代と比較して多い。また、全体的に年齢が上がるにつれて、反映されているという回答が多くなっている。

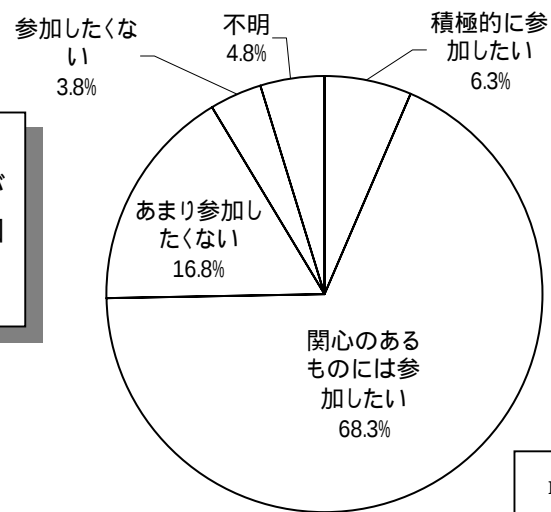


(3) 区民参加

問6 あなたは、区政に意見を反映させる機会があれば、参加したいと思いますか。あてはまる番号に○をつけてください。(○印は1つだけ)

【区全体の傾向】

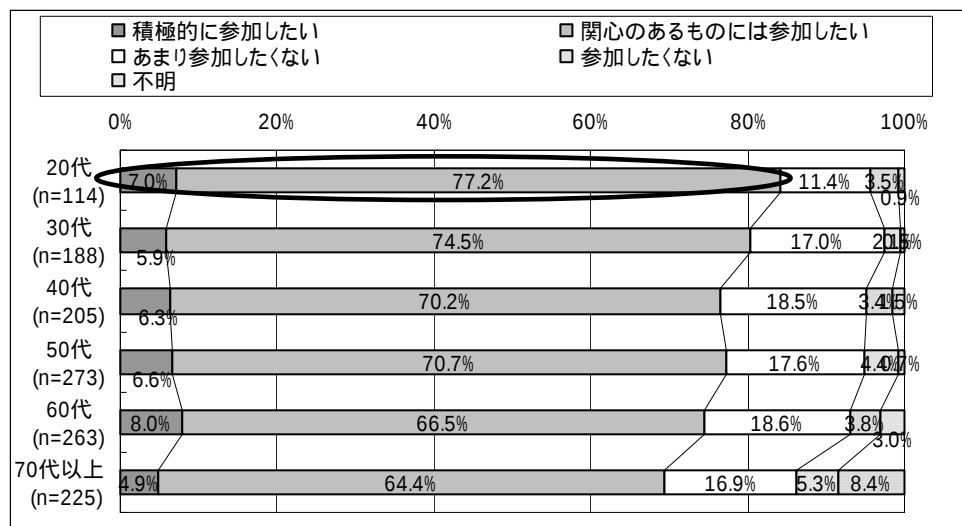
「積極的に参加したい」が6.3%(82人)、「関心のあるものには参加したい」が68.3%(887人)と、参加したいという回答が74.6%(969人)と多くを占める。



n=1,298

【年代別の傾向】

20代で「積極的に参加したい」「関心のあるものには参加したい」と、参加したいという回答が一番多く、年齢が上がるにつれて、参加したいという回答が少なくなっている。



(4) 区と区民との協働

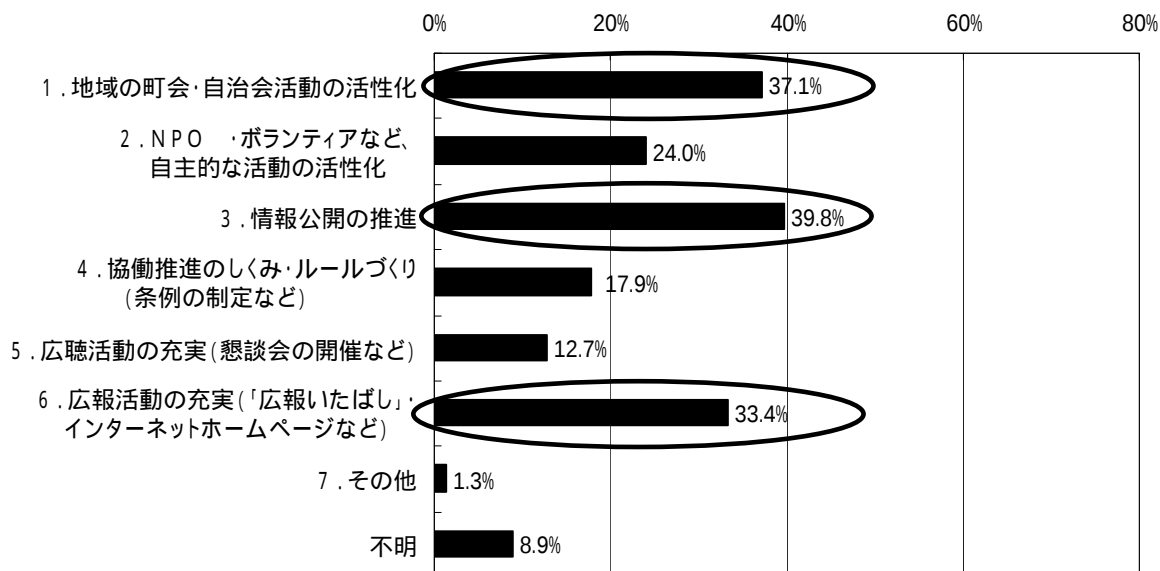
問6 区と区民が、協働してまちづくりを進めていくために、どのような取り組みを進めるべきだとお考えですか。あてはまる番号に○をつけてください。(○印は2つまで)

【区全体の傾向】

「3.情報公開の推進」が39.8%(516人)と最も多く、次いで「1.地域の町会・自治会活動の活性化」の37.1%(482人)、「6.広報活動の充実(「広報いたばし」・インターネットホームページなど)の33.4%(433人)となっている。

区政の情報公開、情報提供の充実が期待されているとともに、地域の町会・自治会活動の活性化を中心とした協働の取り組みが求められている。

n=1,298



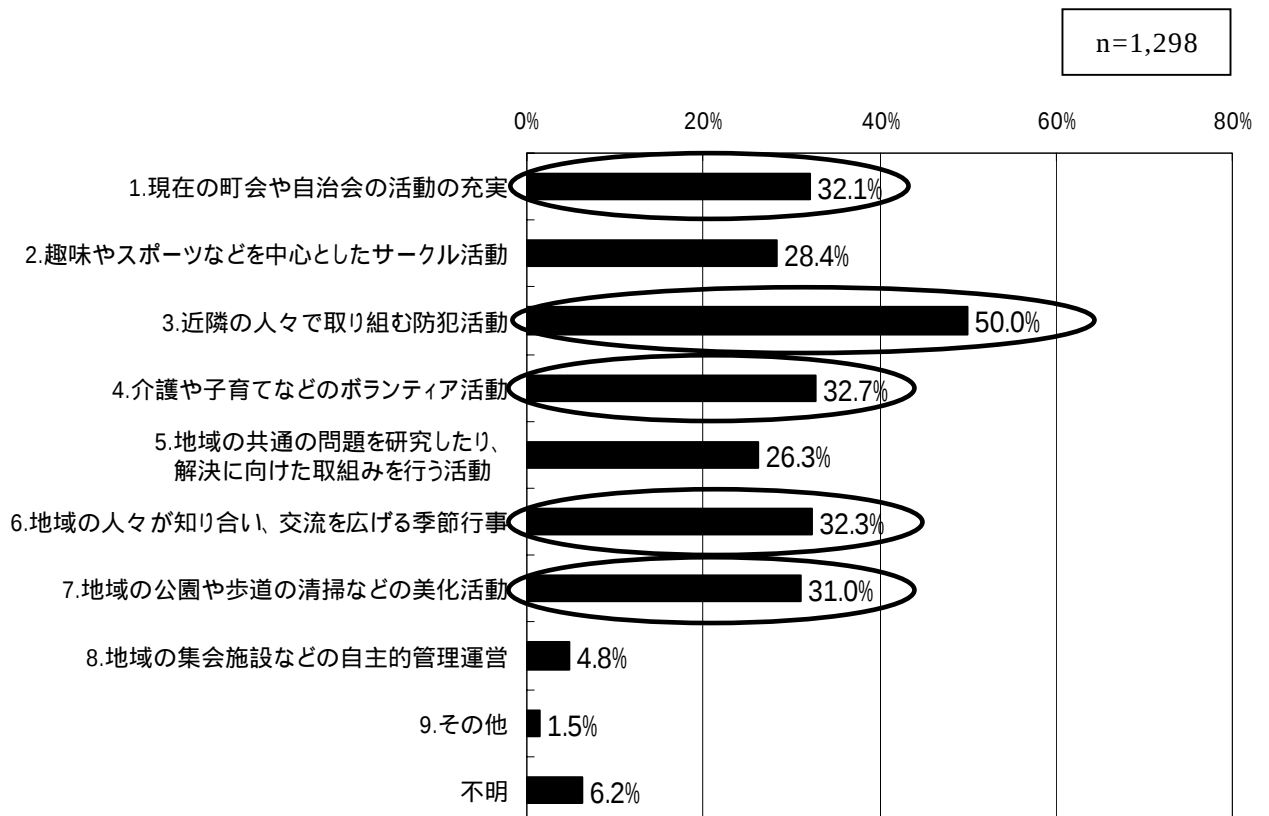
NPO：民間非営利の立場で独自の社会目的を掲げ、福祉や環境保全などの活動をしている組織のこと。組織はボランティアのみでなく、専従の有給スタッフを中心に運営を行っている場合もある。組織が法人格を取得するとNPO法人と呼ばれる。

(5) コミュニティ

問6 地域活動で今後、重要と思うものはどんなことでしょうか。あてはまる番号に○をつけてください。(○印は3つまで)

【区全体の傾向】

「3.近隣の人々で取り組む防犯活動」が、50.0%（649人）と最も多く、次いで「4.介護や子育てなどのボランティア活動」の32.7%（424人）、「6.地域の人々が知り合い、交流を広げる季節行事」の32.3%（419人）、「1.現在の町会・自治会活動の充実」の32.1%（417人）、「7.地域の公園や歩道の清掃などの美化活動」の31.0%（403人）などが僅差で並んでいる。



(6)「しくみ」の将来像についての自由意見集計結果

問6 まちづくりを進めるための望ましい「しくみ」は、将来、どうなっていればよいとお考えでしょうか。また、そうした「しくみ」が、将来、望ましいものとなるために、これから区と、区民のみなさんは、「どんなことに取り組むべき」でしょうか。ご意見を、お聞かせください。

■分析の方法

- ・ 自由意見欄に記入された各意見を以下のように分類して整理した。
- ・ 将来の望ましい「しくみ」についての意見を、問1「生活に関する満足度」で設定した項目をもとに分類した。
- ・ 問1で設定した項目に分類できない意見は、「その他」の意見として分類した。
- ・ 分類した意見の回答者数と、意見数を集計した。回答者数、意見数については、年代別の集計も行った。
- ・ 項目については、意見数の多い順に並べ替えた。
- ・ 将来の望ましい「しくみ」に関して、意見数が多かった項目について、各意見に記述されていた「どんなことに取り組むべきか」の主な意見を整理した。整理にあたっては、全年代に共通する意見と、年代別に特徴的な意見を整理し、紹介している。

以上の方法による、「しくみ」についての自由意見集計・整理結果を次項に示す。

■分析結果

□全体集計結果

○自由意見の回答数集計結果

	20代		30代		40代		50代		60代		70代以上		合計	
	実数	割合 (%)	実数	割合 (%)	実数	割合 (%)	実数	割合 (%)	実数	割合 (%)	実数	割合 (%)	実数	割合 (%)
回答者数	45	11.8	51	13.4	66	17.4	99	26.1	60	15.8	59	15.5	380	100.0
意見数	47	11.6	56	13.8	69	17.0	100	24.7	71	17.5	62	15.3	405	100.0

	実数	割合 (%)
有効回答者数	1,298	
自由意見回答者数	380	29.3

○将来の望ましい「しゅくみ」項目別意見数集計結果

回答者数: 380

項目	将来の望ましい「しゅくみ」	20代	30代	40代	50代	60代	70代以上	区全体	割合(%)
36	まちづくりや区の計画づくりへの参加機会が充実している	16	13	21	15	15	15	95	25.0
25	地域社会にふれあいと交流がある	7	11	16	26	17	15	92	24.2
33	区政に関する情報を容易に得ることができる	5	11	9	7	7	6	45	11.8
42	犯罪から守られている	2	5	2	2	8	3	22	5.8
35	ボランティア活動がしやすい	1	2	5	8	3	1	20	5.3
34	区政が身近だと感じる	3	1	4	7	1	3	19	5.0
12	高齢者・障害者が生きがいを持って社会参加できる			1	5	2	2	10	2.6
9	高齢者のための福祉サービスが整っている			1	3	3	2	9	2.4
38	インターネットや電子メールなど情報通信技術が普及している	1	4	1	2			8	2.1
49	身近なまちが快適で魅力のある生活空間である		1		2	3	2	8	2.1
44	防災意識が高い			1		2	1	4	1.1
2	空気や水がきれいで安心して生活できる	1			1		1	3	0.8
5	リサイクルが進んでいる	1	1			1		3	0.8
21	健康で人間性豊かな子どもが育っている		1		2			3	0.8
47	自転車利用のマナーが守られている				1	1	1	3	0.8
13	すべての人が生活しやすいよう、バリアフリーのまちづくりが進められている	1					1	2	0.5
19	すべての人にとって働きやすい環境が整っている					1	1	2	0.5
24	スポーツに取り組むしやすい				2			2	0.5
32	男女が平等に社会活動に参加することができる	1		1				2	0.5
37	区の職員の対応が良い				2			2	0.5
39	板橋区に愛着を感じる		1		1			2	0.5
4	ごみ出しのルール(分別・曜日・場所等)が守られている			1				1	0.3
6	健康づくりに取り組みやすい				1			1	0.3
7	休日・夜間も含め、安心して医療が受けられる						1	1	0.3
14	子育てしやすい環境が整っている				1			1	0.3
16	魅力のある商店街が身近にある				1			1	0.3
22	家庭・地域・学校が協力して子育てに取り組んでいる				1			1	0.3
29	国際交流が進んでいる			1				1	0.3
41	大雨が降っても水害の不安が少ない	1						1	0.3
45	電車やバスが便利に利用できる				1			1	0.3
46	身近な道路が安全である						1	1	0.3
50	その他	7	5	5	9	7	6	39	10.3
	合計	47	56	69	100	71	62	405	

* 割合は、区全体意見数の回答者数に対する割合

□年代別集計結果

○20代

回答者数	45
意見数	47

項目	将来の望ましい「しゅみ」	意見数	割合 (%)
36	まちづくりや区の計画づくりへの参加機会が充実している	16	35.6
25	地域社会にふれあいと交流がある	7	15.6
33	区政に関する情報を容易に得ることができる	5	11.1
34	区政が身近だと感じる	3	6.7
42	犯罪から守られている	2	4.4
2	空気や水がきれいで安心して生活できる	1	2.2
5	リサイクルが進んでいる	1	2.2
13	すべての人が生活しやすいよう、バリアフリーのまちづくりが進められている	1	2.2
32	男女が平等に社会活動に参加することができる	1	2.2
35	ボランティア活動がしやすい	1	2.2
38	インターネットや電子メールなど情報通信技術が普及している	1	2.2
41	大雨が降っても水害の不安が少ない	1	2.2
50	その他	7	15.6

○30代

回答者数	51
意見数	56

項目	将来の望ましい「しゅみ」	意見数	割合 (%)
36	まちづくりや区の計画づくりへの参加機会が充実している	13	25.5
25	地域社会にふれあいと交流がある	11	21.6
33	区政に関する情報を容易に得ることができる	11	21.6
42	犯罪から守られている	5	9.8
38	インターネットや電子メールなど情報通信技術が普及している	4	7.8
35	ボランティア活動がしやすい	2	3.9
5	リサイクルが進んでいる	1	2.0
21	健康で人間性豊かな子どもが育っている	1	2.0
34	区政が身近だと感じる	1	2.0
39	板橋区に愛着を感じる	1	2.0
49	身近なまちが快適で魅力のある生活空間である	1	2.0
50	その他	5	9.8

○ 40代

回答者数 66

意見数 69

項目	将来の望ましい「しぐみ」	意見数	割合 (%)
36	まちづくりや区の計画づくりへの参加機会が充実している	21	31.8
25	地域社会にふれあいと交流がある	16	24.2
33	区政に関する情報を容易に得ることができる	9	13.6
35	ボランティア活動がしやすい	5	7.6
34	区政が身近だと感じる	4	6.1
42	犯罪から守られている	2	3.0
4	ごみ出しのルール(分別・曜日・場所等)が守られている	1	1.5
9	高齢者のための福祉サービスが整っている	1	1.5
12	高齢者・障害者が生きがいを持って社会参加できる	1	1.5
29	国際交流が進んでいる	1	1.5
32	男女が平等に社会活動に参加することができる	1	1.5
38	インターネットや電子メールなど情報通信技術が普及している	1	1.5
44	防災意識が高い	1	1.5
50	その他	5	7.6

○ 50代

回答者数 99

意見数 100

項目	将来の望ましい「しぐみ」	意見数	割合 (%)
25	地域社会にふれあいと交流がある	26	26.3
36	まちづくりや区の計画づくりへの参加機会が充実している	15	15.2
35	ボランティア活動がしやすい	8	8.1
33	区政に関する情報を容易に得ることができる	7	7.1
34	区政が身近だと感じる	7	7.1
12	高齢者・障害者が生きがいを持って社会参加できる	5	5.1
9	高齢者のための福祉サービスが整っている	3	3.0
21	健康で人間性豊かな子どもが育っている	2	2.0
24	スポーツに取り組みやすい	2	2.0
37	区の職員の対応が良い	2	2.0
38	インターネットや電子メールなど情報通信技術が普及している	2	2.0
42	犯罪から守られている	2	2.0
49	身近なまちが快適で魅力のある生活空間である	2	2.0
2	空気や水がきれいで安心して生活できる	1	1.0
6	健康づくりに取り組みやすい	1	1.0
14	子育てしやすい環境が整っている	1	1.0
16	魅力のある商店街が身近にある	1	1.0
22	家庭・地域・学校が協力して子育てに取り組んでいる	1	1.0
39	板橋区に愛着を感じる	1	1.0
45	電車やバスが便利に利用できる	1	1.0
47	自転車利用のマナーが守られている	1	1.0
50	その他	9	9.1

○ 60代

回答者数 60

意見数 71

項目	将来の望ましい「しゅくみ」	意見数	割合 (%)
25	地域社会にふれあいと交流がある	17	28.3
36	まちづくりや区の計画づくりへの参加機会が充実している	15	25.0
42	犯罪から守られている	8	13.3
33	区政に関する情報を容易に得ることができる	7	11.7
9	高齢者のための福祉サービスが整っている	3	5.0
35	ボランティア活動がしやすい	3	5.0
49	身近なまちが快適で魅力のある生活空間である	3	5.0
12	高齢者・障害者が生きがいを持って社会参加できる	2	3.3
44	防災意識が高い	2	3.3
5	リサイクルが進んでいる	1	1.7
19	すべての人にとって働きやすい環境が整っている	1	1.7
34	区政が身近だと感じる	1	1.7
47	自転車利用のマナーが守られている	1	1.7
50	その他	7	11.7

○ 70代以上

回答者数 59

意見数 62

項目	将来の望ましい「しゅくみ」	意見数	割合 (%)
25	地域社会にふれあいと交流がある	15	25.4
36	まちづくりや区の計画づくりへの参加機会が充実している	15	25.4
33	区政に関する情報を容易に得ることができる	6	10.2
34	区政が身近だと感じる	3	5.1
42	犯罪から守られている	3	5.1
9	高齢者のための福祉サービスが整っている	2	3.4
12	高齢者・障害者が生きがいを持って社会参加できる	2	3.4
49	身近なまちが快適で魅力のある生活空間である	2	3.4
2	空気や水がきれいで安心して生活できる	1	1.7
7	休日・夜間も含め、安心して医療が受けられる	1	1.7
13	すべての人が生活しやすいよう、バリアフリーのまちづくりが進められている	1	1.7
19	すべての人にとって働きやすい環境が整っている	1	1.7
35	ボランティア活動がしやすい	1	1.7
44	防災意識が高い	1	1.7
46	身近な道路が安全である	1	1.7
47	自転車利用のマナーが守られている	1	1.7
50	その他	6	10.2

□項目別の「取り組むべきこと」主な意見集計・整理結果

36 まちづくりや区の計画づくりへの参加機会が充実している

20代

- ・地域の実情をきちんと把握した上でのまちづくり、いろいろな人の意見が入るように参加しやすい環境をつくる（例えば祭りの時に気軽に意見を集めるなど）。呼びかけや、インターネットを利用したり、時間が合わない人でも、参加しようと思えるように広く対応する。
- ・まちづくりに区民の意見がどの様に反映されたのか、過去の実例をあげて、どの程度、区と区民が、結びついているのか明確にして欲しい。
- ・今は一人ひとりが思っているものを意見として発表する機会がない。あったとしてもどこでやっているのかを知らないのに関心が薄い。広報紙やホームページ・携帯電話を使ってより多くの人が目にすることが大切だと思う。
- ・私もそうなのですが、若者が政治、地域活動への関心をなくしていると思います。親達もしかりです。教育の中でボランティア、政治、地域活動などの参加をうながし、将来、板橋区民みんながまちづくりに参加するようになるといいなと思います。
- ・自分達のまちなのに、人任せというか、まるで他人事のように。子供から大人まで、もっと区に対して興味を示すような、分かりやすく、楽しく体験できるような場があったら良いと思います。
- ・関心が区政に多く向けられ、活気がある板橋区となってほしい。関心は、いろいろな人々との交流を持つことで向上すると考える。交流の内容は、だれでもが容易にできるもの、入りやすい雰囲気が必要。高齢者向け、子供向けと機会を分けるのではなく、年齢にこだわらない交流が必要だと思う。
- ・区民としては、広聴活動に参加したり、広報活動に十分関心を持ちたいと思います。
- ・現在ある問題をいろいろと認識し、これらに対し、具体的にどうするかを、地域または区全体で解決するという体制づくりが必要。
- ・今回のアンケートを続ける。また、多くの人がアンケートに参加できるようにする。

30代

- ・環境悪を改善するために、区と区民が協力するような仕組みをつくるべきですが、“しゅみ”ということが難しく、やはり最初は“規則”をつくるしかないと思います。自主的な参加では、十分な効果は期待できません。
- ・指摘を受けた事の見直しと改善がすみやかに行われる。その報告が、指摘をした人に伝わる様になってほしい。
- ・区と区民の対等な立場の確立。アピールを最大にして、区と区民によるプロジェクトチームをつくる。
- ・どのような街づくりに向かっていくのか、互いの認識をひとつにする努力をしていきたい。区民一人ひとりが街づくりに思いをよせ、財政難から脱出すべく力を注いでいけたらきっとよいチャンスが見えてくると思う。「創意工夫を楽しむ」こと！
- ・区と区民の接点をもっと身近にしていく事が必要かもしれません。正直、私もお祭りに参加、行事に参加、いつでもお客さんです。「手伝ってください」、「こういうものがあるのですが、一緒にどうですか？」と、言っていただければ、考えるかもしれませんが、声をかけていただく機会がありません。
- ・「まちづくり」は誰かがやってくれる、行政が決めてくれると思っている人、それすら感じていない人が大多数だと思います（自分も含めて）。しかし、一人一人、「まち」がこうなればいいとか、現在の問題点については、考えているし、日々、感じていることがあると思います。

多少行政主導でも、より広い範囲の区民が何らかの形で地域活動や区政に関わるような機会を与えられるとよいかと思います。

- ・区民の活動が区政を大きく動かしたような具体例を、たくさん区報等に載せてアピールすれば、もっと関心を引けるのでは？強制的に区民に参加させるのは難しいでしょうから、希望が持てるPR活動が有効だと思います。

40代

- ・区民の意見を吸い上げ、区政にぶつけられる組織ができ、意見交換するなど、区民の意見がもっと反映できるようにする。
- ・区と区民が協働するのは、良い姿だと思うが、子育てや仕事に追われ、なかなか参加しようという気になれない。若年層も含めて、参加できる状況になると良いと思う。
- ・すべて区が制度として提供する形だと区民の自主性も生まれにくい。自主的活動、サークル活動、NPOなど、地域情報を広く知らせることが必要。また、自主的活動、NPOなど、活動をはじめたい人のためのアドバイス制度があるとよい。助けがほしい人、人の役に立ちたい人の情報がうまくマッチするように、そうした情報が1カ所に集まり、交通整理してくれるところがあるとよい。それは行政の役割でしょうか。
- ・いろいろな人の意見を聞き、反映しようとしている姿勢にとっても好感が持てる。コンピューターが普及し、インターネットで情報収集が簡単になったと思いますが、コンピューターが苦手なお年寄りの貴重な意見を活かすことを心掛けることも大切です。多くの人の声を聞いて欲しいですね。「ワークショップ」ってその場に行くのに勇気がいりそう！！

50代

- ・大きな意味での連絡網と言えるようなものが必要ではないでしょうか。どこに聞けばよいか、誰に言えばよいか、ハッキリと明確にする必要を感じます。そして、その立場の人は、即答できるほどの知識と資料を備えてほしいものです。
- ・今は私には、自由な時間、あまりないです。様々な活動に参加できませんが、この先、機会があれば、区民の一人として、興味を持ち、少しでも協力できることがあれば参加したいと思います。
- ・まちづくりの望ましい「しゅくみ」は、「ボランティア活動」「NPOと区の協働」「区の活動」の3つが横の連携で活動して、それらが区長、議会の下、有機的に組織化されていることだと思う。例えば、区のさまざまな公共サービスの素案に対して、インターネットを通じてより良いアイデアを公募し、最終的にいくつかに絞って、案に対して区民が電子投票する。又、行政の施策の結果評価に区民が電子投票で参加する。そういった結果をすぐ次の施策に生かせるスピーディーなしゅくみになっていれば良い。このために、区は以下のことを行う。 実力あるボランティア、NPOの育成に側面から助力する。 各区で共通の問題、テーマは各区合同で調査、研究して、重複のムダを省く。 区民（企業）が提案しやすい様に、区が持っている資料、情報の開示に工夫をする。 区民が取り組むべき事は、現状の区、ボランティア、NPO等の活動状況を知る事です。その上で区民もそれら機関と問題に応じて連携して、ネット上で問題の情報を共有し、共に問題解決にあたっていく事が必要です。

60代

- ・まちづくりは、大人だけでやるのではなく、子ども達の知恵も聞いて、とり入れてほしい。
- ・区と区民の交流の方法として、各町会や自治会を対象とする方法があるが、それ以外にも、若い母親などを対象とする方法もある。その第一として、区と幼稚園の父母。区と保育園の父母との話し合い。第二、第三として、小学校、中学校、高校のPTAの会員たちとの話し合いの場を設けたらよいのではないか。
- ・行政と地域との懇談会を月例で行うと良い。地域の参加者については、町会、自治会から何人などと決めると、限られた人しか出られない。また、切実にいろいろな問題を抱えている人が

出ていかれるような時間も考慮しないとむずかしい。新しく住民となった人の意見も吸いあげ、自由に参加して自由に意見がのべられる機会を設けることが重要です。

- ・この様なアンケートなど、もっと活用してほしい。この様なものがあるのを初めて知った。区外の祭りや行事に目がいていたが、板橋区は、この様に熱心に区民の為、意見を求めている事がよく分かった。

70代以上

- ・高齢者になると遠くまで行けないことがありますから、自宅の近くの出張所管内で、区の職員の方との懇談会が定期的にあつたら、大勢参加するのでは...と思います。
- ・区民と行政側とのコミュニケーションを十分行うための新しいシステムを作る必要がある。コミュニケーションの場を設けても、とすると行政側は責任を問われないよう、区民側は約束を取り付けようとする姿勢が強い傾向がある。この様な場はいくら持っても意味がない。お互いに本音の発言を行い、それが無責任かつ勝手な発言であってもそこから始めるが、議論の過程での発言はお互いに容認する事が出来なければ前進はないと思う。こうしたコミュニケーションの場をつくるには、行政側が区民に対して啓発を積極的に行う必要があり、行政側からの働きかけが第一歩だと思う。

25 地域社会にふれあいと交流がある

全年代に共通する意見

- ・町会、自治会活動の活性化をすべき。

20代

- ・区と区民で協力し、子どもやお年寄り、様々な人々が気軽に参加できるイベントを増やしてもらえると良い勉強になるし、近所にどんな人が住んでいるのか、知り合えると思う。街の防犯、近所の人々との連携、子どもの育成につながっていくと思う。
- ・今度、久しぶりに参加しようと思った地域のお祭りが、以前より活気のないものになってしまい、とても残念に思った。あまり情報が広まっておらず、狭い範囲内での行事になってしまっているようである。世代を超えて、人が集まる機会がないので、作っていくべきだと思う。
- ・地域の町会、自治会活動を活発的に行うことによって、交流が深まり住みやすい環境が生まれると思う。今、現在、町会や自治会活動が活発的に行われていると思うので、引き続き活動を行ってほしい。

30代

- ・高齢の単身者が増え、新しいファミリー層も増えても、互いに交流のないさびしい地域になってほしくないです。また、空店舗で次にまたお店ができるとしても住民からしては、好ましくないお店ができてしまうようでは商店街全体からみても死んでしまうので、やはりまちづくりには住民が気軽に参加できることが望ましいと思います。どの年代層でもありのままの板橋区の状況をいつでも知ることができるホームページ等の情報公開の推進を希望します。生の意見を書き込めるように。板橋区も広いのでホームページ上でも地区別のページを作ってみてはいかがでしょうか？それぞれの地域での特色もありますし、おもしろいかと思います。まちづくりについて他の地域ではどういうことを考えて実行しているのか、知ってみるのもいいかと思う。いろいろと参考にできることも多いかと思う。それも情報が入らないことには、目先でしか物が考えられないですから。
- ・自分たちの住むまちについての意識は、住んでいる人によって、かなり変わってくると思う。すでに、行動している地域もあるでしょうし、50年前と何ら変わらない所もあるのでは？行動している地域を参考に、そのような所が増えていけばよい。
- ・地域の交流が希薄になっている現在、地域の住民同志のコミュニケーションを積極的にとって

いく必要がある。最近の青少年犯罪や幼児虐待等、地域社会と関係が深くなることによって、未然に防げるケースが多くなるとされる。

40代

- ・区民が自主的に活動できる環境を整え、アイデアやバイタリティがあれば老若男女にかかわらず、活躍できるようにする。町会是一部の人達の活動に限られている感想をもつ。集合住宅も増え、町会にばかり活動をゆだねていたら、とりこぼしも増えると思う。
- ・地域の人々が知り合い、もっと交流を深める事ができる様、行事や、スポーツなど活動場所を増やす。また、誰でも気軽に参加できる様な内容の行事があったらいいと思う。
- ・種々な活動のために多くの人と組織を作るよりも、一般の人達と一しょに情報を公開しながら進めていくリーダーを増やしてほしい。
- ・地域の問題を自分達で考え、解決していく努力が必要。プライバシーを保ちながらも相互協力できる地域社会の形成。
- ・マンションがどんどん増加しているが、マンション内の交流もないところが多い。マンション住民の交流が図れるようにしたり、マンション住人と町会を結びつけたり、地域の活動に参加できたりする取り組みが必要。

50代

- ・本来は、町会、自治会活動は大事な事だと思うが、義務感で参加するという事も多い。隣人の顔も知らないという状況では防犯活動などはまったくできない。用事があり訪問しても居留守を使う人も多くなり、事前に訪問の予定を連絡してから伺うということもある。犯罪が多くなっている現在だからこそ、地域の人達との交流を盛んにする必要性が強くなっているのだが、非常に難しい事だと思う。
- ・良い町とは隣人同士助け合い、安心して生活していける環境だと思う。多くの人々が気軽に参加できる活動を増やしてほしい。若い人やおとしよりと一緒に楽しめるようなサークル活動やボランティアなど期待する。
- ・まちづくりというのは、結局、日本人のボランティア精神の浸透だと思う。まちの犯罪防止や、自治会の活性化は、昔のような住民のかかわり合いが必須。この両方の考え方を住民に示すには、いろいろなセミナーを開催する等、時間が必要だと思う。
- ・町会の活動は、いろいろな行事をこなす事も大切とは思いますが、若い世代も一緒に参加できる負担の少ない清掃作業がコミュニケーションの場になると思う。私達のマンションは、年に一度ですが、自分達の手で敷地内の草取りをして、その後消防訓練と懇親会を行い住人の顔を合わせる様にしています。もちろん、子供も参加です。
- ・町会や自治会の活動と近隣の交流。マンション等も多い為、なかなか交流や町会のしゅみなど理解できない状態もあります。
- ・従来の自治会ではなく、ある広がりのある地域において、テーマごとの問題解決のための集会（研究会等）を多く持ち、区民は、メンバーになることも、傍聴にまわることも可能なスタイルといった多くの人々が参加できるシステムを考えるべきである。そのためには、一層の情報公開が必要となる。
- ・地域はプライバシーと密接に結びついているので地域活動にはあまり積極的には参加したくない人もいます。しかし、地域はまた同時に一番身近で私たちの生活と大きなかかわりがあるので、本当は参加して住民の意見を反映させるべきものでもある。こういう人々の意向も反映しやすいしゅみを作ることも必要。例えば、集会場所に出向かなくても意見や意向を反映できるしゅみを作るなど。

60代

- ・地域の人々と交流したり、近所の方といろいろなことを話し合えたり助け合ったりしたい。区にも、もっと相談できれば良いと思います。
- ・私の住む地域では、自主管理運営の理想的環境がある。また、土曜、日曜日は緑のボランティアの方がご活躍されている。文化面でも大いに皆さんが活用しています。
- ・地域の町会・自治会を中心として、人と人とのかわりを多くし、顔見知りを増やすことにより、防犯、非行等の防止に役立つ。町会・自治会の世話役は大変ですから、良く話し合って、幅広い年代で多くの参加者を集めて行くと良いと思う。
- ・親子のふれあひも、土曜日、日曜日、学校の休みには、地域寺子屋事業を活用して、随分増えている。また、町会、自治会も老・若共に安全・安心な（防災・防犯）活動の場が増えてきている。自分達の手のとどく所は区と協働していきたい。
- ・近頃、町会活動は高齢者が中心で、若い人達の関心がほとんどない。「仕事があるから」と言われればそれまでだ。区民運動会、防災訓練、まつり、みんな高齢者が中心である。若い世代が出席してくれる様にしないと、町会等は機能しなくなる。行事の日程、場所等に考慮出来ないものか。区報等に若い人の参加を呼びかけてはどうか。
- ・次世代の若者が自然体にな社会や大人との関係に加わるしきみが薄れていると思う。よって、家庭崩壊、大人不信がある。幼児から家庭ルール、社会ルールも身でおぼえるコミュニケーションが必要でないか。家庭も忙しい時代、高齢者が多くなるので、学校教室一部開放して、コミュニケーションの場作りが有効と思う。

70代以上

- ・地域での共通した問題や、その解決に向けた取り組みは、ある程度組織力のある町会や自治会の活動を拡充し、地域のことは地域で解決するべき。例えば、地域の防犯活動、公園の清掃、高齢者、身障者の買物代行等のボランティア活動の推進といった、住民サイドで出来ることは自主的に運営努力する。
- ・地域に明るく活動できる場所があれば良いと思います。（施設の充実）
- ・町会、自治会活動の活性化のため、町会組織の若返りをはかる。長く居住している高齢者は、顧問的な立場で、町会運営の大勢について提言するにとどめ、若い世代を中心とした組織にする。小、中学校 PTA 役員を複数名、役員に入れ、子供の教育についても地域ぐるみの連携を行っていく。町会組織が地域の情報交換の場として、多くの職種の方に参加してもらうようにする。今の時代は、町会組織は上意下達の機関でなく、下意上達の機関として大いに活性化、充実させるべきである。地域選出の区議会議員に年2回くらい、町会役員会に出席していただくようにする。

33 区政に関する情報を容易に得ることができる

20代

- ・ ホームページを覗いた事があるが、見やすくよかった。ホームページや、広報紙では、プラス面だけでなく、マイナス面も記載し、意見の導入につとめるようにすれば良いと思う。
- ・ 情報公開の推進は、本当に重要だと感じている。そこから「板橋区を知る」につながり、共感、疑問が生まれ、新しい活動になることと思われる。
- ・ 区政に関心を抱けるような広報活動。話題づくりやイメージづくりをしてほしい。かたすぎず、くだけすぎず。とにかく人々の意識にまだまだ入り込む必要がある気がする。
- ・ 区がどのような条例を制定したかなどの情報が分かりづらいので、情報公開を推進してほしい。

30代

- ・ 世代により情報入手経路がまちまちなので、あらゆる人々が情報を共有できるように、さまざまな媒体で広報してください。
- ・ 鉄道の駅や、大型商業施設などに意見投函箱を設置し、区政をもっと身近にする。企業のように、区民の満足度を把握し、満足度を向上させる仕組み（区民参加型で）をつくっていくべきだと思う。
- ・ 政策、事業計画についての情報発信を、ホームページやメーリングリストで充実させる。ホームページ上でのアンケートも行う。

40代

- ・ 若い人にも参加できるようなイベントや、どんなことをやっているのかを知らせる広報活動を行う。
- ・ 区民税の使われ方を分かりやすく公表する。
- ・ 正確な情報公開と産業、福祉、教育の現場等の丁寧な実態調査をして、生の区民の生活の様子を把握してください。

50代

- ・ 年金・税金等は、若い人に身近な例を出して納付をうながす。興味がなければ参加しないので、選挙など、すべてのことをマンガにでもいいから、理解してもらう努力をすべきだと思う。
- ・ 出張所が年に1~2度、その地域の住民を対象に区の実態・問題点等を説明する機会を作る。そうしたら、もっと区に愛着が持てる様になる。
- ・ 区民の意見を反映した件について、その詳細を公表することが大切である。

60代

- ・ 区議会の活動、NPO 法人の活動等、理解しやすい方法（子供ニュースのような）で知らせてもらいたい。
- ・ 駅、町内などの掲示板に分かりやすくお知らせを掲示する。
- ・ 区民にアピールしたい情報については、区報特集号で適時知らせる。

70代以上

- ・ 区政の情報をいただき、町会・自治会と区民のみなさんと一体になってまちづくりに取り組んでいきたいと思います。
- ・ 高齢者が積極的に参加できるよう広報活動を活発にする。

42 犯罪から守られている

30代

- ・最近、自分の身近に犯罪が近寄ってきているように思う。夜は外で何か怖いことが起こっていると思い、一人で出た事は最近ありません。町ぐるみで、夜間のパトロールとかしているのをテレビで見た事があります。板橋区も事件が多発している区だと思うので、そうした活動に力を入れたらいいと思います。
- ・安全面での対策に重点を置いてほしい。近年、板橋区内においても、殺人、強盗等の凶悪犯罪が多発しており、その点で、子育て、特に子供をつくる事に対して、積極的になれない傾向が否めないと思う。この様な点の改善により、永住人口が増加し、ひいては長期的に見て高齢化の歯止めにもなると思う。

50代

- ・犯罪は町の汚れ（自転車放置、らくがき、ゴミの収集遅れ）等から発生します。マンションが乱立する昨今、「コミュニティ」が非常にむずかしくなっており、マンションにお住いの人達がもっと区政、まちづくりに参加できる機会があってもいいと思う。他区に無い、自転車整理、らくがき、ゴミのポイ捨て等のクリーン作戦も一つでしょう。

60代

- ・定期的に地域で防災・防犯訓練を行う。

35 ボランティア活動がしやすい

20代

- ・ボランティアに参加したくても、知る機会や参加するきっかけがないと、人数も集まらないと思う。広報活動の充実が必要。

30代

- ・子供が2歳になった頃、育児にも少しゆとりが出てきた時に、近所で通りすがりの赤ちゃんを連れのお母さん達を見るたびに、「大変そうだなあ、何かしてあげられる事はないかなあ...ストレスがあったら話だけでも聞いてあげたいのに」と何度も思いました。でも、見知らぬ人に、突然、声を掛けられても、怖がられちゃうな、と思って諦めてきました。多分、ボランティアっていうものは、そのレベルから始まるのだと思うのです。そこから先、何をすればいいのか、どこへ行けば人の役に立てるのが分からず、今に至ってしまいました。多分、私と同じ意見の方は多いと思います。自分に出来る小さな親切を娘と一緒にやっていければいいなと思っています。
- ・区民が自発的に参加できるボランティアや奉仕活動の機会を情報公開してもらいたい。また、率先して、こうした活動をしている人達への情報面でのバックアップを推進してもらいたい。高齢者を中心に地域社会に貢献したいと思っている人は多いはず。今後も<協働事業>をより積極的にアピールして、区民生活のレベルアップに結びつけてもらいたい。

50代

- ・子育てや介護には、ボランティア活動が必要だと思う。町内会や老人会がもっとボランティア活動をすれば良い。特に高齢者は時間があり、健康な人は社会奉仕に参加し、老人の生きがいをつくる。区の人件費も助かる。

60代

- ・アンケートに同封されていた参考資料を読むまでは、NPO やボランティア活動について知りませんでした。広報いたばしなどでもっと宣伝していただければ、私も参加できるものがあるのではないかと思います。
- ・高齢化に向かうことから、それぞれ得意分野を生かし、ボランティアを！現在も障害者センターで手づくりおもちゃを作っていますが、“活動の場”を提供してほしい。せっかくの、活動の芽を生かすことの出来る場がほしいです。やはり地域の活性化の為に人材育成と活動がいきいきと達成できるよう、行政のバックアップが必要と思います。いろいろの分野でボランティアをたくさん生かして助け合って生きることは、すばらしいことと思います。

38 インターネットや電子メールなど情報通信技術が普及している

30代

- ・ホームページから、各活動へリンクしてもらえると参照しやすいと思います。また、各公共施設へのリンクの拡充も望みます。
- ・区民によるインターネット区議会公開。区民によるインターネット会議。区民によるインターネットアンケート。区民テレビ開局。

50 その他

20代

- ・残念ながら、板橋の多くの人から、良識やマナーはなくなっているようです。ゴミや歩きタバコ、違法駐輪は、条例でもきちんと取り締まってほしいです。小さな犯罪が見過ごされるので、大きな犯罪も頻発し、町も汚くなってしまうのではないのでしょうか。
- ・ひとり親が多くなってきている世の中なので、ひとり親家庭への支援をもう少し考えてほしい。

30代

- ・板橋区内だけに目を向けるのではなく、より多くの他の地域と交流をもち、お互いのよい点を取り入れていく。他の国の大都会と比べ、東京は、規模も大きく、物や人も多い。もう少し、新しいものを作るにしても熟慮の上にすべきだ。大規模な整備・都市計画を考えずに、やたらめったら建物を建てるのではなく、住環境・道路環境・産業の発展と、すべてを考慮に入れることが必要。そのために、多くを見・聞・体験することを、区・区民に、取り組んでいただきたい。
- ・いわゆるアウトカム指標（成果指標）を明確にした計画の実施。更には、NPO や区民組織を活用した政策評価といった「しゅくみ」により、高い透明性を確保して進行管理システムを構築されることが理想。「最も取り組むべき」ことは、「互いに関心を持つこと」と考えます。

50代

- ・板橋区の中でも公共のサービス等で非常に落差のあるものがある。例えば、加賀、高島平等には、区のサービス施設、図書館、体育館等が充実しているが、私の住む相生町近辺にはない。区は地域の格差をもっとなくす努力をしてほしい。

60代

- ・区は、できることと、できないことをはっきりさせる。お互いの依頼心を除き、区民も当事者意識をもって自分としてやるべきことはやっていく。財政面では無駄な金の使い道を徹底的に明らかにして、大事な所に集中して予算を出すように。

第4部 その他自由意見の結果

問8 区政や区のまちづくりについて、ご意見を自由にお書きください。

■ 分析の方法

- ・ 自由意見欄に記入された各意見を以下のように分類して整理した。
- ・ その他の自由意見を、問1「生活に関する満足度」で設定した項目をもとに分類した。
- ・ 問1で設定した項目に分類できない意見は、「その他」の意見として分類した。
- ・ 分類した意見の回答者数と、意見数を集計した。回答者数、意見数については、地域別の集計も行った。
- ・ 項目については、意見数の多い順に並べ替えた。
- ・ その他自由意見において該当項目がなく、「その他」と分類した主な意見を整理した。
- ・ なお、問1「生活に関する満足度」で設定した49の項目に当てはまる意見の内容については、主に「まちの姿」「人のくらし」「しくみ」の自由意見項目にて記述のあった内容が多かったため、ここでは詳細を省いた。

以上の方法による、その他自由意見についての集計・整理結果を次項に示す。

■ 分析結果

□ 全体集計結果

○ 自由意見の回答数集計結果

	板橋		常盤台		志村		赤塚		高島平		合計	
	実数	割合 (%)	実数	割合 (%)	実数	割合 (%)	実数	割合 (%)	実数	割合 (%)	実数	割合 (%)
回答者数	88	21.5	68	16.6	87	21.3	86	21.0	80	19.6	409	100.0
意見数	118	19.3	105	17.2	127	20.8	132	21.6	129	21.1	611	100.0

	実数	割合 (%)
有効回答者数	1,298	100.0
その他自由意見回答者数	409	31.5

○ その他意見数集計結果

回答者数： 409

項目	将来の望ましい「まちの姿」						板橋	常盤台	志村	赤塚	高島平	区全体	割合 (%)
1 憩える公園や緑地があり、自然環境が整っている							8	6	9	10	11	44	10.8
36 まちづくりや区の計画づくりへの参加機会が充実している							6	7	10	7	9	39	9.5
42 犯罪から守られている							10	8	8	7	5	38	9.3
9 高齢者のための福祉サービスが整っている							2	5	7	7	6	27	6.6
33 区政に関する情報を容易に得ることができる							4	5	6	5	6	26	6.4
3 まちなみや景観が美しい							4	5	7	2	5	23	5.6
46 身近な道路が安全である							4	4	4	4	3	19	4.6
38 インターネットや電子メールなど情報通信技術が普及している							3	3	4	5	3	18	4.4
16 魅力のある商店街が身近にある							2	4	1	3	5	15	3.7
37 区の職員の対応が良い							2	3	2	6	2	15	3.7
47 自転車利用のマナーが守られている							3	5	2	2	3	15	3.7
14 子育てしやすい環境が整っている							3	1	2	4	3	13	3.2
2 空気や水がきれいで安心して生活できる							3	1	4	2	2	12	2.9
7 休日・夜間も含め、安心して医療が受けられる							1	3	3	2	3	12	2.9
25 地域社会にふれあいと交流がある							1	3	1	2	5	12	2.9
49 身近なまちが快適で魅力のある生活空間である							4	2	3	1	2	12	2.9
28 芸術文化に親しみやすい							1	2	3	3	1	10	2.4
4 ごみ出しのルール（分別・曜日・場所等）が守られている							1	2	2	1	3	9	2.2
13 すべての人が生活しやすいよう、バリアフリーのまちづくりが進められている							3	2	2		2	9	2.2
35 ボランティア活動がしやすい							1	3	2	1	2	9	2.2
21 健康で人間性豊かな子どもが育っている							2	2	1	1	2	8	2.0
10 障害者のための福祉サービスが整っている									3	3	1	7	1.7
11 子どものための福祉サービスが整っている									1	4	2	7	1.7
40 板橋区が他の自治体に比べて誇れると感じる							1	2	2	1	1	7	1.7
44 防災意識が高い								1		2	4	7	1.7
34 区政が身近だと感じる							4	1			1	6	1.5
39 板橋区に愛着を感じる							1	1	3	1		6	1.5
48 住居の広さが十分である							1	1		2	2	6	1.5
24 スポーツに取り組みやすい							1	1		1	2	5	1.2
43 地震の時、建物倒壊や火災の延焼等の不安が少ない								1	2	1	1	5	1.2
45 電車やバスが便利に利用できる							2	1		2		5	1.2
5 リサイクルが進んでいる							1		2		1	4	1.0
22 家庭・地域・学校が協力して子育てに取り組んでいる							1			1	2	4	1.0
23 生涯学習に取り組むしやすい								2		1	1	4	1.0
17 地域の工業に活力がある									1		2	3	0.7
27 歴史的文化財が保存・活用されている									1	1	1	3	0.7
6 健康づくりに取り組みやすい											1	1	0.2
12 高齢者・障害者が生きがいを持って社会参加できる							1					1	0.2
18 農地が保全され、活用されている											1	1	0.2
19 すべての人にとって働きやすい環境が整っている							1					1	0.2
26 伝統芸能が受け継がれている											1	1	0.2
50 その他							36	18	29	37	22	142	34.7
合計							118	105	127	132	129	611	

* 割合は、区全体意見数の回答者数に対する割合

□主な意見

- ・ 痛みを伴うぐらいの思いきった改革の推進。
- ・ 上に立つ人が他の人達にもまめに連絡を取り、良く話し合いを行う。
- ・ 経営刷新は、経営者、区役所が主体性、責任をもって自ら方向を示す。
- ・ 区民からの多くの要望の中で、出来るもの、出来ないものは、はっきりと説明する。
- ・ 良い事が1つでも2つでも実行できれば少しずつ良くなる。
- ・ できる政策は早く実施する。都合の悪いことを先延ばしない。
- ・ 区役所内にまちづくりチームを横断組織でつくる。
- ・ 環境、防犯、商工業の現状把握、交通（特に自転車の駐輪状況とその改善等）、警察との連携等、積極的に職員を活用し、現場の対応を重視する。
- ・ 区の職員の対応はたいへん良いが、異動が早くて、専門的なことがわからないことがある。専門分野の人材を必要な部署で常駐させる。
- ・ 区役所や出張所の人員をスリムにし、保育所の拡充など、本当に困っている分野にシフトすべき。公務員といえども、配置転換を積極的に押し進め、区民の生活レベルの向上に努める。
- ・ 税金を納めている者が、もっとメリットを受けられるようなサービスを充実させるべき。
- ・ 区政や街づくりに使われる（助成金、補助金など）税金について、必ず「監査」を行い、納得のいく使われ方をしているか確認できるようにする。
- ・ 住民投票によって判断しなければならないことが多い世の中になってきたので、議会の多数決による最終判断ではなく、修正が住民によってできるようなまちづくりが大切である。
- ・ 生まれ育った板橋には、愛着はある。生活には特に不自由を感じた事はない。アンケートにより今まで、区政に関する事に全く無関心であった自分に驚いた。
- ・ 今まで、仕事や家事に追われていて、区政やまちづくりについて、全く考えていなかった。アンケートのおかげで少しは目を向けることができた。